

第2章

介護保険サービス利用に関する調査

< 調査概要 >

調査方法	郵送配布－郵送回収・Web回答
調査対象者	65歳以上の要介護（要支援）認定を受け、施設サービス、認知症高齢者グループホーム、有料老人ホームを利用していない区民 （令和7年10月1日現在）
抽出方法	介護保険被保険者台帳より無作為抽出
調査期間	令和7年10月15日～11月10日
対象者数 及び 回収率	対象者数：1,400 有効回収数：772 有効回収率：55.1%

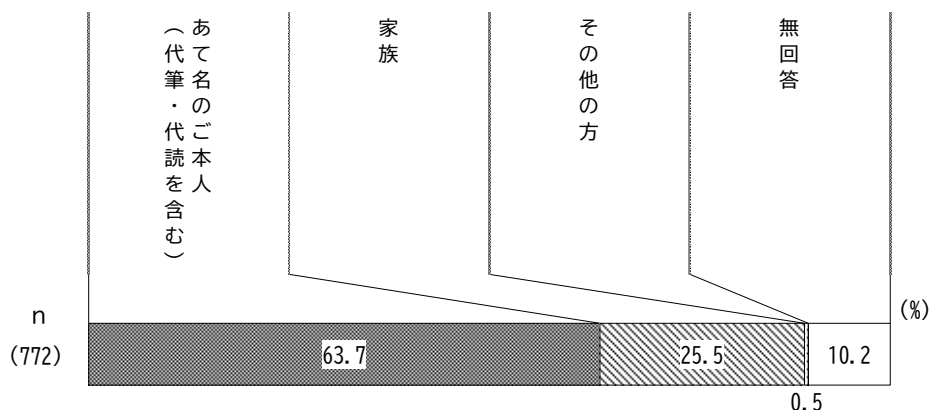
1 基本属性

(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)
 問2 あなたの性別、令和7年10月1日現在の満年齢をお答えください。

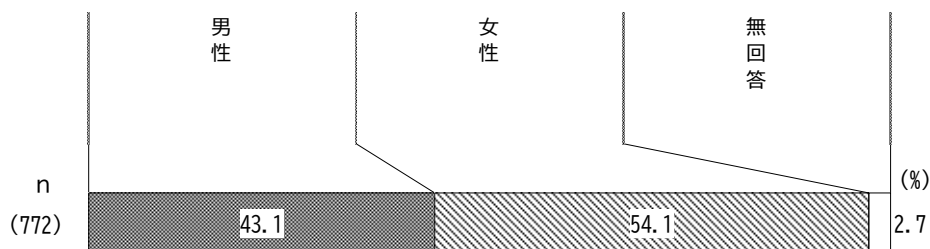
調査回答者は、「あて名のご本人（代筆・代読を含む）」が63.7%となっている。

図表1-1 調査回答者（単数回答）



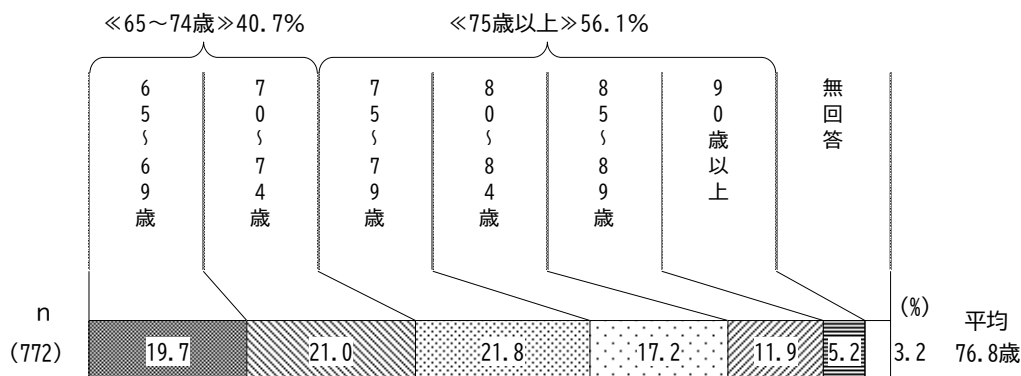
性別は、「女性」が54.1%で「男性」の43.1%より11.0ポイント高い。

図表1-2 性別（単数回答）



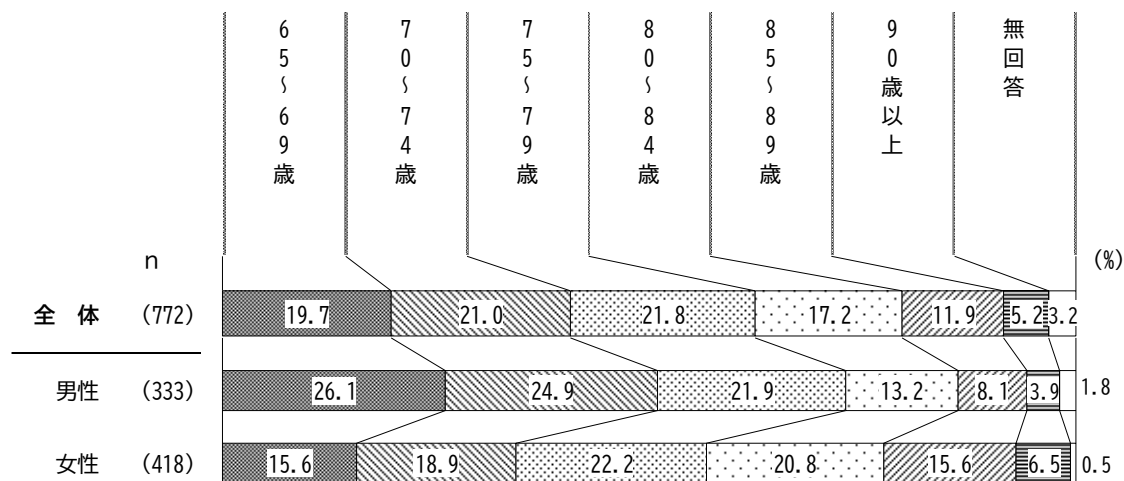
年齢は、「75～79歳」が21.8%で最も高く、これに「80～84歳」（17.2%）、「85～89歳」（11.9%）、「90歳以上」（5.2%）を合わせた「75歳以上」は56.1%である。一方、「65～69歳」（19.7%）と「70～74歳」（21.0%）を合わせた「65～74歳」は40.7%となっている。平均は76.8歳となっている。

図表1-3 現在の満年齢（単数回答）



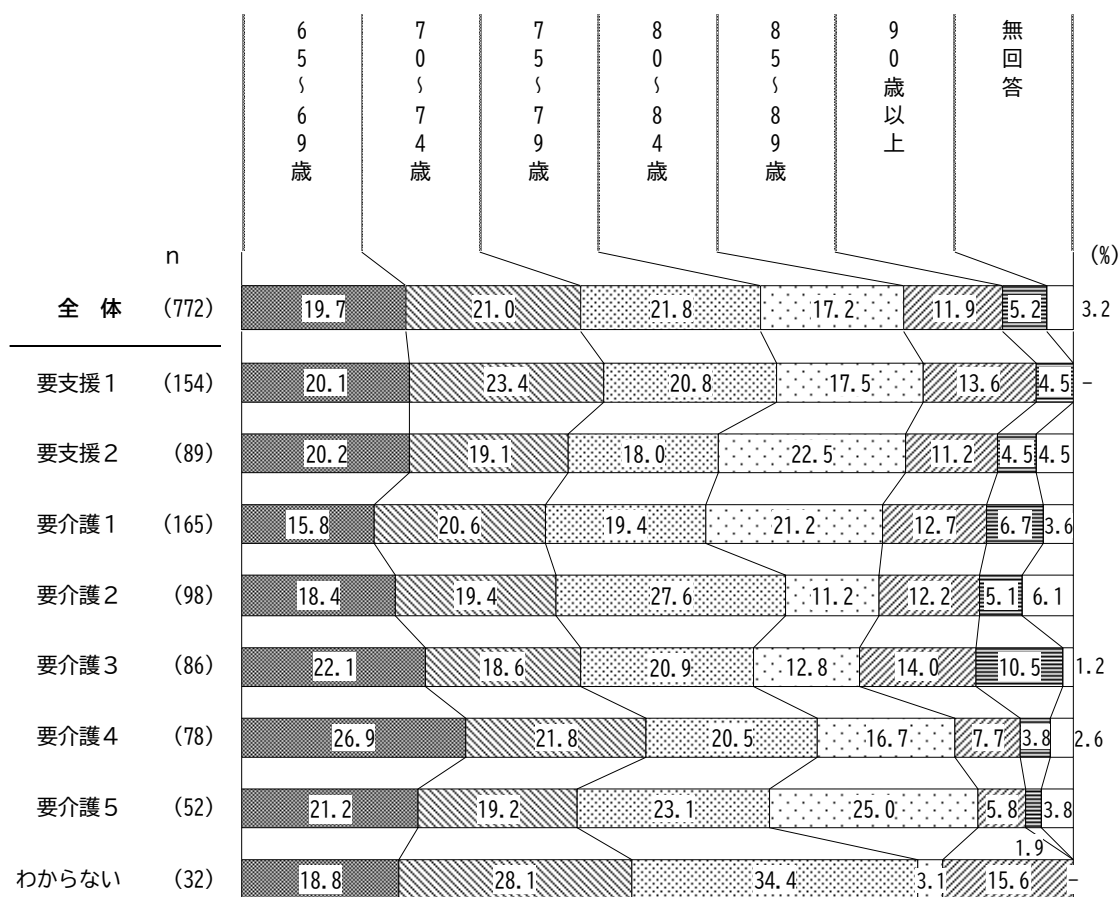
性別でみると、「70～74歳」で男性（24.9%）の方が女性（18.9%）より6.0ポイント高く、≪65～74歳≫でも男性（51.0%）の方が女性（34.5%）より16.5ポイント高くなっている。一方、≪75歳以上≫は女性（65.1%）の方が男性（47.1%）より18ポイント高くなっている。

図表1-4 現在の満年齢/性別



要介護度別でみると、要介護4を除く各介護度で≪75歳以上≫は≪65～74歳≫より高くなっている。要介護4では≪65～74歳≫≪75歳以上≫はともに48.7%となっている。

図表1-5 現在の満年齢/要介護度別



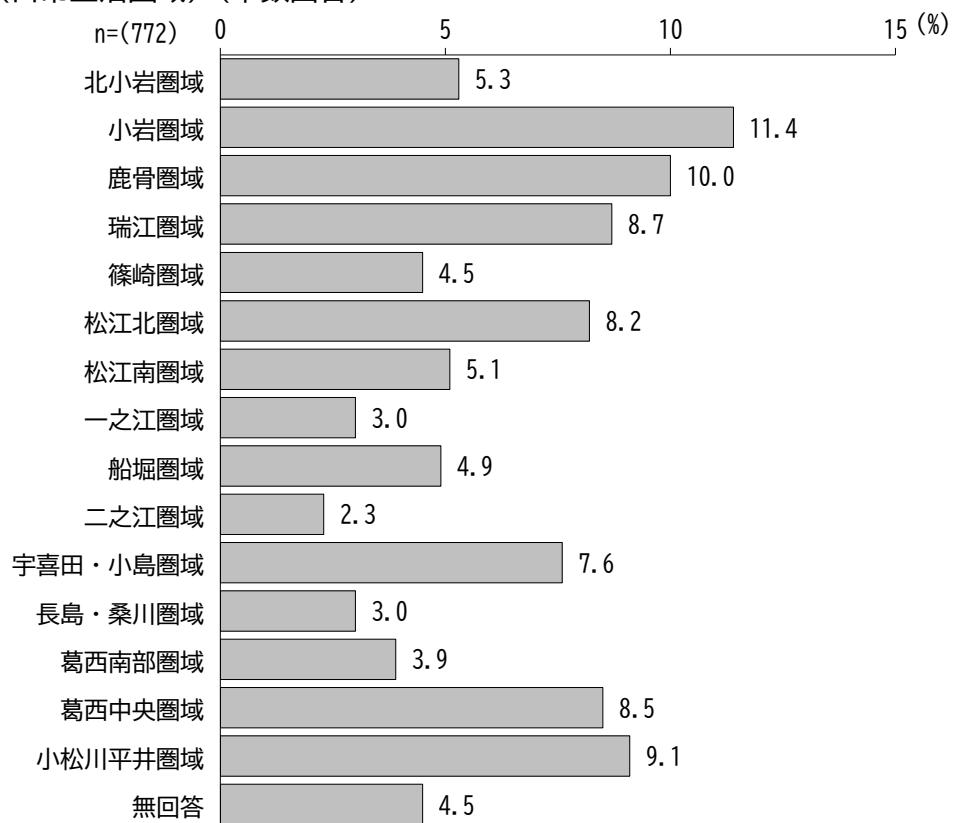
※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

(2) 居住地（日常生活圏域）

問3 あなたのお住まいはどこですか。記入例を参考に記入してください。
丁目がない場合は、町名だけ記入してください。

居住地（日常生活圏域）は、「小岩圏域」が11.4%で最も高く、次いで「鹿骨圏域」が10.0%、「小松川平井圏域」が9.1%となっている。

図表1-6 居住地（日常生活圏域）（単数回答）



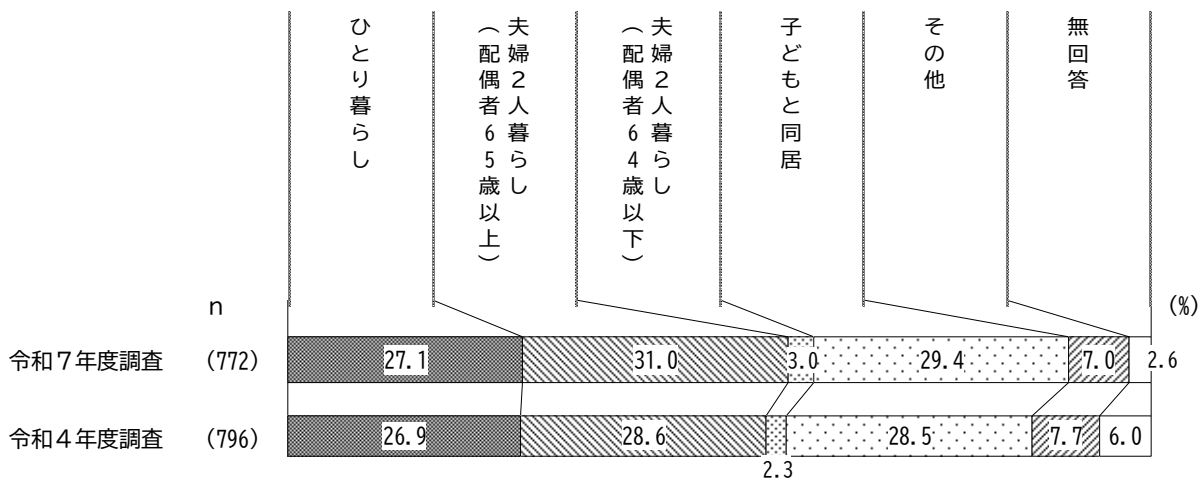
(3) 世帯構成

問4 あなたの現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

世帯構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」(31.0%)と「子どもと同居」(29.4%)がおおむね並んでおり、「ひとり暮らし」が27.1%で続いている。

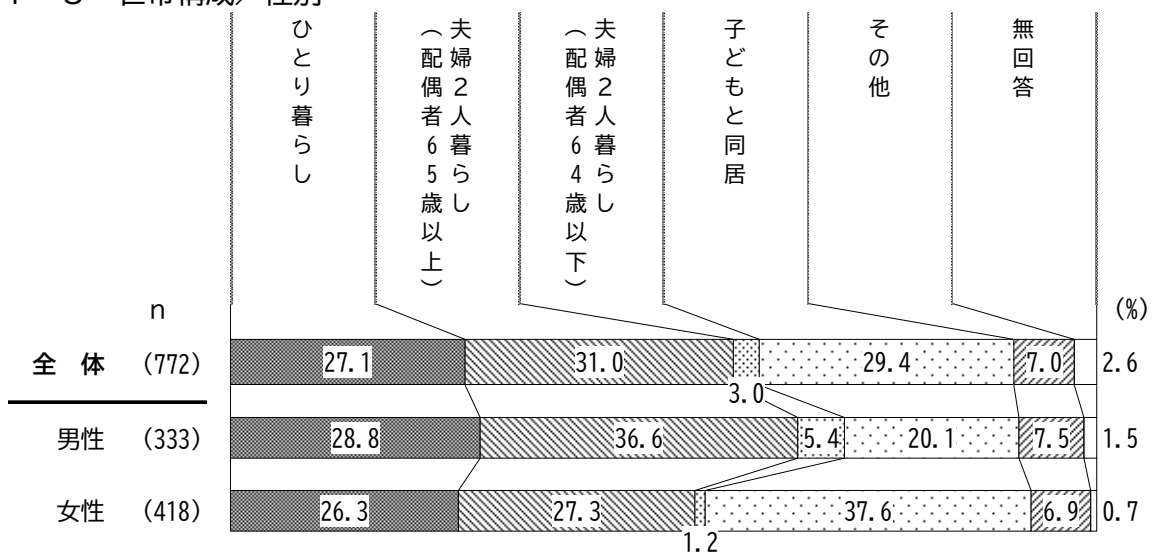
令和4年度調査と比較すると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」は2.4ポイント増加している。

図表1-7 世帯構成（単数回答）



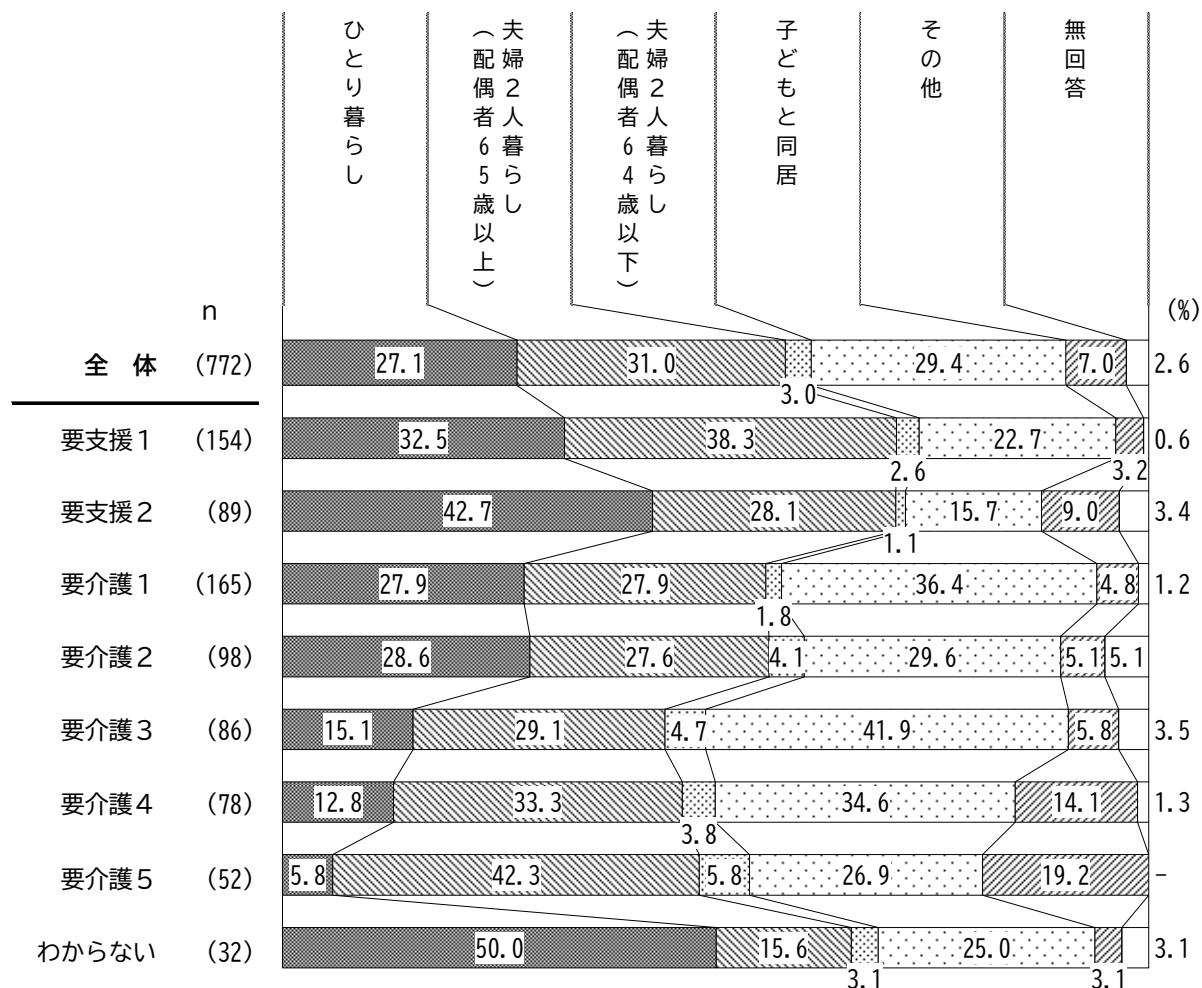
性別で見ると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」は男性の方が女性より9.3ポイント高く、「ひとり暮らし」でも男性が2.5ポイント高くなっている。逆に「子どもと同居」では女性の方が男性より17.5ポイント高くなっている。

図表1-8 世帯構成／性別



要介護度別でみると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」は要介護5で4割強と高く、「子どもと同居」は要介護3で41.9%と高くなっている。また、「ひとり暮らし」は要支援2で42.7%と最も高く、要介護度が上がるほど割合が低くなり要介護5で5.8%となっている。

図表1-9 世帯構成／要介護度別



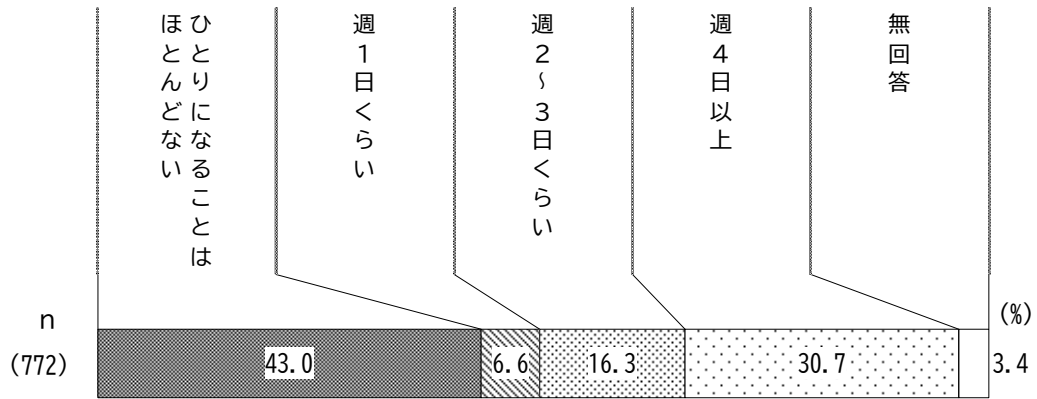
※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

(4) 日中独居の状況

問5 あなたは、日中、家にひとりでいることがどのくらいありますか。(1つに○)

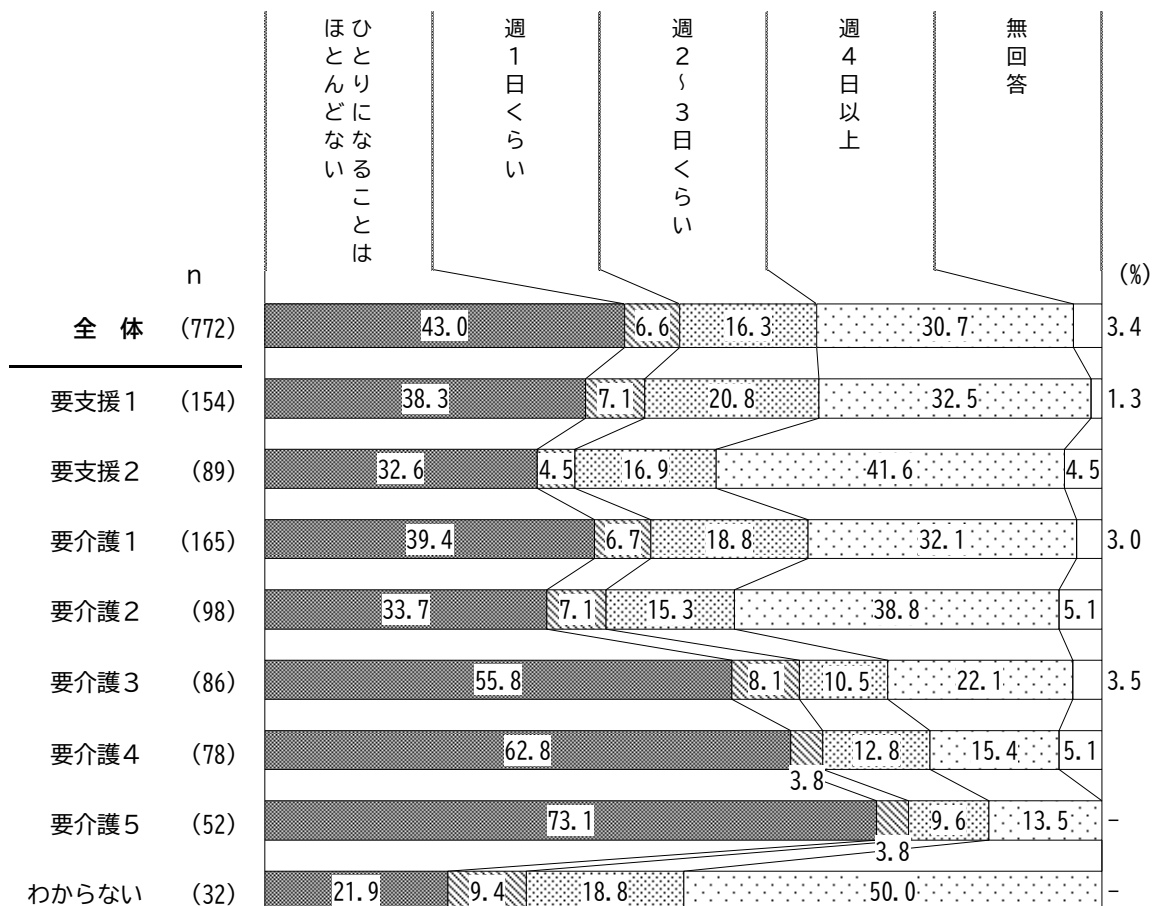
日中独居の状況は、「ひとりになることはほとんどない」が43.0%で最も高い。一方、「週4日以上」が30.7%、「週2～3日くらい」が16.3%となっている。

図表1-10 日中独居の状況 (単数回答)



要介護度別でみると、「ひとりになることはほとんどない」は要支援2で32.6%と最も低く、要介護度が上がるほど高くなり要介護5で7割台半ばとなっている。一方、「週4日以上」は要支援2で41.6%と最も高く、要介護度が上がるほど低くなり、要介護5で13.5%となっている。

図表1-11 日中独居の状況／要介護度別



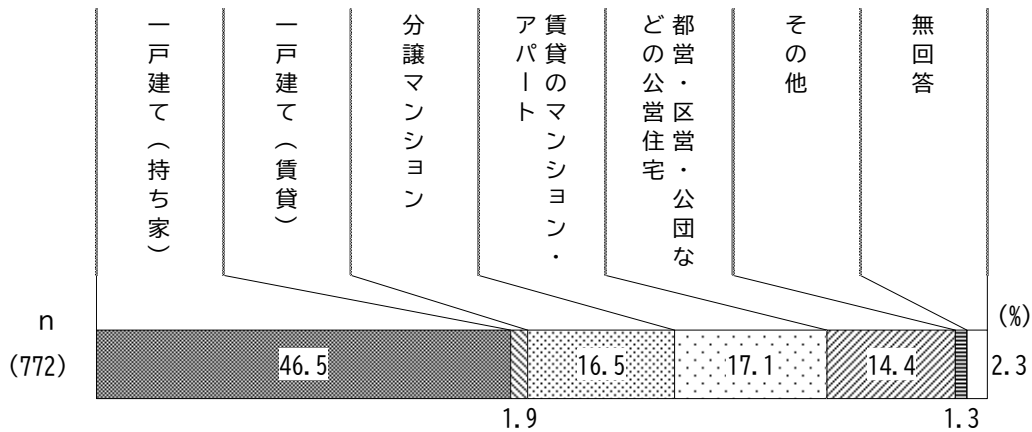
※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

(5) 住居の形態

問6 あなたの現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

住居の形態は、「一戸建て（持ち家）」が46.5%で最も高く、次いで「賃貸のマンション・アパート」（17.1%）、「分譲マンション」（16.5%）、「都営・区営・公団などの公営住宅」（14.4%）などとなっている。

図表1-12 住居の形態（単数回答）



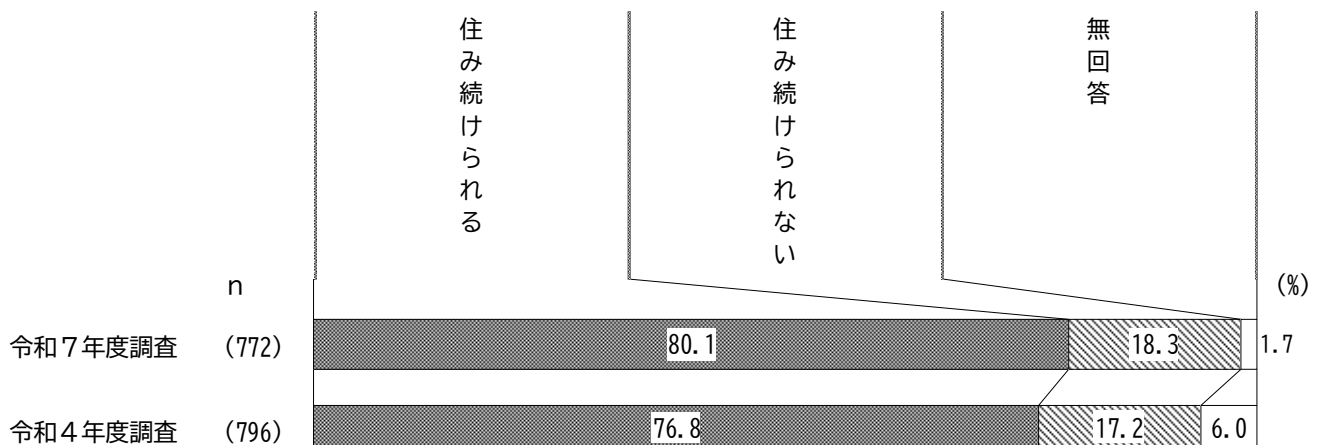
(6) 今後も住み続けられる住まいか

問7 あなたの現在のお住まいは、今後も住み続けられる住まいだと思いますか。(1つに○)

現在の住まいに今後も住み続けられるかをたずねたところ、「住み続けられる」が80.1%で、「住み続けられない」の18.3%を大きく上回っている。

令和4年度調査と比較すると、「住み続けられる」は3.3ポイント増加している。

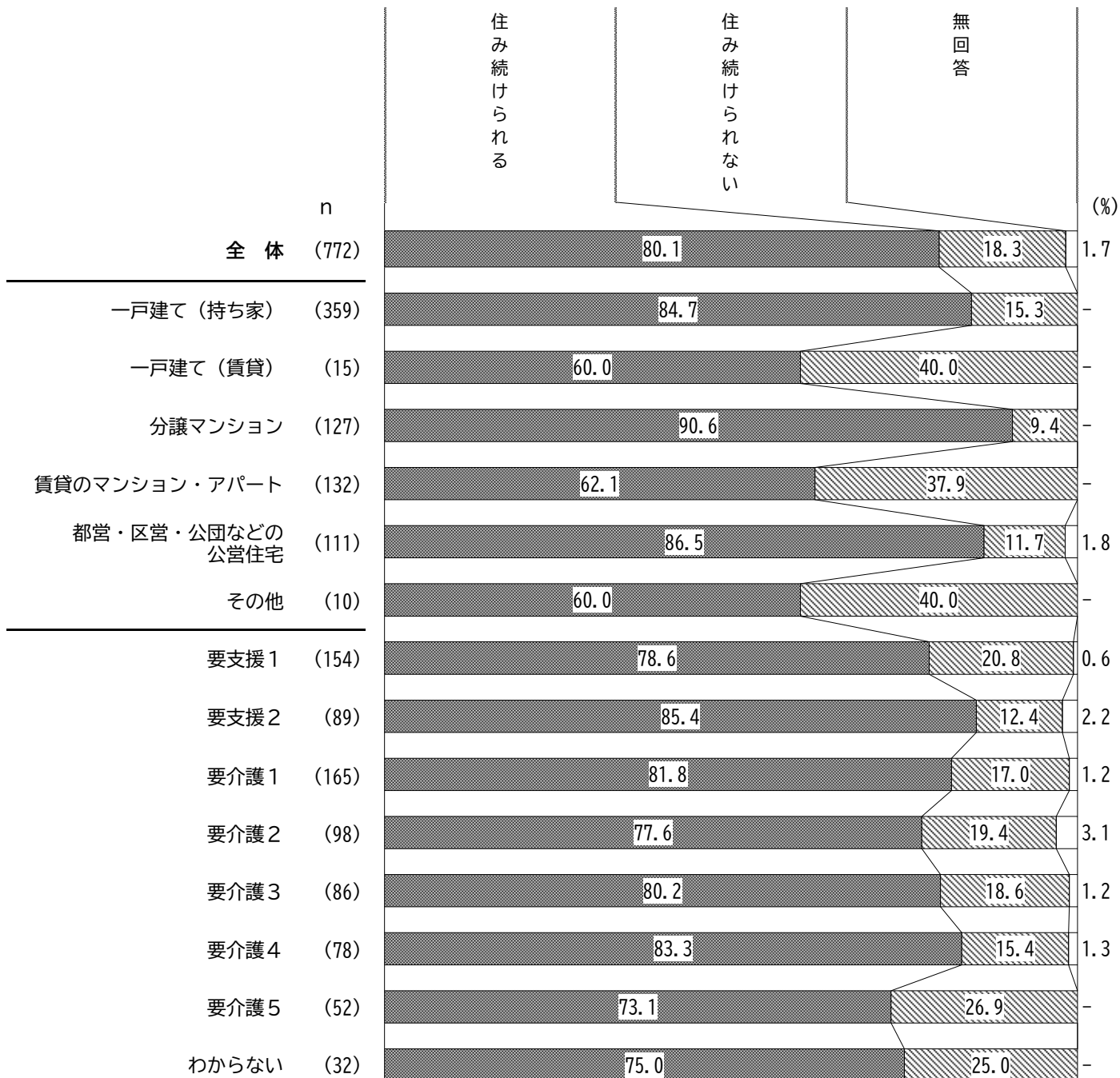
図表1-13 今後も住み続けられる住まいか（単数回答）



住居形態別でみると、「住み続けられる」は分譲マンションで9割台と高く、一戸建て（賃貸）で60.0%と最も低くなっている。

要介護度別でみると、「住み続けられる」は要支援2で8割台半ばと高く、要介護5で73.1%と最も低くなっている。

図表1-14 今後も住み続けられる住まいか／住居形態別、要介護度別



※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

(7) 現在の住まいに住み続けられない理由

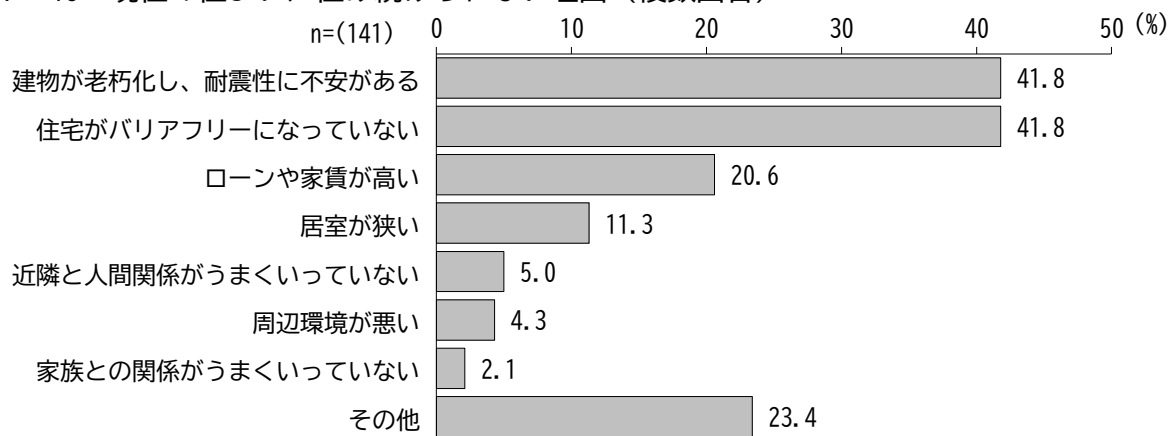
★住み続けられないと回答した方（問7で2に○）にうかがいます。

問7-1 現在のお住まいに住み続けられない理由は何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

現在の住まいに住み続けられない理由では、「建物が老朽化し、耐震性に不安がある」と「住宅がバリアフリーになっていない」がともに41.8%で最も高く、次いで「その他」が23.4%、「ローンや家賃が高い」が20.6%などとなっている。

図表1-15 現在の住まいに住み続けられない理由（複数回答）



住居形態別、及び要介護度別では各項目の回答数（n）が少ないため、参考として掲載するが、分析は行わない。

図表1-16 現在の住まいに住み続けられない理由／住居形態別、要介護度別

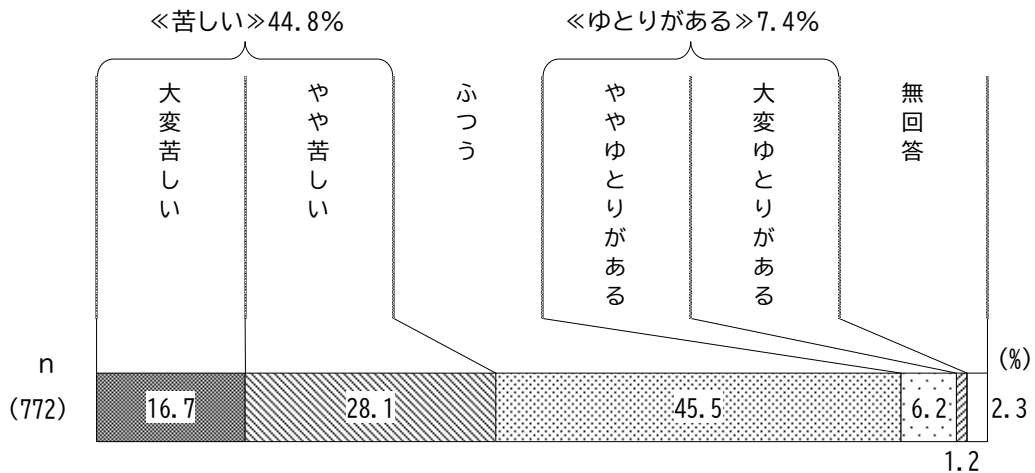
	n (人)	建物 が老朽化し、 耐震性に不安が ある	住宅がバリアフリーになっ ていない	ローンや家賃が高い	居室が狭い	近隣と人間関係がうまくい っていない	周辺環境が悪い	家族との関係がうまくいっ ていない	その他	
全体	141	41.8	41.8	20.6	11.3	5.0	4.3	2.1	23.4	
住居形態別	一戸建て(持ち家)	55	67.3	45.5	1.8	3.6	5.5	3.6	1.8	16.4
	一戸建て(賃貸)	6	16.7	33.3	-	-	-	-	-	66.7
	分譲マンション	12	25.0	58.3	25.0	8.3	-	-	16.7	25.0
	賃貸のマンション・アパート	50	26.0	42.0	42.0	22.0	6.0	8.0	-	24.0
	都営・区営・公団などの公営住宅	13	30.8	30.8	23.1	15.4	7.7	-	-	15.4
	その他	4	25.0	-	25.0	-	-	-	-	50.0
要介護度別	要支援1	32	46.9	31.3	18.8	6.3	6.3	3.1	-	25.0
	要支援2	11	36.4	54.5	18.2	9.1	-	9.1	-	27.3
	要介護1	28	39.3	35.7	21.4	7.1	7.1	7.1	3.6	32.1
	要介護2	19	63.2	42.1	21.1	15.8	5.3	5.3	-	5.3
	要介護3	16	37.5	62.5	18.8	18.8	-	6.3	-	25.0
	要介護4	12	16.7	50.0	25.0	8.3	-	-	8.3	33.3
	要介護5	14	35.7	35.7	21.4	14.3	14.3	-	7.1	7.1
	わからない	8	50.0	50.0	12.5	25.0	-	-	-	37.5

(8) 経済的にみた現在の暮らしの状況

問8 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つに○)

経済的にみた現在の暮らしの状況は、「ふつう」が45.5%と最も高くなっている。次いで「やや苦しい」が28.1%で、これに「大変苦しい」(16.7%)を合わせた「苦しい」は44.8%となっている。一方、「ややゆとりがある」(6.2%)と「大変ゆとりがある」(1.2%)を合わせた「ゆとりがある」は7.4%である。

図表1-17 経済的にみた現在の暮らしの状況(単数回答)

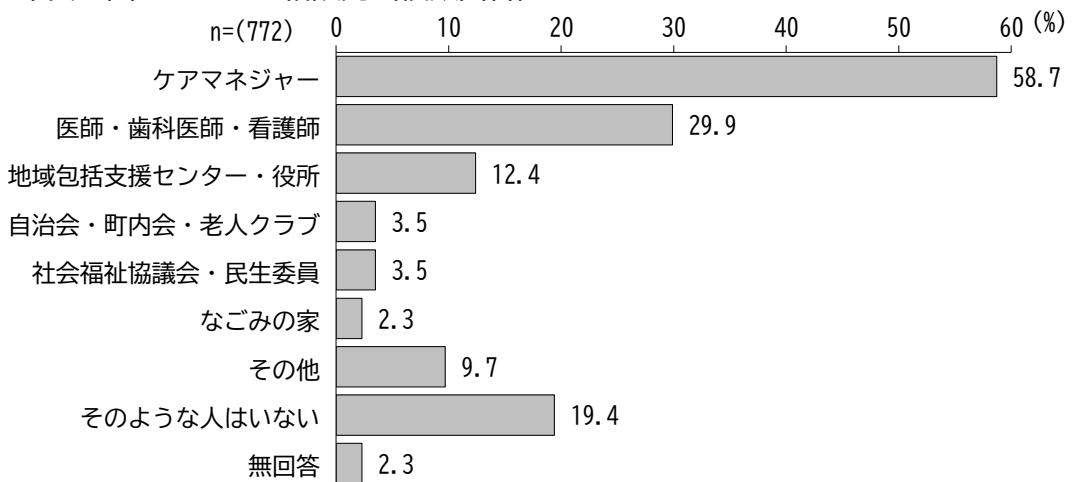


(9) 不安や困ったときの相談先

問9 家族や友人・知人以外で、不安や困った時に相談する相手を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

不安や困ったときの相談先は、「ケアマネジャー」が58.7%で最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が29.9%、「地域包括支援センター・役所」が12.4%などとなっている。

図表1-18 不安や困ったときの相談先(複数回答)



2 介護度及び介護が必要になった原因について

(1) 要介護度

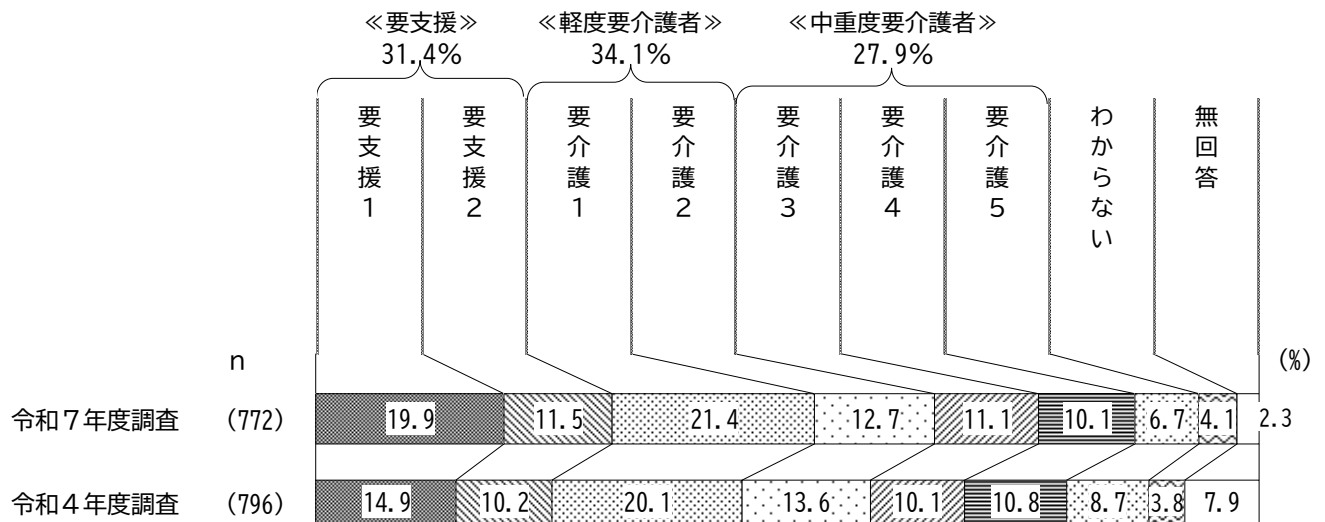
問10 あなたの現在の介護度は、次のどれですか。(1つに○)

要介護度は、「要介護1」が21.4%で最も高く、次いで、「要支援1」(19.9%)、「要介護2」(12.7%)などとなっている。

「要支援1」と「要支援2」を合わせた《要支援》は31.4%、「要介護1」と「要介護2」を合わせた《軽度要介護者》は34.1%、「要介護3」、「要介護4」及び「要介護5」を合わせた《中重度要介護者》は27.9%である。

令和4年度調査と比較すると、《要支援》は6.3ポイント増加している。

図表2-1 要介護度(単数回答)

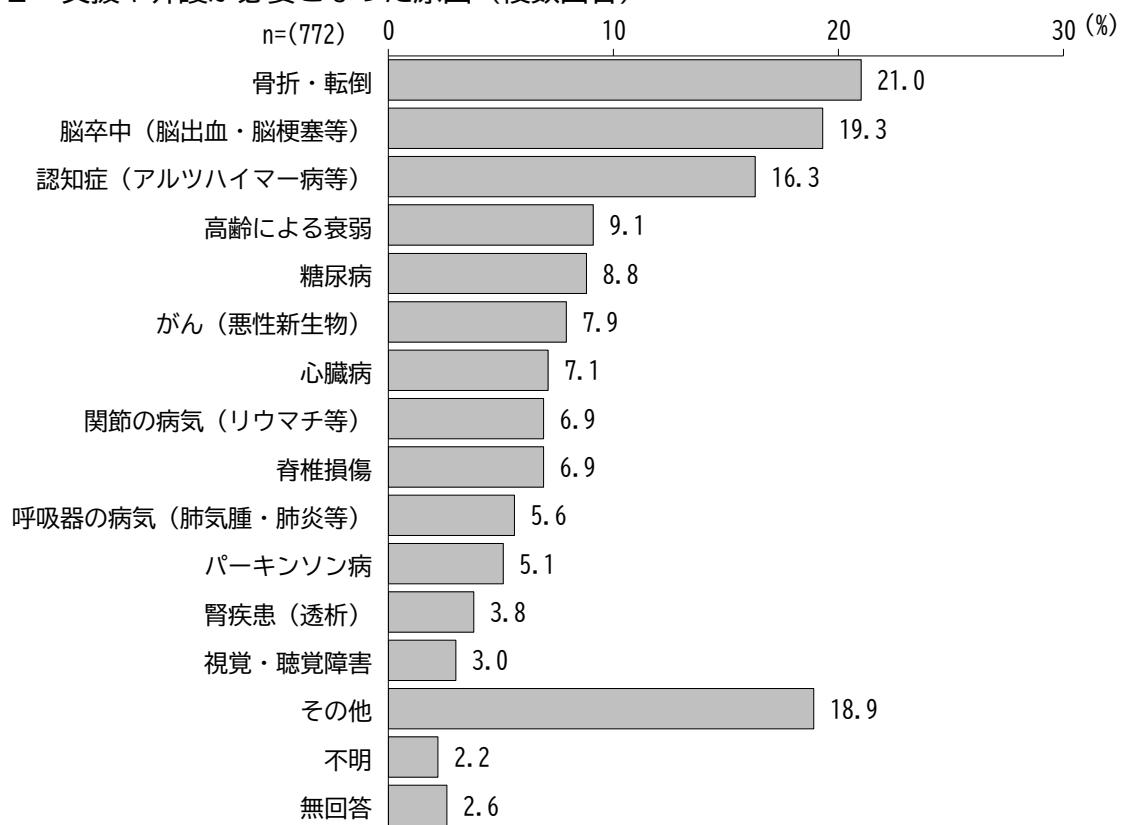


(2) 支援や介護が必要となった原因

問11 あなたに、支援や介護が必要となったのは、どのようなことが原因でしたか。
(あてはまるものすべてに○)

支援や介護が必要となった原因は、「骨折・転倒」が21.0%で最も高く、次いで「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」（19.3%）、「認知症（アルツハイマー病等）」（16.3%）が1割台となっている。

図表2-2 支援や介護が必要となった原因（複数回答）



要介護度別でみると、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」は要介護4～5の《中重度要介護者》で3割台と高く、「骨折・転倒」は要支援1で2割台半ばと他の介護認定状況に比べて高くなっている。また、「認知症（アルツハイマー病等）」は要介護4で26.9%と他の介護認定状況に比べて高くなっている。

図表2-3 支援や介護が必要となった原因／要介護度別

	n (人)	骨折・ 転倒	脳卒中 (脳出血・ 脳梗塞 等)	認知症 (アルツ ハイマ ー病等)	高齢 による 衰弱	糖尿 病	がん (悪性 新生 物)	心臓 病	等 関 節の 病気 (リウ マチ)	
全体	772	21.0	19.3	16.3	9.1	8.8	7.9	7.1	6.9	
要 介 護 度 別	要支援1	154	23.4	9.7	5.8	9.1	6.5	6.5	9.1	14.3
	要支援2	89	22.5	15.7	7.9	10.1	10.1	7.9	5.6	10.1
	要介護1	165	21.2	14.5	24.2	11.5	8.5	8.5	7.3	4.8
	要介護2	98	19.4	20.4	19.4	9.2	7.1	8.2	8.2	7.1
	要介護3	86	17.4	22.1	24.4	7.0	9.3	8.1	9.3	4.7
	要介護4	78	21.8	39.7	26.9	9.0	14.1	6.4	5.1	1.3
	要介護5	52	17.3	34.6	13.5	5.8	5.8	7.7	3.8	-
	わからない	32	25.0	21.9	3.1	6.3	12.5	12.5	6.3	-
	n (人)	脊 椎 損 傷	呼 吸 器 の 病 気 (肺 気 腫 ・ 肺 炎 等)	パ ー キ ン ソ ン 病	腎 疾 患 (透 析)	視 覚 ・ 聴 覚 障 害	そ の 他	不 明	無 回 答	
全体	772	6.9	5.6	5.1	3.8	3.0	18.9	2.2	2.6	
要 介 護 度 別	要支援1	154	3.2	2.6	5.2	2.6	4.5	24.0	1.9	3.2
	要支援2	89	12.4	4.5	5.6	4.5	6.7	16.9	1.1	1.1
	要介護1	165	4.2	6.7	3.0	3.6	3.0	20.0	1.8	1.8
	要介護2	98	10.2	6.1	4.1	6.1	2.0	12.2	2.0	1.0
	要介護3	86	9.3	7.0	4.7	3.5	2.3	23.3	-	-
	要介護4	78	7.7	1.3	10.3	3.8	-	14.1	-	2.6
	要介護5	52	1.9	13.5	5.8	1.9	1.9	21.2	3.8	-
	わからない	32	12.5	6.3	-	-	-	18.8	18.8	3.1

※設問の「不明」「無回答」は掲載を省略している

※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

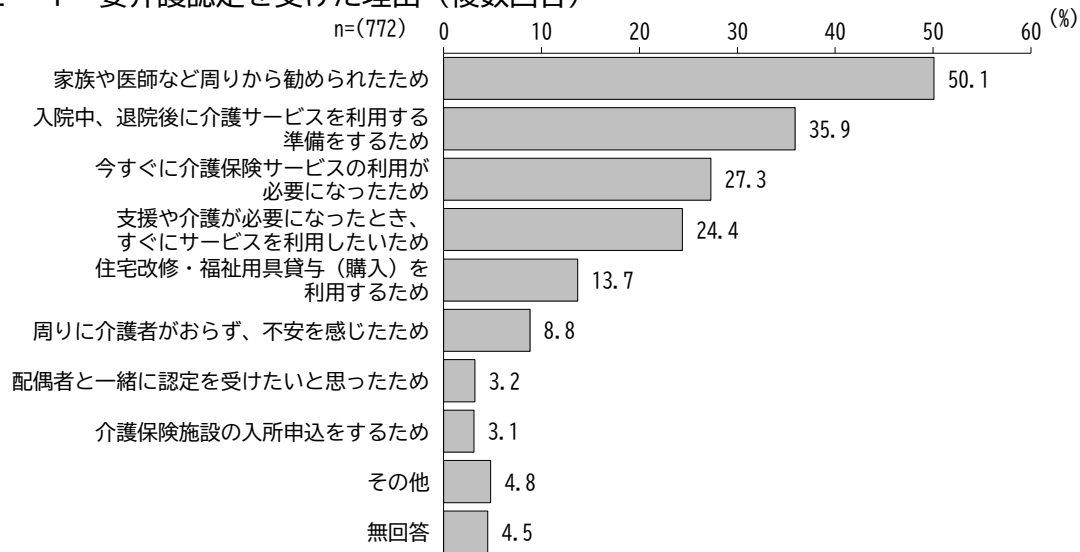
(3) 要介護認定を受けた理由

問12 あなたが初めて要介護認定を受けた理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

要介護認定を初めて受けた理由は、「家族や医師など周りから勧められたため」が50.1%で最も高く、次いで「入院中、退院後に介護サービスを利用する準備をするため」が35.9%、「今すぐに介護保険サービスの利用が必要になったため」が27.3%、「支援や介護が必要になったとき、すぐにサービスを利用したいため」が24.4%などとなっている。

図表2-4 要介護認定を受けた理由（複数回答）



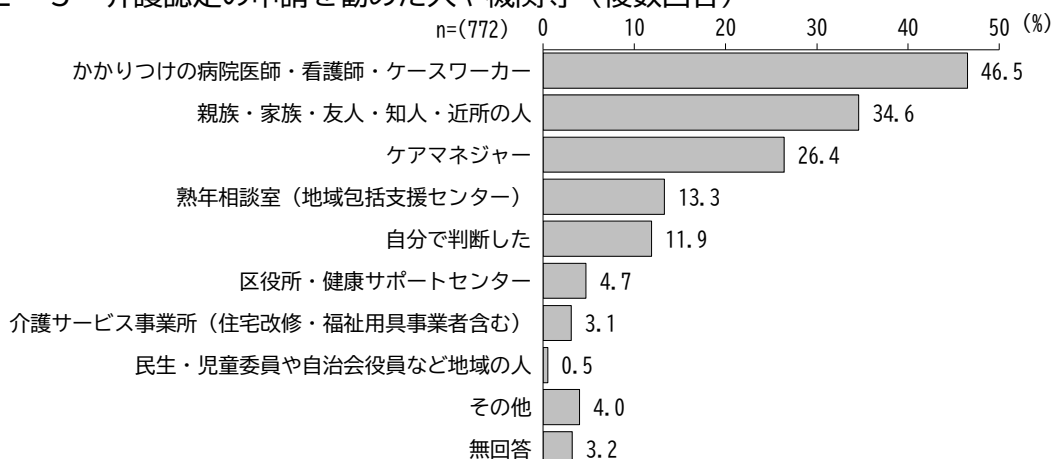
(4) 介護認定の申請を勧めた人や機関等

問13 あなたに介護認定の申請を勧めたのはどなたですか。

(あてはまるものすべてに○)

介護認定の申請を勧めた人や機関等では、「かかりつけの病院医師・看護師・ケースワーカー」が46.5%で最も高く、次いで「親族・家族・友人・知人・近所の人」が34.6%、「ケアマネジャー」が26.4%、「熟年相談室（地域包括支援センター）」が13.3%となっている。

図表2-5 介護認定の申請を勧めた人や機関等（複数回答）



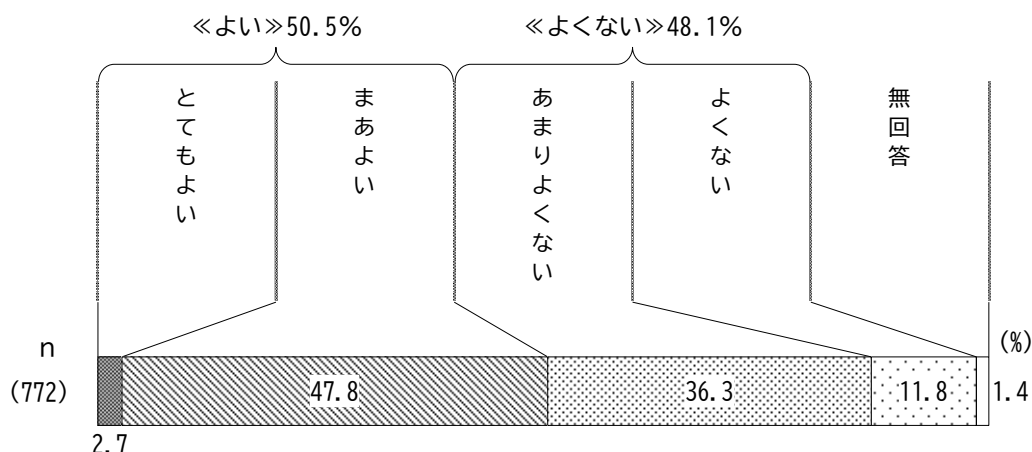
3 健康や医療の状況について

(1) 健康状態

問14 現在のあなたの健康状態は、いかがですか。(1つに○)

健康状態は、「まあよい」が47.8%で最も高く、これに「とてもよい」(2.7%)を合わせた「よい」は50.5%と半数を超えている。一方、「あまりよくない」(36.3%)と「よくない」(11.8%)を合わせた「よくない」は48.1%である。

図表3-1 健康状態(単数回答)



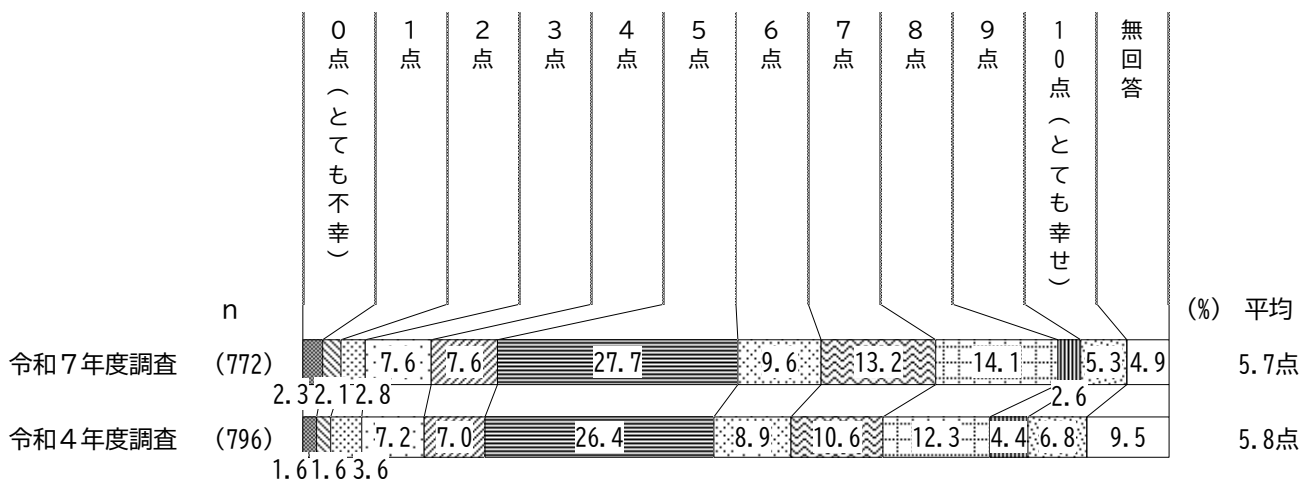
(2) 現在の幸福度

問15 あなたは、現在どの程度幸せですか。(点数に○)
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

現在の幸福度は、「5点」が27.7%で最も高く、次いで「8点」が14.1%、「7点」が13.2%などとなっている。平均は、5.7点である。

令和4年度調査と比較すると、8点以上と回答した人が1.5ポイント減少している。

図表3-2 現在の幸福度(単数回答)

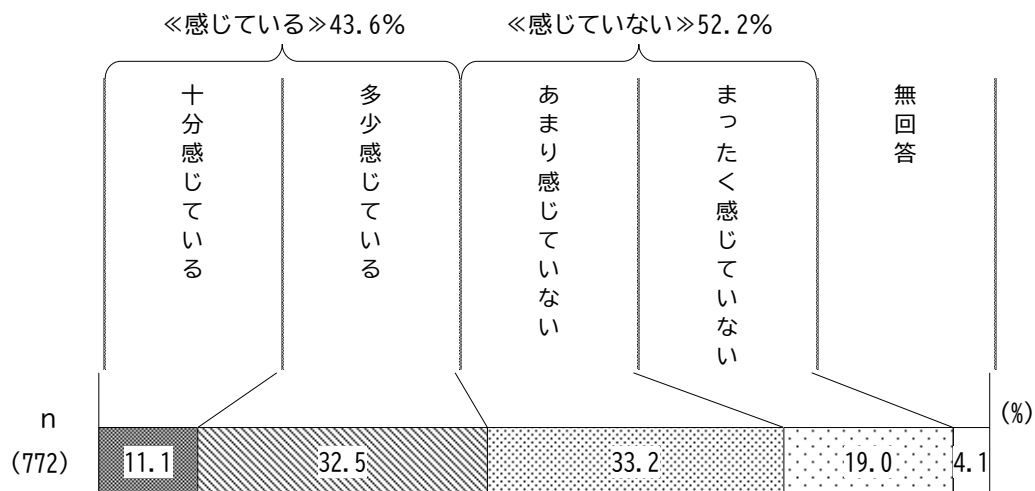


(3) 生きがいの程度

問16 あなたは、身近な人たちとの交流や趣味、就労、ボランティアなどの活動を通じて生きがい（役立ち感や達成感など）を感じていますか。（1つに○）

生きがいの程度では、「あまり感じていない」が33.2%で最も高く、これに「全く感じていない」（19.0%）を合わせた「感じていない」は52.2%となっている。一方、「十分感じている」（11.1%）と「多少感じている」（32.5%）を合わせた「感じている」は43.6%となっている。

図表3-3 生きがいの程度（単数回答）



(4) こころの健康とうつ傾向

問17 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(1つに○)

問18 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(1つに○)

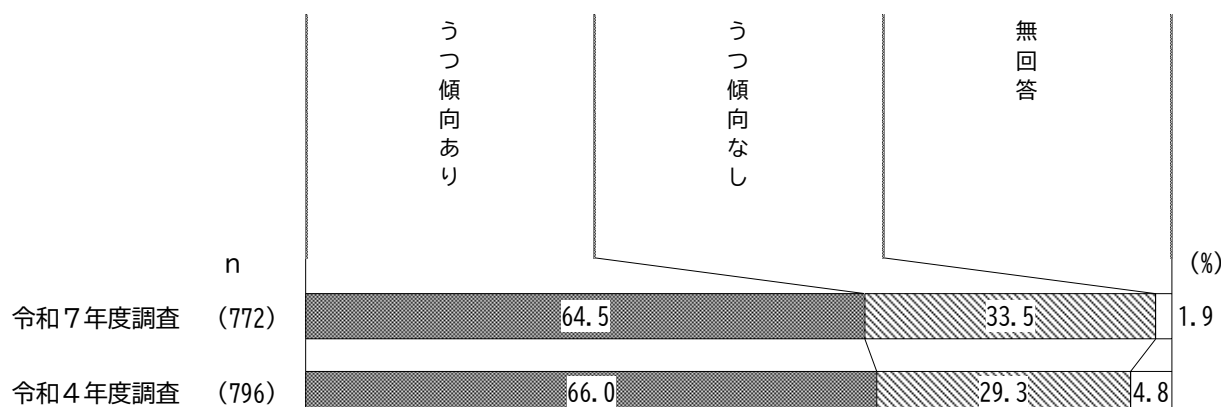
設問内容	選択肢	
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい	56.3%
	2. いいえ	40.9%
	無回答	2.7%
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい	50.8%
	2. いいえ	45.6%
	無回答	3.6%

これらの設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、うつ傾向を問うものとされており、いずれか1つでも「はい」を選択した場合は、うつ傾向のある高齢者と考えられている。

その割合を算出したところ、「うつ傾向あり」は64.5%である。

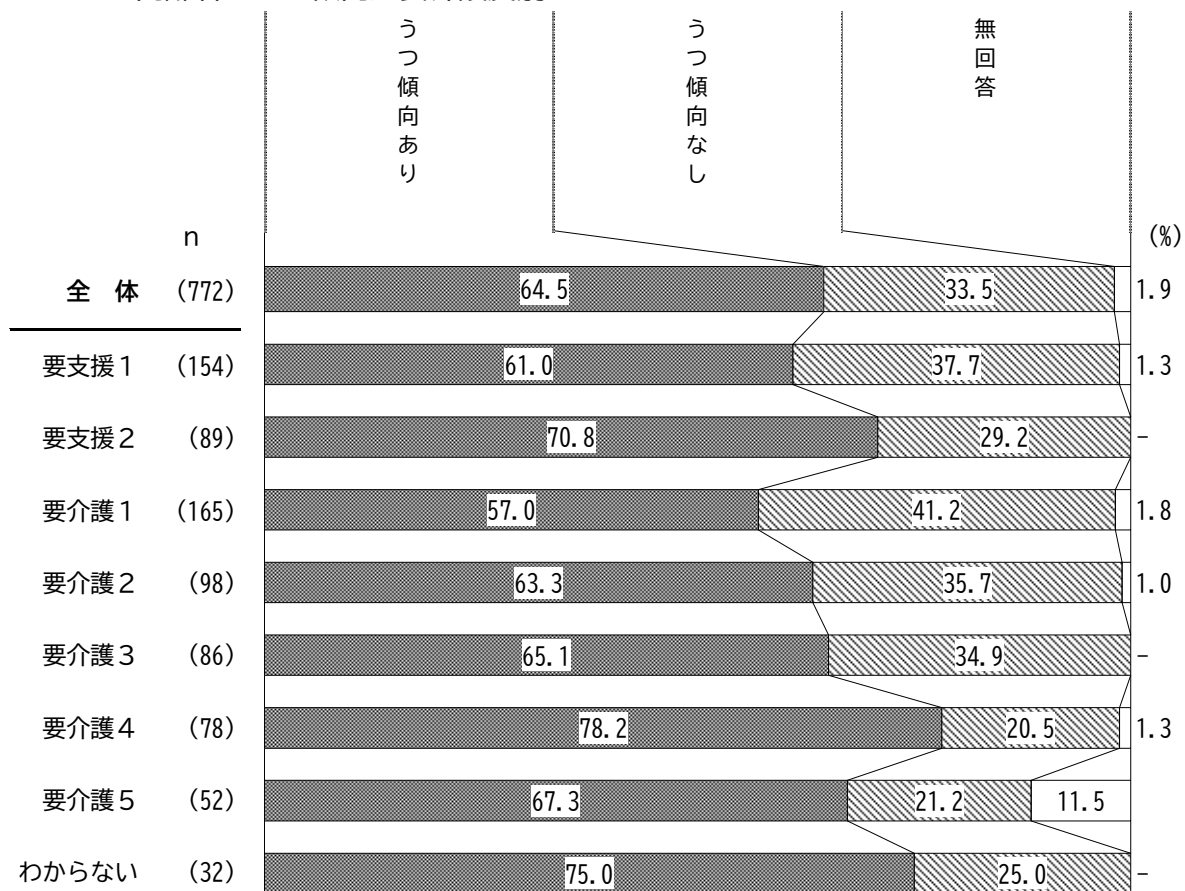
令和4年度調査との比較では、「うつ傾向なし」は4.2ポイント増加している。

図表3-4 高齢者のうつ傾向（単数回答）



要介護度別でみると、「うつ傾向あり」はすべての要介護度で半数を超えており、要介護4で78.2%と最も高くなっている。

図表3-5 高齢者のうつ傾向/要介護度別



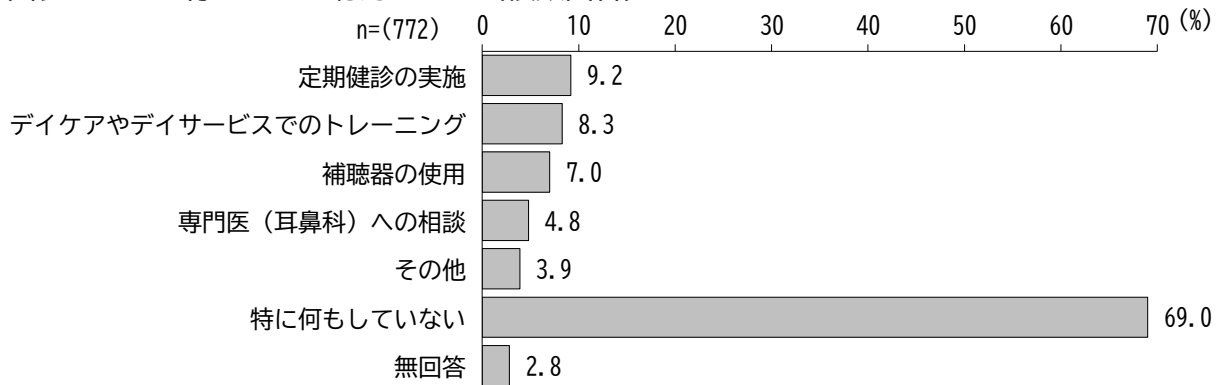
※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

(5) 行っている聴力のケア

問19 高齢者の難聴は、外界からの情報量が減少することで脳への刺激が不足し、認知機能の低下をもたらすおそれがあるとされています。あなたは、自身の聴力に対してどのようなケアを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

行っている聴力のケアでは、「特に何もしていない」が69.0%で最も高く、次いで「定期健診の実施」が9.2%、「デイケアやデイサービスでのトレーニング」が8.3%、「補聴器の使用」が7.0%などとなっている。

図表3-6 行っている聴力のケア（複数回答）



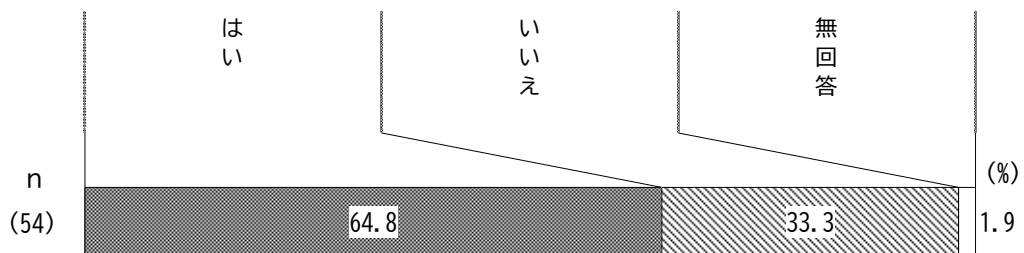
(6) 使用中の補聴器の聴こえの調整

★補聴器を使用している方（問19で2に○）にうかがいます。

問19-1 使用中の補聴器は、販売店などにおいて定期的に聴こえの調整を行っていますか。（1つに○）

使用中の補聴器の聴こえの調整では、「はい」が64.8%、「いいえ」が33.3%となっている。

図表3-7 使用中の補聴器の聴こえの調整（単数回答）



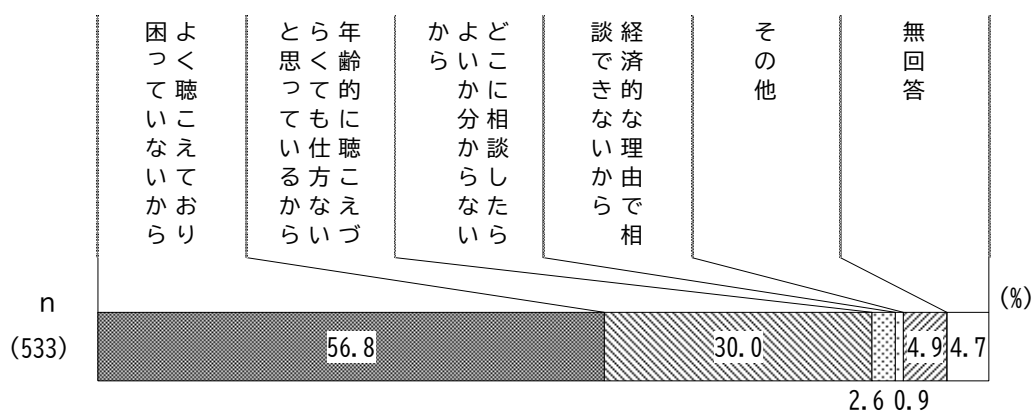
(7) 聴力ケアを行っていない一番の理由

★特に何もしていない方（問19で6に○）にうかがいます。

問19-2 特に何もしていない一番の理由は何ですか。（1つに○）

聴力ケアを行っていない一番の理由では、「よく聴こえており困っていないから」が56.8%で最も高く、次いで「年齢的に聴こえづらくても仕方ないと思っているから」が30.0%、「どこに相談したらよいか分からないから」が2.6%となっている。

図表3-8 聴力ケアを行っていない一番の理由（単数回答）



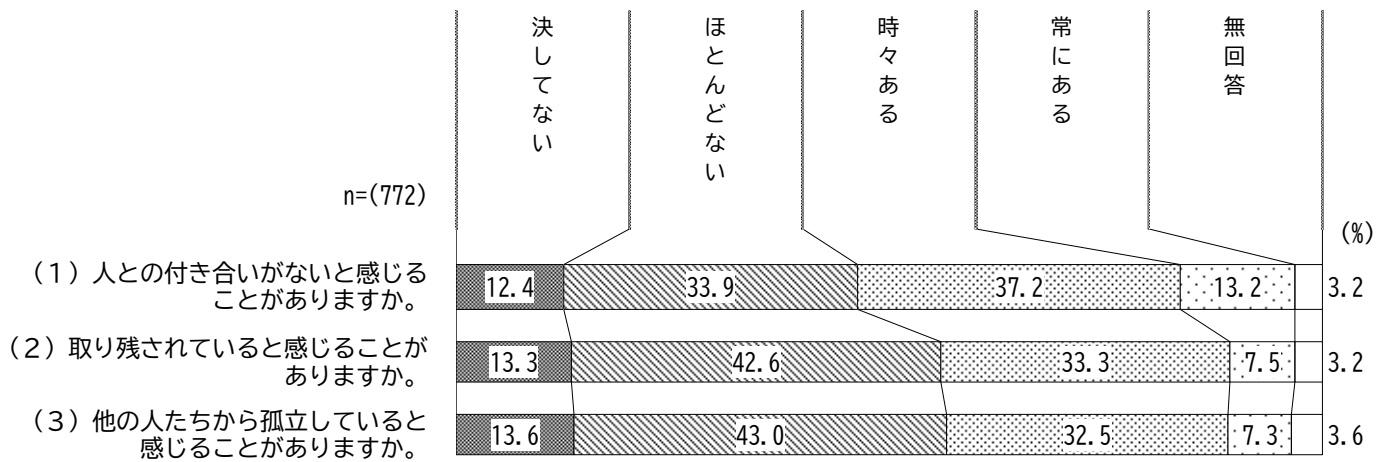
(8) UCLA孤独感尺度

問20 以下の設問にお答えください。(それぞれ1つに○)

- (1) 自分には人との付き合いがないと感じることがありますか。
- (2) 自分は取り残されていると感じることがありますか。
- (3) 自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

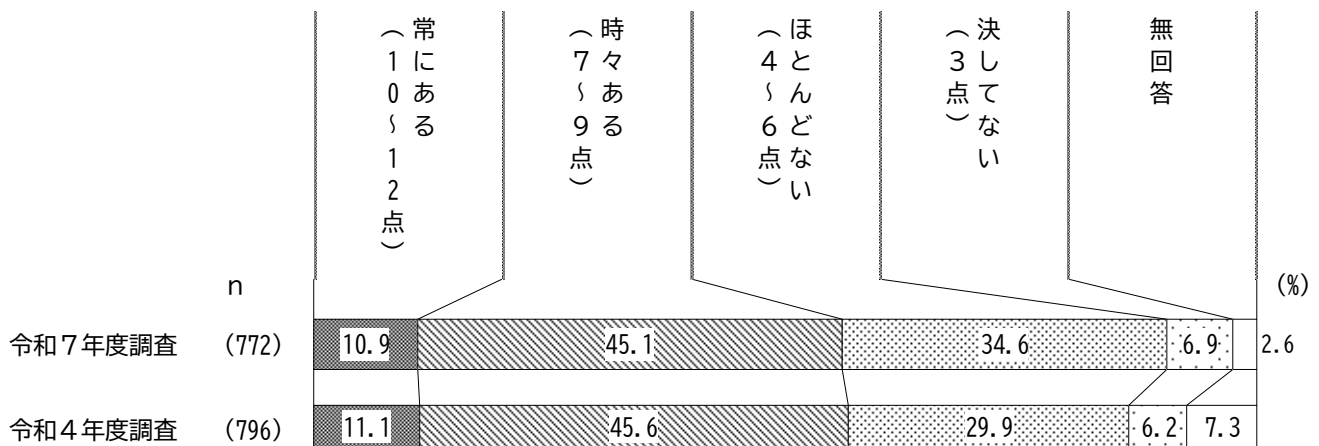
「ほとんどない」は“自分は取り残されていると感じる頻度”と“自分は他の人たちから孤立していると感じる頻度”で4割強と最も高く、「時々ある」は“自分には人とのつきあいが無いと感じる頻度”で37.2%と最も高くなっている。

図表3-9 UCLA孤独感尺度(3項目短縮版)



UCLA孤独感尺度に基づく孤独感スコア※は、「時々ある(7~9点)」が45.1%で最も高く、次いで「ほとんどない(4~6点)」が34.6%、「常にある(10~12点)」が10.9%となっている。令和4年度調査と比較すると、「ほとんどない(4~6点)」は4.7ポイント増加している。

図表3-10 UCLA孤独感尺度に基づく孤独感スコア

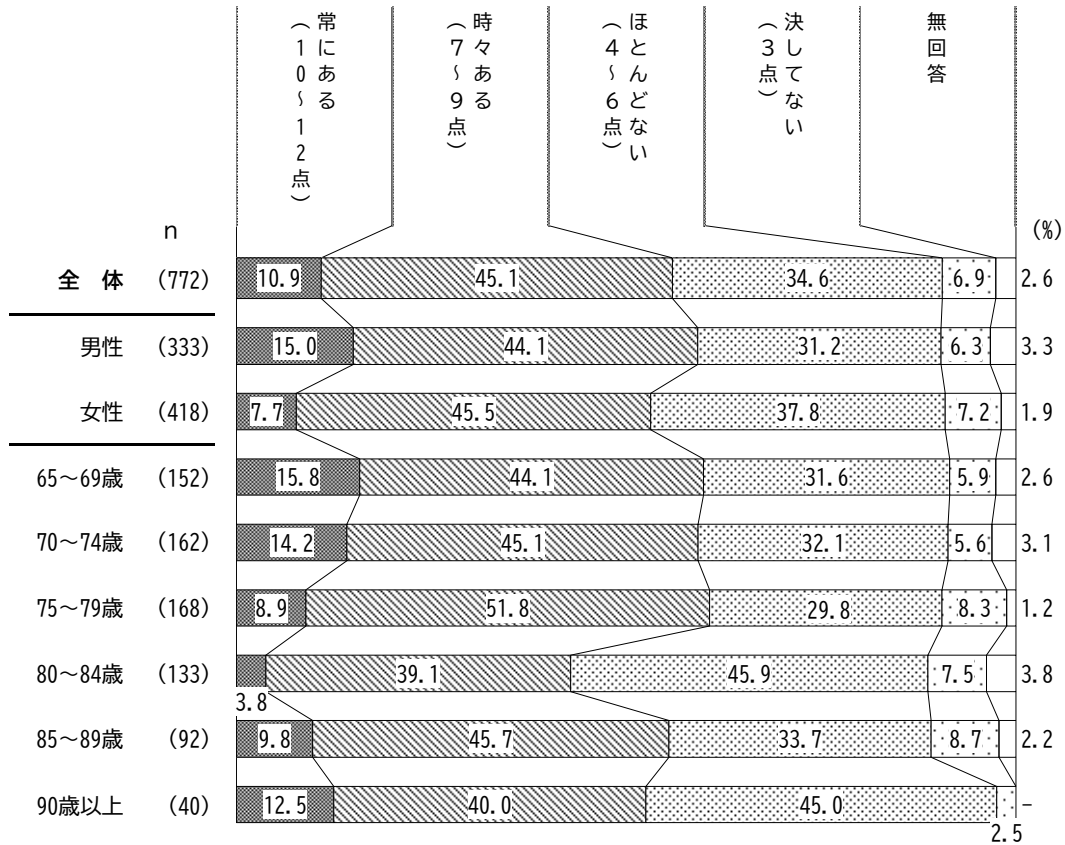


※UCLA孤独感尺度は57ページを参照

性別でみると、「常にある（10～12点）」は男性の方が女性よりも7.3ポイント高くなっているが、「ほとんどない（4～6点）」は女性の方が6.6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「常にある（10～12点）」は65～69歳で15.8%と最も高く、80～84歳で3.8%と最も低くなっている。

図表3-11 UCL A孤独感尺度に基づく孤独感スコア／性別、年齢別

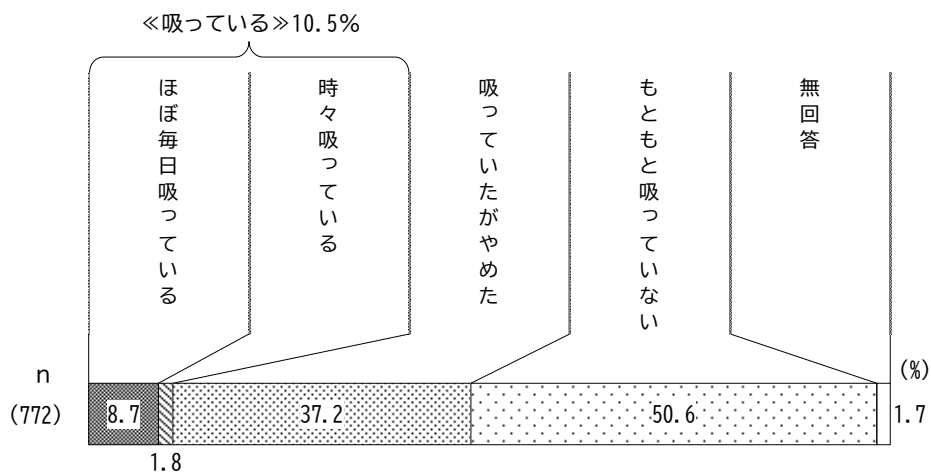


(9) 喫煙の有無

問21 タバコは吸っていますか。(1つに○)

喫煙については、「ほぼ毎日吸っている」が8.7%、「時々吸っている」が1.8%で、これらを合わせた「吸っている」は10.5%となっている。

図表3-12 喫煙の有無 (単数回答)



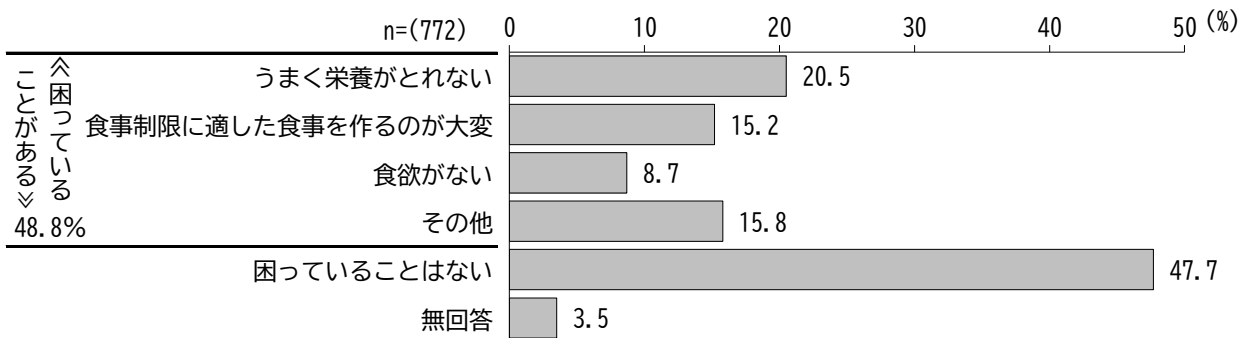
(10) 食生活で困っていること

問22 あなたが食生活で困っていることは、次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

食生活の困りごとの有無は、「困っていることがある」が48.8%で、「困っていることはない」が47.7%とほぼ同じ割合となっている。困りごとの内容としては、「うまく栄養がとれない」が20.5%で最も高く、次いで「食事制限に適した食事を作るのが大変」が15.2%となっている。

図表3-13 食生活で困っていること（複数回答）



※「困っていることがある」=100% - 「困っていることはない」 - 「無回答」

(11) かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無

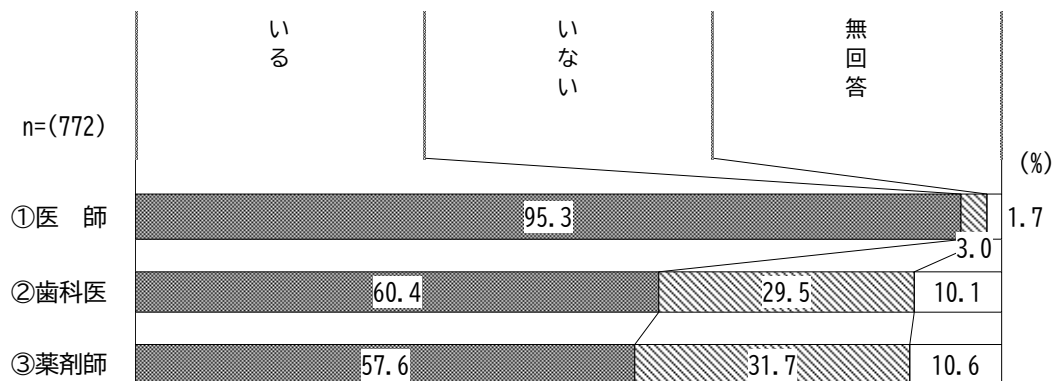
問23 あなたには、かかりつけの医師、歯科医、薬剤師（※）がいますか。

(それぞれ1つに○)

※日頃から自分または家族の健康状態をよく知っていて、日常的な健康管理をまかせられる医師、歯科医、薬剤師

かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無は、「いる」は医師が95.3%と最も高く、歯科医(60.4%)が6割となっている。

図表3-14 かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無（単数回答）



(12) 治療中、または後遺症のある病気

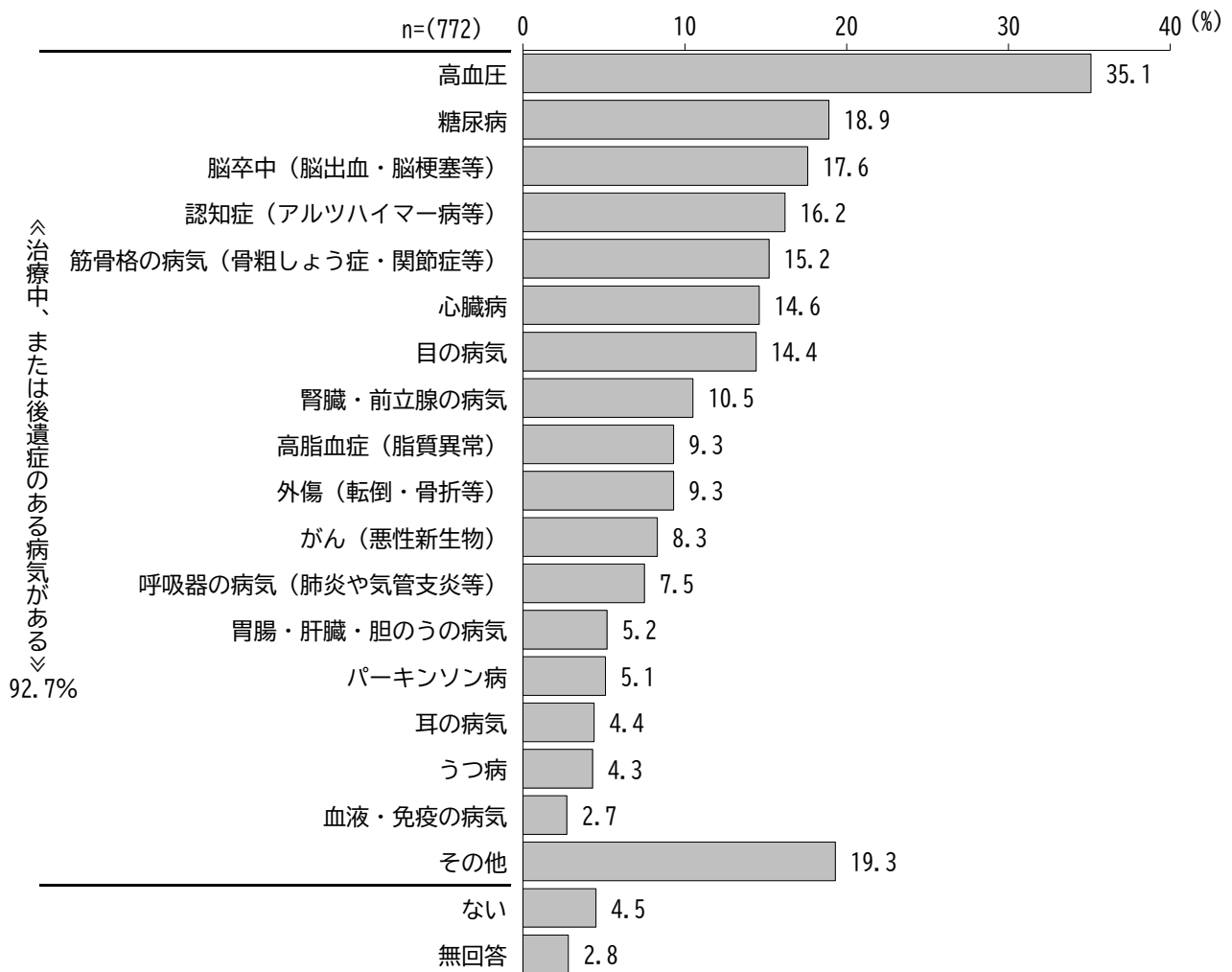
問24 あなたは、現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

治療中、または後遺症のある病気の有無では、《治療中、または後遺症のある病気がある》が92.7%、「ない」が4.5%である。

病気の中では、「高血圧」が35.1%で最も高く、次いで「糖尿病」(18.9%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(17.6%)、「認知症(アルツハイマー病等)」(16.2%)などとなっている。

図表3-15 治療中、または後遺症のある病気(複数回答)



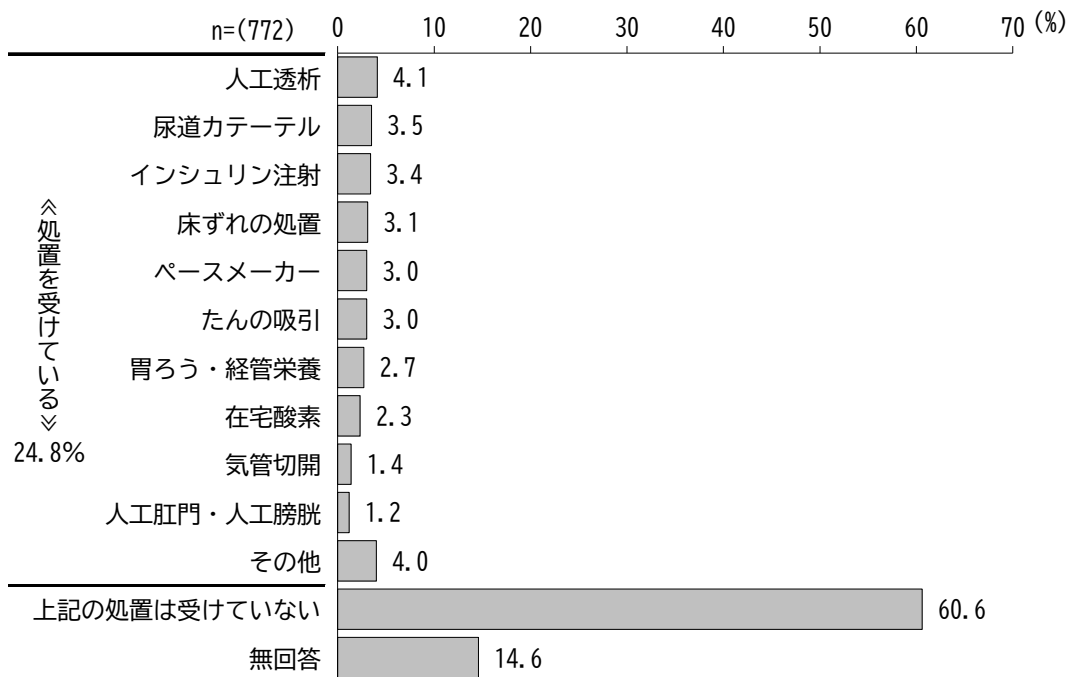
(13) 医療処置の状況

問25 あなたは、次のような医療器具を利用したり、処置を受けたりしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

医療処置の状況は、≪処置を受けている≫が24.8%、「上記の処置は受けていない」が60.6%である。

利用している医療器具・受けている処置としては、「人工透析」が4.1%、「尿道カテーテル」が3.5%、「インシュリン注射」が3.4%、「床ずれの処置」が3.1%などとなっている。

図表3-16 医療処置の状況（複数回答）



※≪処置を受けている≫ = 100% - 「上記の処置は受けていない」 - 「無回答」

要介護度別でみると、「処置を受けている」は要介護5が55.8%で最も高く、次いで要介護2(31.6%)で、おおむね要介護度に倣った順となっている。要介護5の方で受けている処置の割合が高いのは、「胃ろう・経管栄養」(28.8%)、「たんの吸引」(25.0%)、「床ずれの処置」と「在宅酸素」(各13.5%)などとなっている。

図表3-17 医療処置の状況／要介護度別

	n(人)	人工透析	尿道カテーテル	インシュリン注射	床ずれの処置	ペースメーカー	たんの吸引	胃ろう・経管栄養	在宅酸素	気管切開	人工肛門・人工膀胱	その他	上記の処置は受けていない	無回答	処置を受けている	
全体	772	4.1	3.5	3.4	3.1	3.0	3.0	2.7	2.3	1.4	1.2	4.0	60.6	14.6	24.8	
要介護度	要支援1	154	2.6	1.3	1.3	1.3	3.9	0.6	-	1.3	0.6	-	2.6	66.2	19.5	14.3
	要支援2	89	6.7	4.5	5.6	1.1	2.2	-	-	-	-	3.4	3.4	61.8	13.5	24.7
	要介護1	165	3.6	1.2	4.2	1.2	2.4	0.6	-	-	1.2	0.6	5.5	64.8	16.4	18.8
	要介護2	98	7.1	3.1	5.1	-	2.0	3.1	4.1	4.1	1.0	1.0	6.1	60.2	8.2	31.6
	要介護3	86	3.5	4.7	4.7	5.8	4.7	-	1.2	5.8	1.2	1.2	2.3	59.3	12.8	27.9
	要介護4	78	5.1	7.7	2.6	6.4	-	5.1	1.3	-	-	2.6	-	65.4	7.7	26.9
	要介護5	52	-	9.6	-	13.5	5.8	25.0	28.8	13.5	11.5	-	5.8	34.6	9.6	55.8
	わからない	32	-	3.1	-	3.1	3.1	3.1	-	-	-	3.1	9.4	50.0	31.3	18.7

※設問の「無回答」は掲載を省略している

※「処置を受けている」=100% - 「上記の処置は受けていない」 - 「無回答」

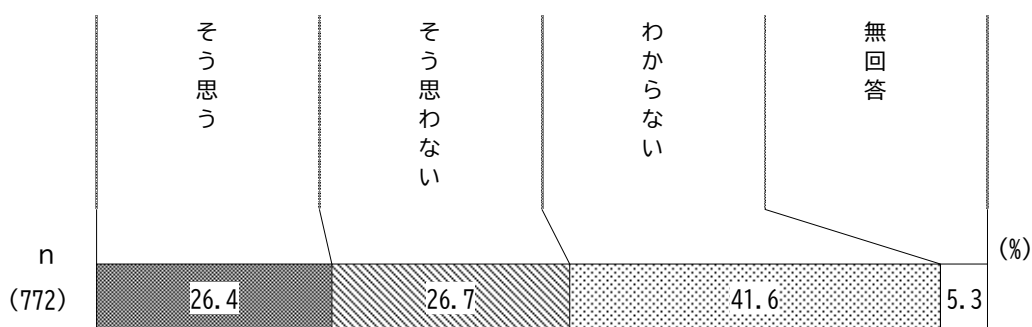
※要介護度の「わからない」は参考として図示し、文中では触れていない

(14) 自宅療養の希望

問26 脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の医療的ケアが必要となった場合、あなたは自宅で療養を続けたいと思いますか。(1つに○)

自宅療養の希望では、「わからない」が41.6%で最も高く、次いで「そう思わない」が26.7%、「そう思う」が26.4%となっている。

図表3-18 自宅療養の希望(単数回答)

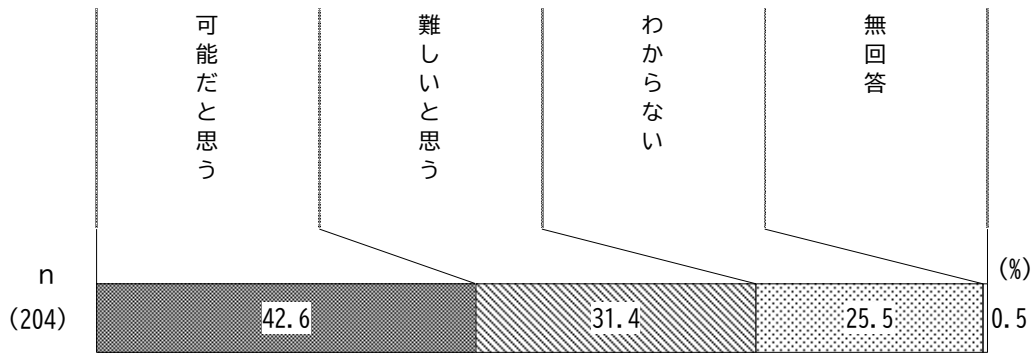


(15) 自宅療養の可否

★自宅で療養を続けたいと思っている方（問26で1に○）にうかがいます。
 問26-1 自宅での療養は可能だと思いますか。（1つに○）

自宅療養の可否では、「可能だと思う」が42.6%で最も高く、次いで「難しいと思う」が31.4%、「わからない」が25.5%となっている。

図表3-19 自宅療養の可否（単数回答）

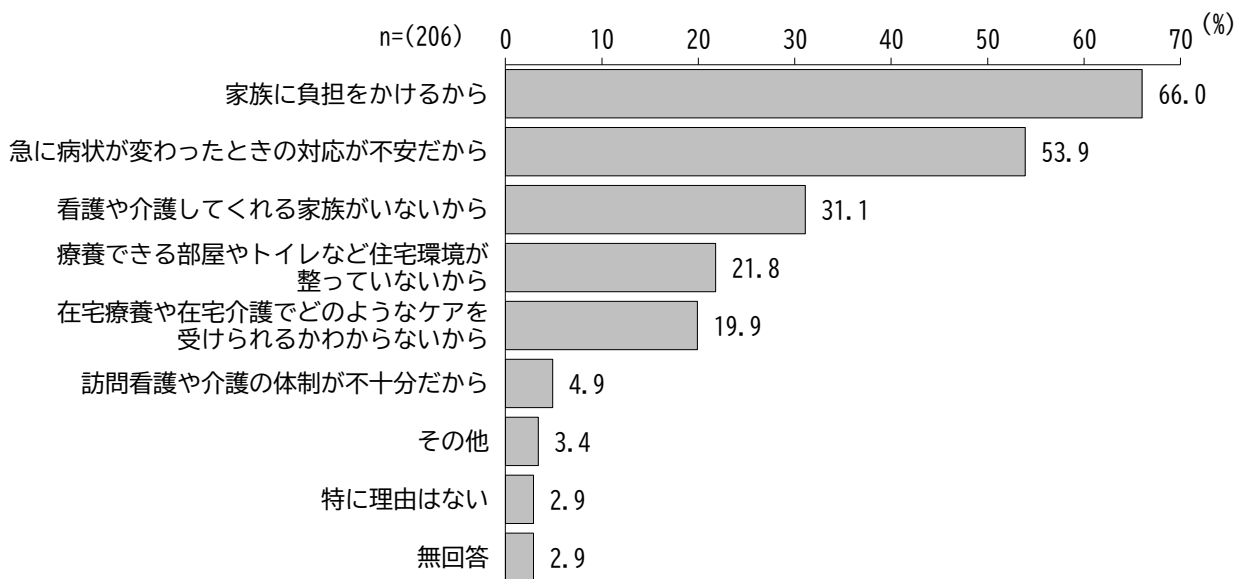


(16) 自宅療養を希望しない理由

★自宅で療養を続けたいと思わない方（問26で2に○）にうかがいます。
 問26-2 その理由を、以下のうちからお答えください。（主なものを3つまでに○）

自宅療養を希望しない理由では、「家族に負担をかけるから」が66.0%で最も高く、次いで「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が53.9%、「看護や介護してくれる家族がないから」が31.1%、「療養できる部屋やトイレなど住宅環境が整っていないから」が21.8%となっている。

図表3-20 自宅療養を希望しない理由（複数回答）



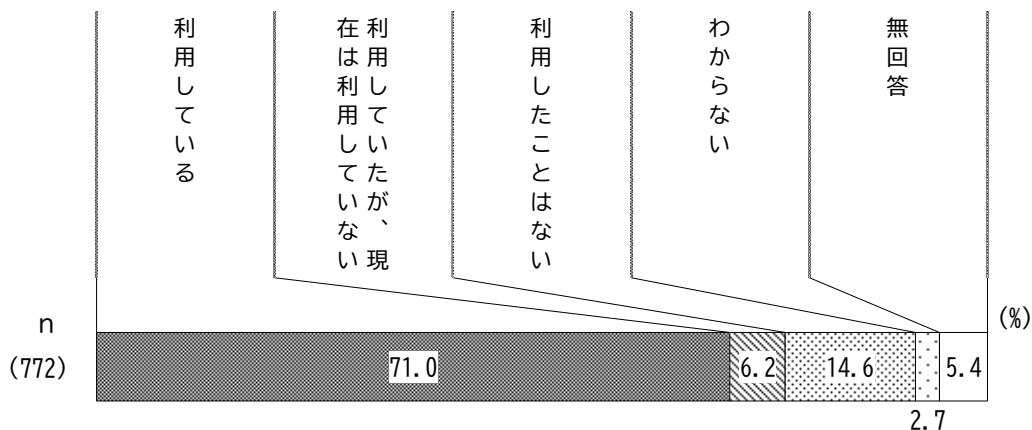
4 介護保険サービス等の利用について

(1) 介護保険サービスの利用状況

問27 あなたは、現在、介護保険サービスを利用していますか。(1つに○)

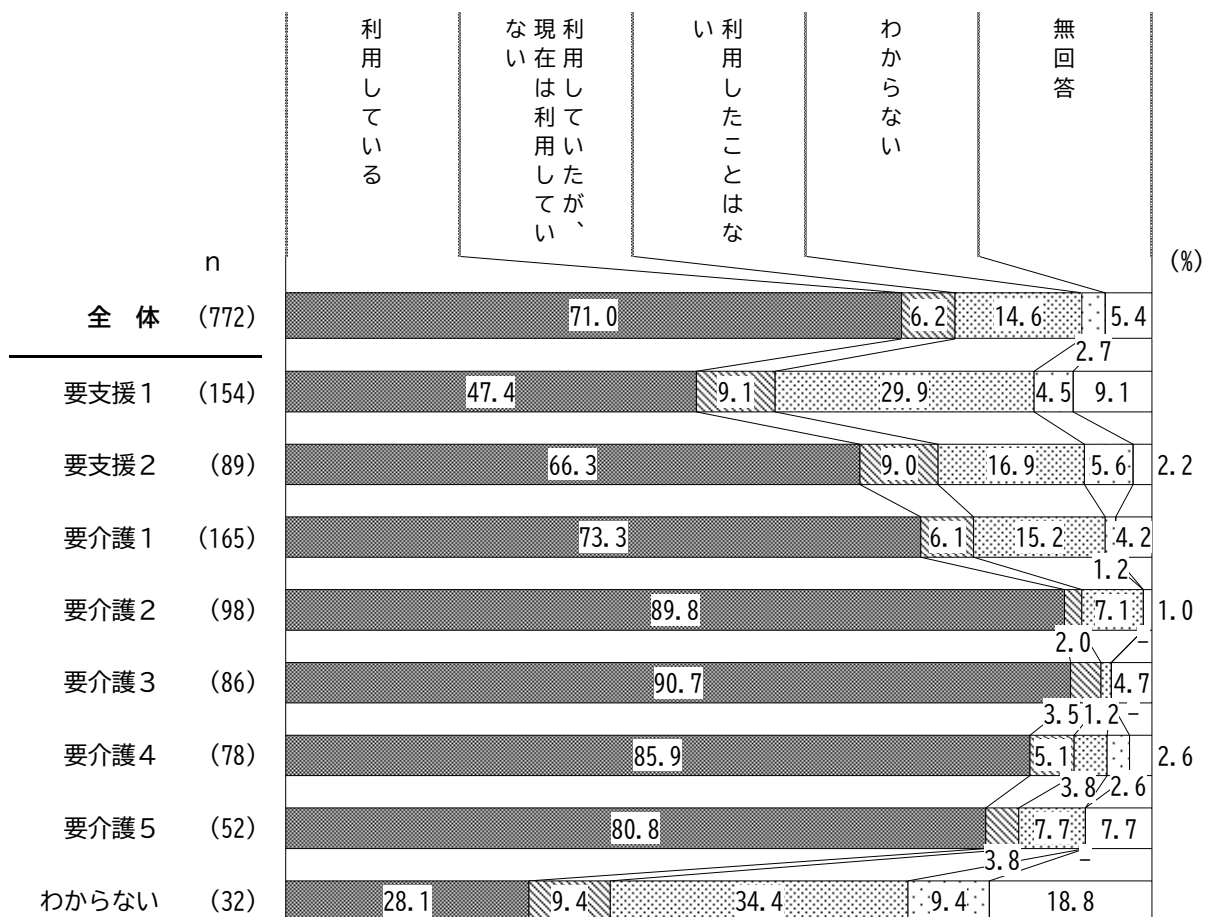
介護保険サービスの利用状況は、「利用している」が71.0%で、「利用したことはない」が14.6%、「利用していたが、現在は利用していない」が6.2%となっている。

図表4-1 介護保険サービスの利用状況(単数回答)



要介護度別でみると、「利用している」は、要介護3で9割台となっている。

図表4-2 介護保険サービスの利用状況/要介護度別



(2) 介護保険サービス利用の満足度

★利用している方（問27で1に○）にうかがいます。

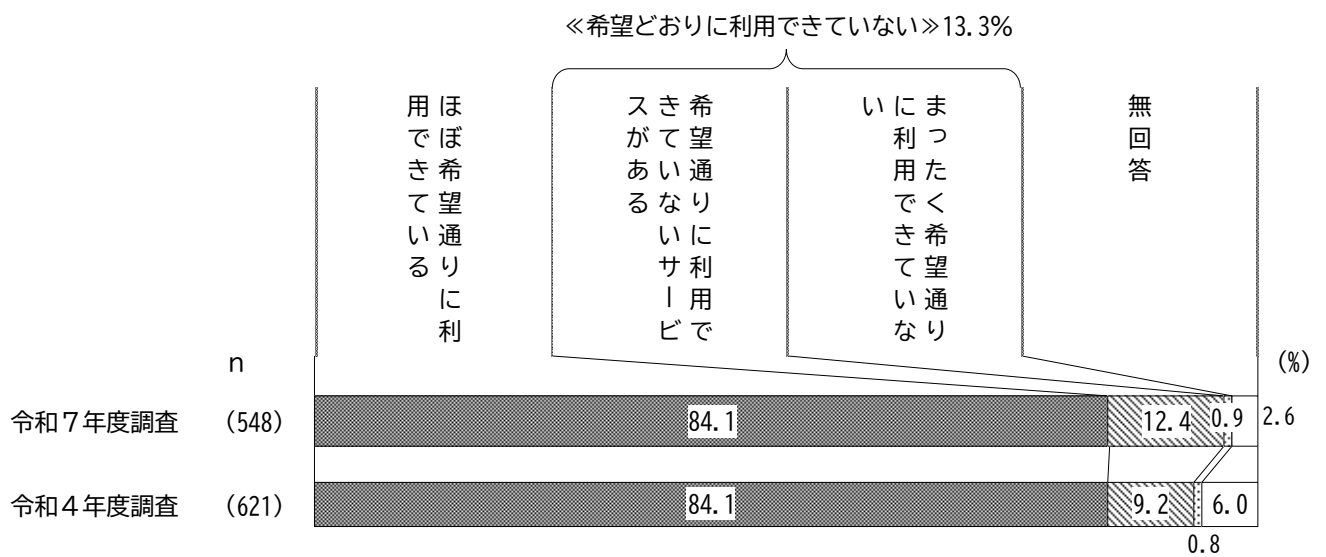
問27-1 あなたは、希望通りに介護保険サービスを利用できていますか。（1つに○）

介護保険サービスを「利用している」と回答した人に、その満足度をたずねた。

その結果、「ほぼ希望通りに利用できている」が84.1%となっている。一方、「希望通りに利用できていないサービスがある」（12.4%）と「まったく希望通りに利用できていない」（0.9%）を合わせた「希望通りに利用できていない」は13.3%となっている。

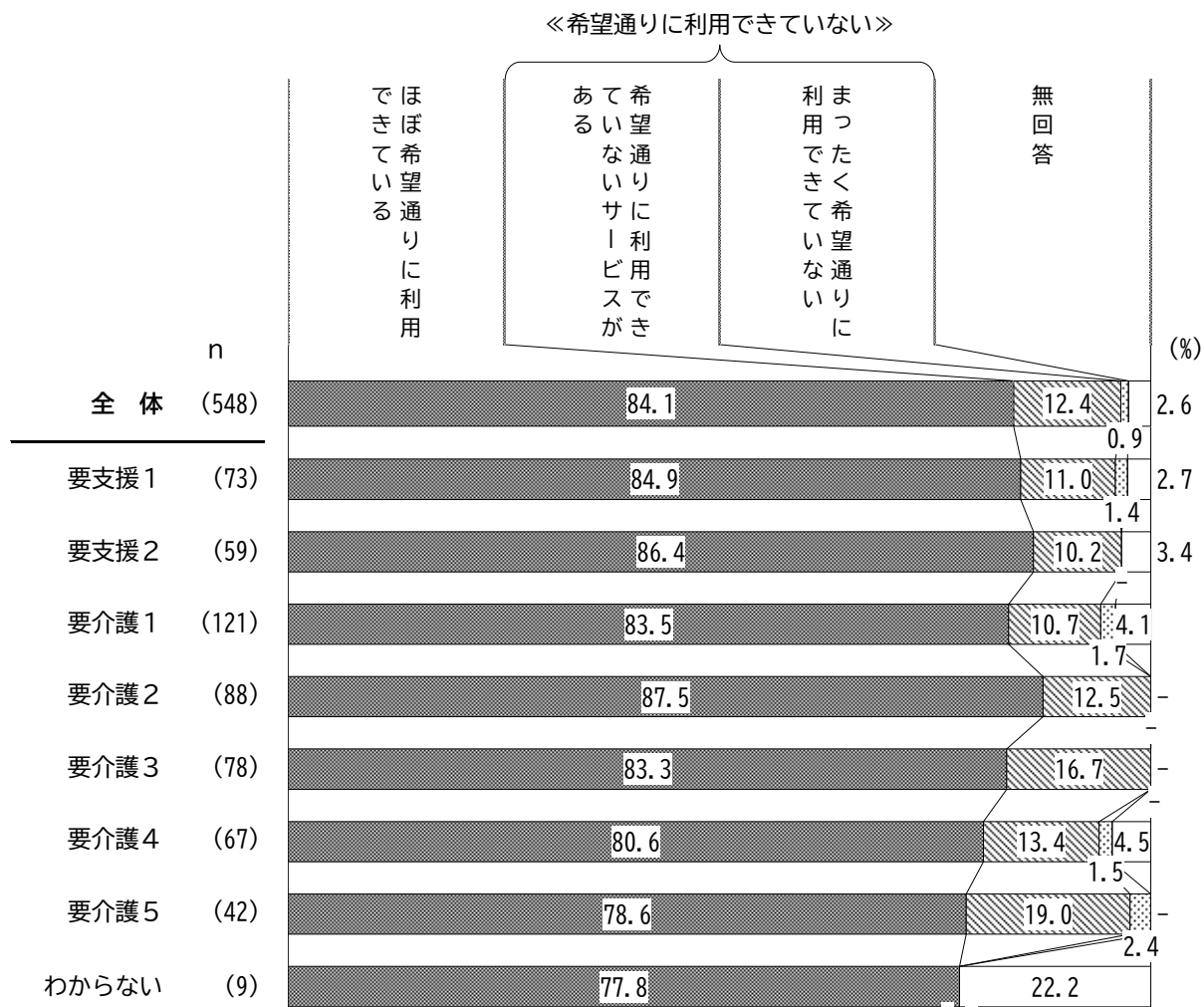
令和4年度調査と比較すると、「ほぼ希望通りに利用できている」は前回から大きな変化はないが、「希望どおりに利用できていない」は3.3ポイント増加している。

図表4-3 介護保険サービス利用の満足度（単数回答）



要介護度別でみると、「ほぼ希望通りに利用できている」は要介護2で87.5%であり、要支援1から要介護4までで8割台となっている。一方、「希望通りに利用できていない」は要介護5で21.4%と最も高くなっている。

図表4-4 介護保険サービス利用の満足度／要介護度別



※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

(3) 希望通りに利用できていない理由

★希望通りに利用できていない方（問27-1で2または3に○）にうかがいます。

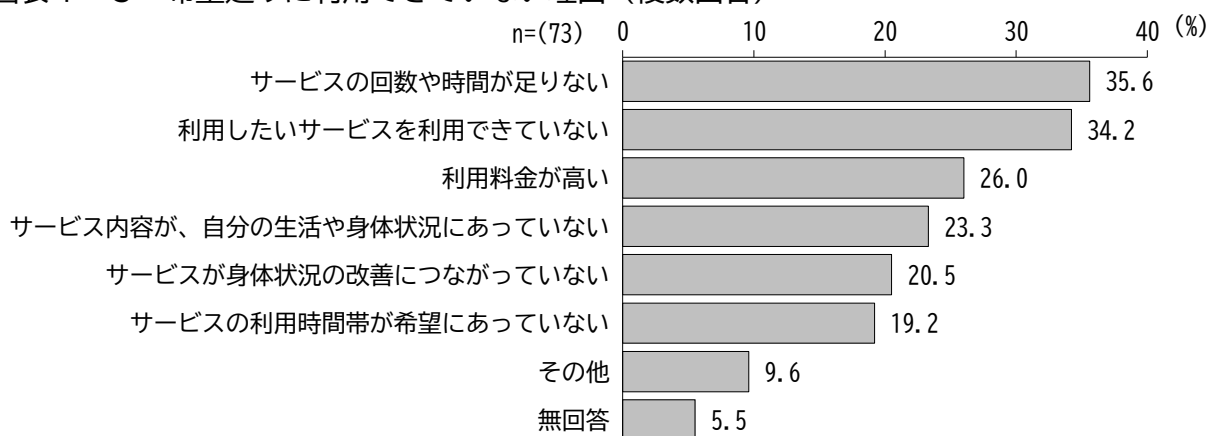
問27-1-1 希望通りに利用できていない理由は何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

介護保険サービスを「希望通りに利用できていない」と回答した人に、その理由をたずねた。

その結果、「サービスの回数や時間が足りない」が35.6%で最も高く、次いで「利用したいサービスを利用できていない」が34.2%、「利用料金が低い」が26.0%、「サービス内容が、自分の生活や身体状況にあっていない」が23.3%となっている。

図表4-5 希望通りに利用できていない理由（複数回答）



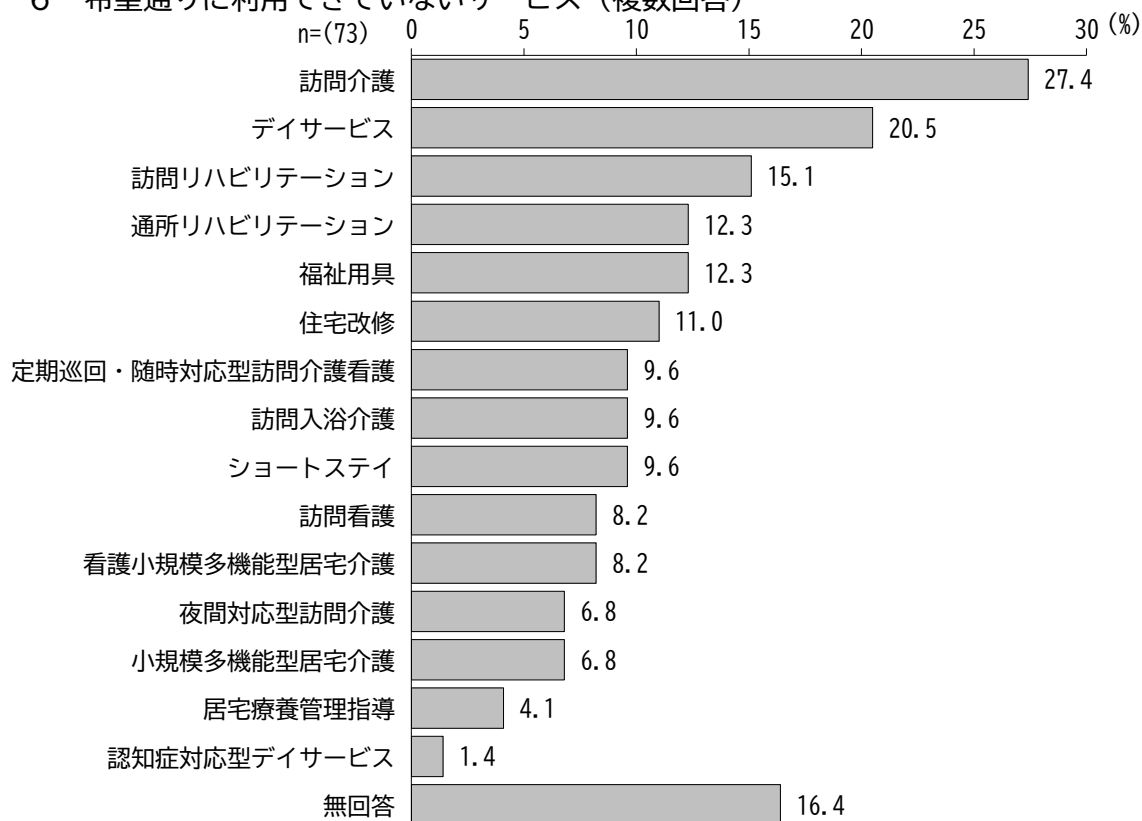
(4) 希望通りに利用できていないサービス

★希望通りに利用できていない方（問27-1で2または3に○）にうかがいます。
 問27-1-2 希望通りに利用できていないサービス、不満を感じているサービスは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

介護保険サービスを「希望通りに利用できていない」と回答した人に、希望通りに利用できていないサービスをたずねた。

その結果、「訪問介護」が27.4%で最も高く、次いで「デイサービス」が20.5%、「訪問リハビリテーション」が15.1%、「通所リハビリテーション」「福祉用具」がともに12.3%などとなっている。

図表4-6 希望通りに利用できていないサービス（複数回答）



(5) 介護保険サービスを利用していない理由

★介護保険サービスを利用していない方（問27で2または3に○）にうかがいます。

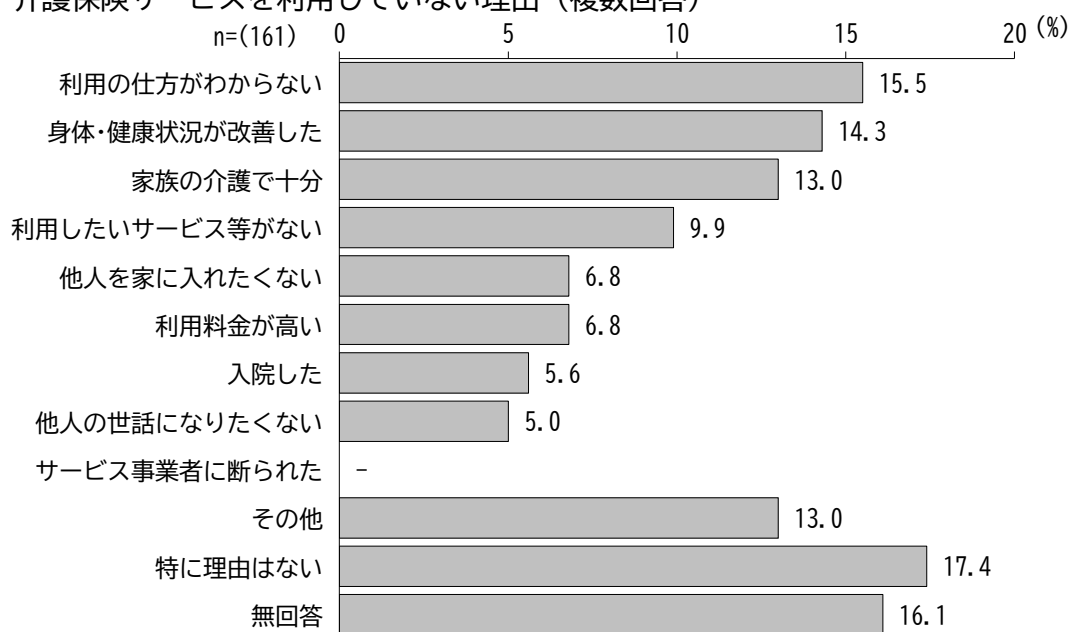
問27-2 あなたが、介護保険サービスを利用していないのはなぜですか。

（あてはまるものすべてに○）

介護保険サービスを、「利用していたが、現在は利用していない」か「利用したことはない」と回答した人に、利用していない理由をたずねた。

その結果、「利用の仕方がわからない」が15.5%で高く、次いで「身体・健康状況が改善した」が14.3%、「家族の介護で十分」が13.0%となっている。一方、「特に理由はない」が17.4%となっている。

図表4-7 介護保険サービスを利用していない理由（複数回答）



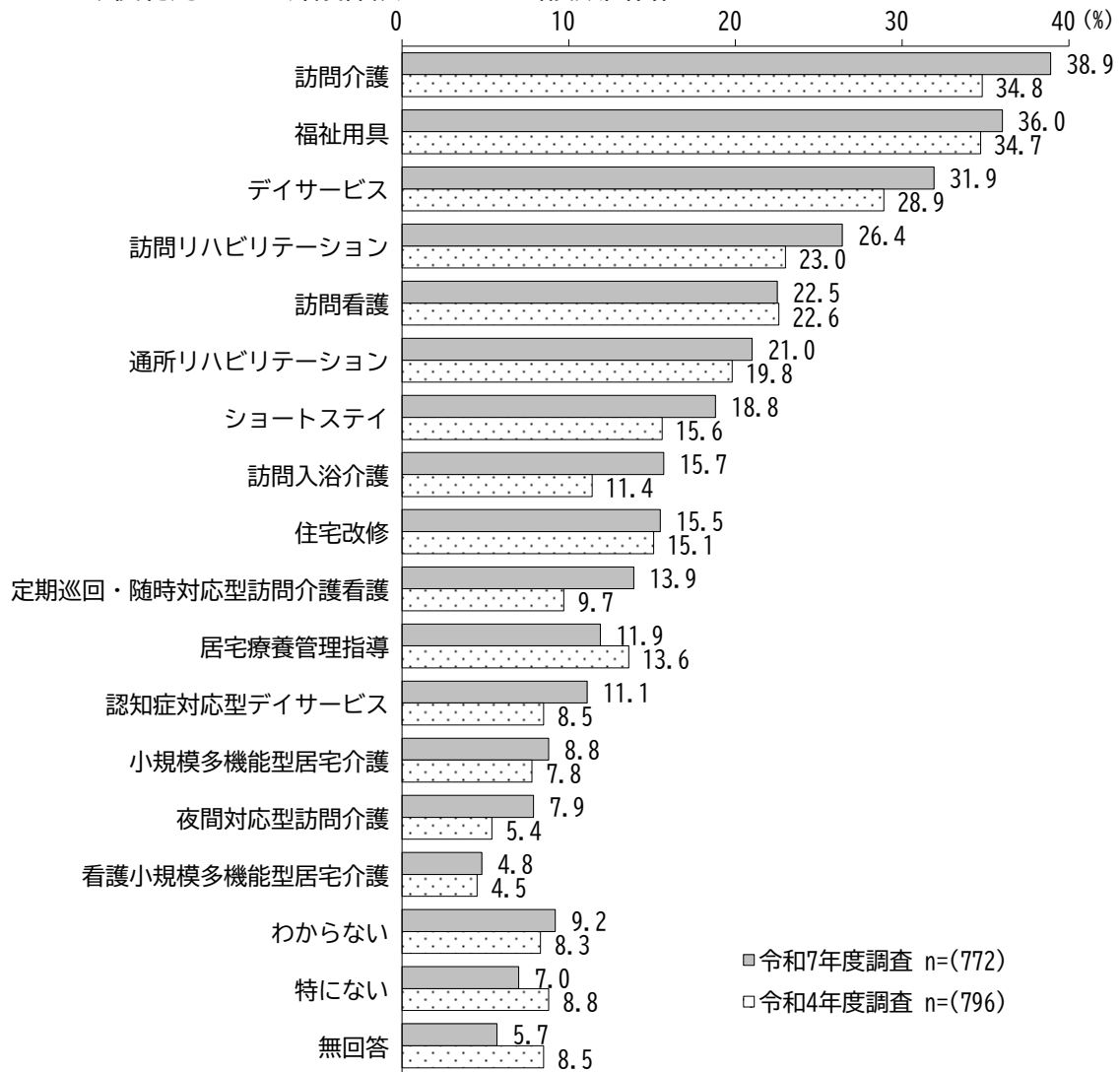
(6) 今後利用したい介護保険サービス

問28 あなたは、今後、ご自宅で生活するうえで、どのような介護保険サービスを利用したい（し続けたい）と思いますか。（あてはまるものすべてに○）

今後利用したい（し続けたい）介護保険サービスは、「訪問介護」が38.9%で最も高く、僅差で「福祉用具」（36.0%）が続き、以下「デイサービス」（31.9%）、「訪問リハビリテーション」（26.4%）、「訪問看護」（22.5%）などとなっている。

令和4年度調査と比較すると、「訪問入浴介護」が4.3ポイント増加している。

図表4-8 今後利用したい介護保険サービス（複数回答）



世帯構成別でみると、「訪問介護」はひとり暮らしで54.1%と最も高く、「デイサービス」と「訪問リハビリテーション」と「訪問看護」と「通所リハビリテーション」は夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で最も高くなっている。

図表4-9 今後利用したい介護保険サービス／世帯構成別

	n (人)	訪問 介護	福 祉 用 具	デ イ サ ー ビ ス	訪 問 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	訪 問 看 護	通 所 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	シ ョ ー ト ス テ イ	訪 問 入 浴 介 護	住 宅 改 修	
全体	772	38.9	36.0	31.9	26.4	22.5	21.0	18.8	15.7	15.5	
世帯 構成 別	ひとり暮らし	209	54.1	34.0	27.8	24.9	24.4	19.6	12.0	13.9	8.6
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	239	31.8	32.2	28.0	27.6	24.3	20.5	17.2	16.3	16.3
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	23	34.8	34.8	43.5	39.1	26.1	26.1	17.4	17.4	17.4
	子どもと同居	227	34.8	41.9	38.8	25.1	18.5	23.3	28.2	17.2	18.1
	その他	54	31.5	44.4	31.5	31.5	25.9	22.2	16.7	16.7	27.8

	n (人)	問 定 期 巡 回 ・ 随 時 対 応 型 訪 問 看 護	居 宅 療 養 管 理 指 導	ス 認 知 症 対 応 型 デ イ サ ー ビ 	小 規 模 多 機 能 型 居 宅 介 護	夜 間 対 応 型 訪 問 介 護	看 護 小 規 模 多 機 能 型 居 宅 介 護	わ か ら な い	特 に な い	無 回 答	
全体	772	13.9	11.9	11.1	8.8	7.9	4.8	9.2	7.0	5.7	
世帯 構成 別	ひとり暮らし	209	20.1	13.4	9.6	9.1	10.5	4.3	6.7	5.3	5.7
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	239	11.3	10.0	11.3	7.5	6.7	5.0	10.9	10.9	6.3
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	23	8.7	13.0	4.3	-	-	-	-	8.7	-
	子どもと同居	227	11.5	11.9	14.1	11.0	7.5	6.6	10.6	3.5	4.4
	その他	54	11.1	16.7	7.4	9.3	5.6	1.9	7.4	9.3	5.6

要介護度別でみると、多くの介護保険サービスで要介護5が最も高くなっており、特に「訪問介護」(44.2%)、「訪問看護」(42.3%)で4割台と高くなっている。また、「福祉用具」は要介護4(48.7%)、「デイサービス」は要介護3(40.7%)、「通所リハビリテーション」は要介護2(29.6%)が最も高くなっている。

図表4-10 今後利用したい介護保険サービス／要介護度別

	n(人)	訪問介護	福祉用具	デイサービス	訪問リハビリテーション	訪問看護	通所リハビリテーション	ショートステイ	訪問入浴介護	住宅改修	
全体	772	38.9	36.0	31.9	26.4	22.5	21.0	18.8	15.7	15.5	
要介護度別	要支援1	154	33.1	28.6	23.4	21.4	12.3	17.5	7.1	9.7	13.0
	要支援2	89	41.6	30.3	25.8	21.3	22.5	20.2	15.7	10.1	15.7
	要介護1	165	41.8	37.6	40.6	17.6	18.2	21.8	15.2	14.5	15.2
	要介護2	98	42.9	39.8	37.8	34.7	26.5	29.6	23.5	17.3	16.3
	要介護3	86	36.0	43.0	40.7	38.4	31.4	17.4	37.2	15.1	16.3
	要介護4	78	35.9	48.7	30.8	37.2	28.2	26.9	28.2	24.4	24.4
	要介護5	52	44.2	46.2	28.8	36.5	42.3	19.2	23.1	36.5	17.3
	わからない	32	34.4	12.5	15.6	12.5	15.6	9.4	9.4	9.4	6.3

	n(人)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	居宅療養管理指導	認知症対応型デイサービス	小規模多機能型居宅介護	夜間対応型訪問介護	看護小規模多機能型居宅介護	わからない	特になし	無回答	
全体	772	13.9	11.9	11.1	8.8	7.9	4.8	9.2	7.0	5.7	
要介護度別	要支援1	154	12.3	7.8	7.1	5.8	4.5	3.2	12.3	9.7	8.4
	要支援2	89	11.2	10.1	12.4	11.2	10.1	3.4	18.0	5.6	2.2
	要介護1	165	14.5	9.1	12.1	9.7	8.5	5.5	6.1	4.8	4.2
	要介護2	98	15.3	13.3	11.2	8.2	7.1	7.1	5.1	6.1	2.0
	要介護3	86	12.8	15.1	16.3	11.6	9.3	4.7	4.7	7.0	2.3
	要介護4	78	12.8	24.4	15.4	9.0	7.7	3.8	5.1	3.8	5.1
	要介護5	52	23.1	15.4	7.7	9.6	9.6	9.6	11.5	7.7	9.6
	わからない	32	12.5	3.1	3.1	3.1	6.3	-	9.4	18.8	18.8

※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

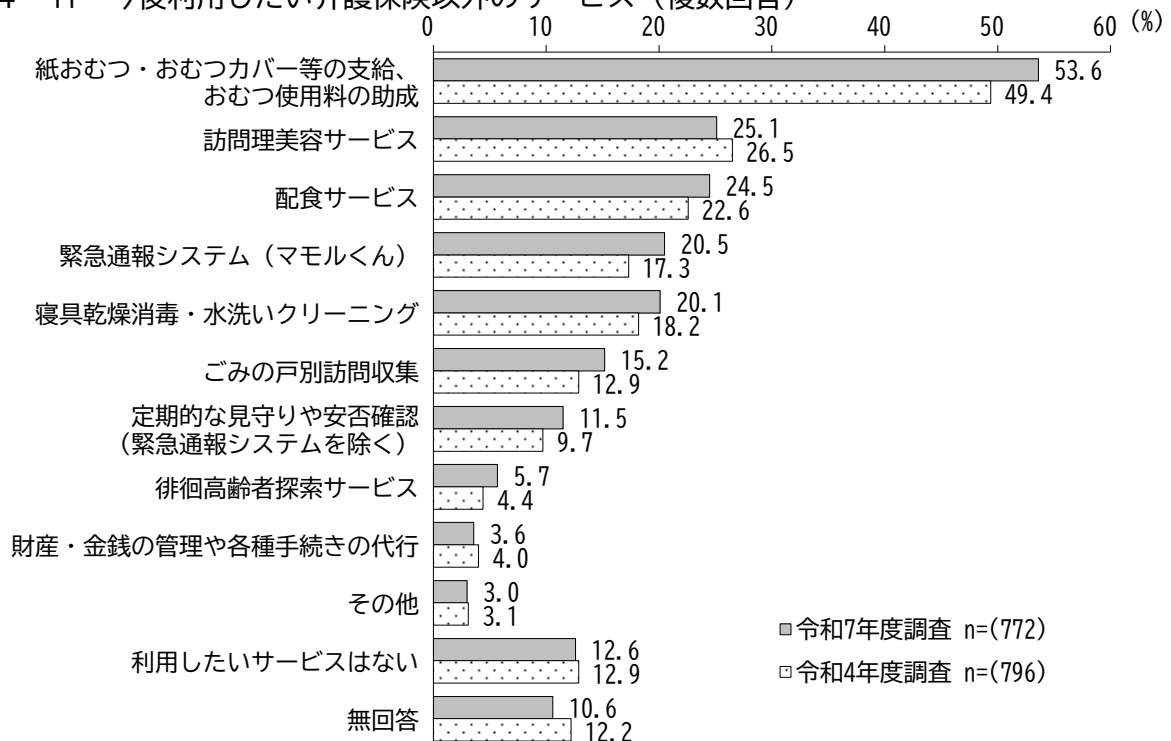
(7) 今後利用したい介護保険以外のサービス

問29 あなたは、今後、ご自宅で生活するうえで、江戸川区が実施する介護保険以外のサービスについて、利用したいものはありますか。(あてはまるものすべてに○)
※既に利用しており今後も続けたいサービスにも○をつけてください。

今後利用したい介護保険以外のサービスは、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」が53.6%で最も高く、次いで「訪問理美容サービス」が25.1%、「配食サービス」が24.5%となっている。

令和4年度調査と比較すると、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」で4.2ポイント、「緊急通報システム（マモルくん）」で3.2ポイント増加している。一方、「訪問理美容サービス」で1.4ポイント減少している。

図表4-11 今後利用したい介護保険以外のサービス（複数回答）



世帯構成別でみると、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」は夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で65.2%と最も高く、「訪問理美容サービス」は子どもと同居が27.3%で最も高くなっている。また、「ごみの戸別訪問収集」「定期的な見守りや安否確認（緊急通報システムを除く）」ではひとり暮らしが最も高くなっている。

要介護度別でみると、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」は要介護4で80.8%と最も高く、「訪問理美容サービス」は要介護5で48.1%と最も高くなっている。また、「配食サービス」は要支援2で31.5%と最も高くなっている。

図表4-12 今後利用したい介護保険以外のサービス／世帯構成別、要介護度別

		n (人)	紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成	訪問理美容サービス	配食サービス	緊急通報システム（マモルくん）	寝具乾燥消毒・水洗いクリーニン	ごみの戸別訪問収集	定期的な見守りや安否確認（緊急通報システムを除く）	徘徊高齢者探索サービス	代行 財産・金銭の管理や各種手続きの	その他	利用したいサービスはない	無回答
全体		772	53.6	25.1	24.5	20.5	20.1	15.2	11.5	5.7	3.6	3.0	12.6	10.6
世帯構成別	ひとり暮らし	209	41.1	23.0	31.1	25.8	19.6	23.9	17.2	3.8	4.3	4.8	10.0	12.0
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	239	54.0	25.9	25.5	22.2	18.8	15.5	9.6	7.1	5.4	2.5	13.0	10.9
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	23	65.2	26.1	30.4	26.1	26.1	4.3	8.7	-	4.3	-	17.4	8.7
	子どもと同居	227	61.7	27.3	15.4	13.2	20.7	7.9	7.5	6.6	1.8	2.6	16.3	10.1
	その他	54	61.1	25.9	33.3	22.2	25.9	11.1	13.0	5.6	-	1.9	3.7	7.4
要介護度別	要支援1	154	34.4	21.4	20.8	18.2	17.5	10.4	11.0	4.5	3.9	4.5	17.5	17.5
	要支援2	89	48.3	24.7	31.5	27.0	19.1	21.3	18.0	5.6	1.1	2.2	9.0	15.7
	要介護1	165	49.7	21.2	24.8	20.0	18.2	16.4	9.7	7.9	3.0	3.0	15.8	4.8
	要介護2	98	61.2	27.6	29.6	20.4	23.5	17.3	12.2	5.1	5.1	3.1	9.2	6.1
	要介護3	86	73.3	20.9	17.4	18.6	19.8	14.0	9.3	4.7	8.1	1.2	9.3	8.1
	要介護4	78	80.8	35.9	28.2	19.2	26.9	12.8	12.8	2.6	3.8	1.3	5.1	1.3
	要介護5	52	65.4	48.1	19.2	23.1	21.2	9.6	13.5	7.7	1.9	-	13.5	13.5
	わからない	32	25.0	9.4	25.0	12.5	15.6	15.6	3.1	6.3	-	12.5	15.6	31.3

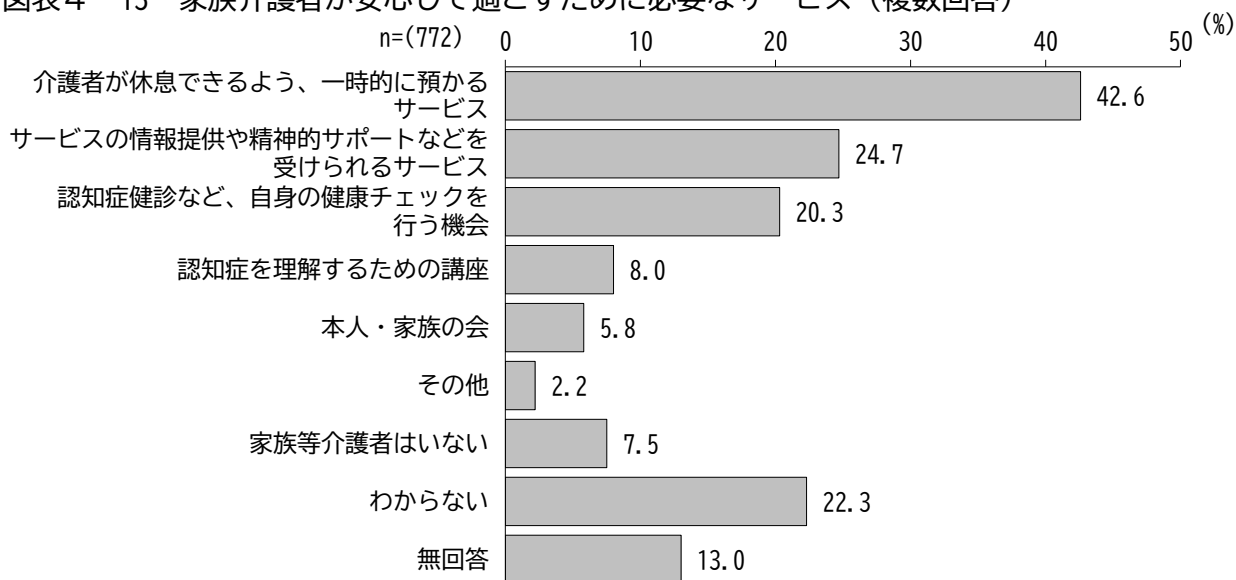
※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

(8) 家族介護者が安心して過ごすために必要なサービス

問30 あなたの家族等介護者にとって、どのようなサービスがあれば安心して過ごせるとお思いますか。(あてはまるものすべてに○)

家族介護者が安心して過ごすために必要なサービスは、「介護者が休息できるよう、一時的に預かるサービス」が42.6%で最も高く、次いで「サービスの情報提供や精神的サポートなどを受けられるサービス」が24.7%、「認知症健診など、自身の健康チェックを行う機会」が20.3%となっている。

図表4-13 家族介護者が安心して過ごすために必要なサービス（複数回答）



介護度別でみると、「介護者が休息できるよう、一時的に預かるサービス」は要介護度が上がるにつれておおよそ高くなっており、要介護5で59.6%と最も高くなっている。「サービスなどの情報提供や精神的サポートなどを受けられるサービス」は要介護4で34.6%と最も高くなっている。

図表4-14 家族介護者が安心して過ごすために必要なサービス／要介護度別

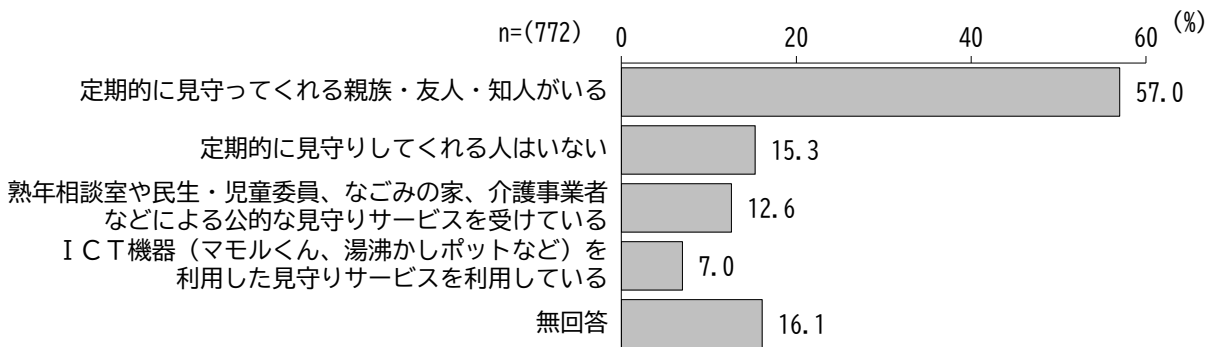
	n (人)	介護者が休息できるような、一時的に預かるサービス	サービスの情報提供や精神的サポートを受けられるサービス	認知症健診など、自身の健康チェックを行う機会	認知症を理解するための講座	家族等介護者はいない	本人・家族の会	その他	わからない	無回答	
全体	772	42.6	24.7	20.3	8.0	7.5	5.8	2.2	22.3	13.0	
要介護度	要支援1	154	29.9	27.9	19.5	7.1	13.0	7.1	1.3	22.7	16.9
	要支援2	89	32.6	24.7	15.7	9.0	11.2	5.6	2.2	23.6	15.7
	要介護1	165	48.5	19.4	21.2	9.7	7.3	2.4	1.8	23.0	10.3
	要介護2	98	49.0	26.5	23.5	7.1	5.1	8.2	4.1	21.4	8.2
	要介護3	86	50.0	30.2	19.8	9.3	2.3	7.0	2.3	18.6	12.8
	要介護4	78	48.7	34.6	23.1	5.1	3.8	6.4	2.6	23.1	3.8
	要介護5	52	59.6	19.2	21.2	5.8	1.9	5.8	1.9	17.3	15.4
	わからない	32	18.8	6.3	15.6	6.3	15.6	3.1	3.1	25.0	31.3

(9) 受けている見守り（安否確認）の状況

問31 あなたが受けている見守り（安否確認）の状況は、次のうちどれですか。
（あてはまるものすべてに○）

受けている見守り（安否確認）の状況は、「定期的に見守ってくれる親族・友人・知人がいる」が57.0%で最も高く、次いで「定期的に見守りしてくれる人はいない」（15.3%）と「熟年相談室や民生・児童委員、なごみの家、介護事業者などによる公的な見守りサービスを利用している」（12.6%）とが1割前後で続いている。

図表4-15 受けている見守り（安否確認）の状況（複数回答）

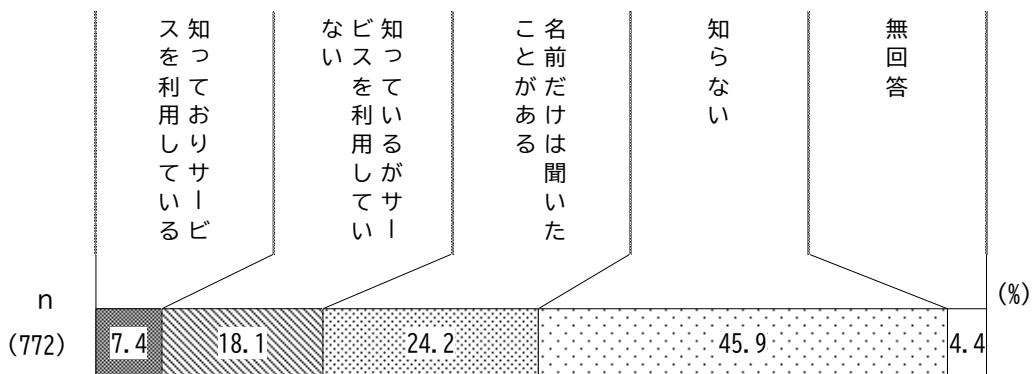


(10) 民間緊急通報システム「マモルくん」の認知度

問32 江戸川区では、体調不良や火災発生時に警備会社に通報し、警備員がかけつけ必要に応じて救急要請を行う民間緊急通報システム「マモルくん」を実施しています。このサービスを知っていますか。（1つに○）

民間緊急通報システム「マモルくん」の認知度は、「知らない」が45.9%で最も高くなっており、以下、「名前だけは聞いたことがある」が24.2%、「知っているがサービスを利用していない」が18.1%、「知っておりサービスを利用している」が7.4%となっている。

図表4-16 民間緊急通報システム「マモルくん」の認知度（単数回答）



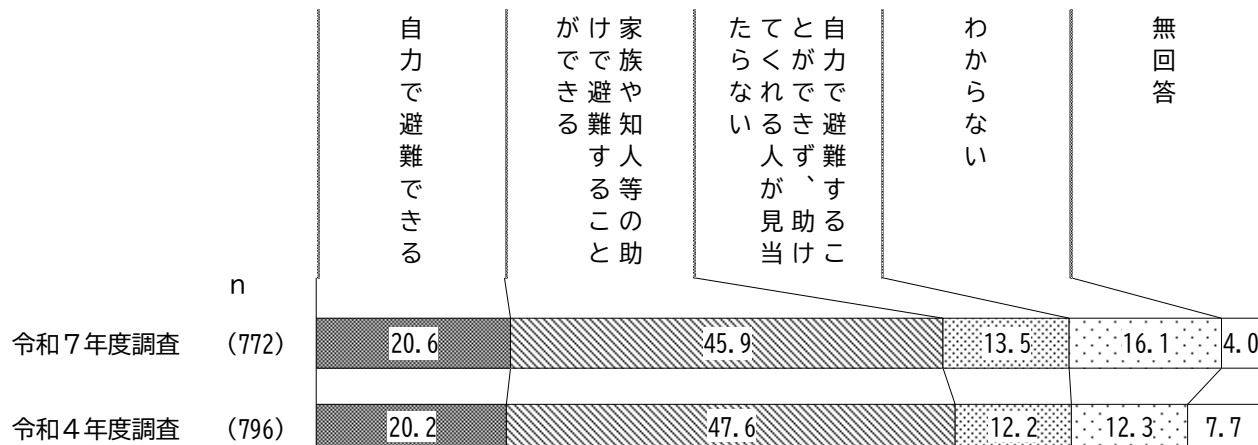
(11) 災害時の避難

問33 あなたは災害が起きたとき、避難することができますか。(1つに○)

災害時の避難については、「家族や知人等の助けで避難することができる」が45.9%で最も高く、「自力で避難できる」が20.6%となっている。一方、「自力で避難することができず、助けてくれる人が見当たらない」が13.5%、「わからない」が16.1%となっている。

令和4年度調査と比較すると、「わからない」が3.8ポイント増加している。

図表4-17 災害時の避難（単数回答）

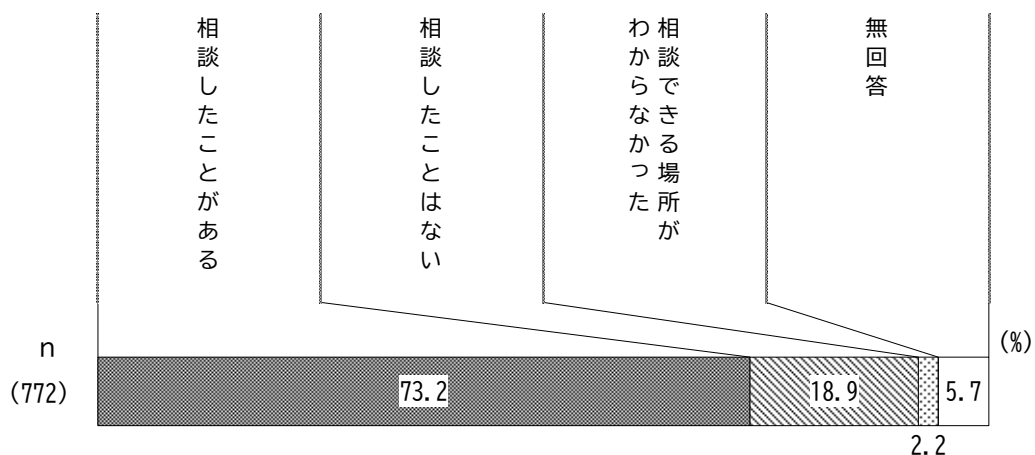


(12) 要介護認定後の介護保険サービス利用について

問34 あなたは、要介護認定を受けた後に、介護保険のサービス利用について、熟年相談室(地域包括支援センター)や居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)に相談したことはありますか。(1つに○)

要介護認定後の介護保険サービス利用については、「相談したことがある」が73.2%で最も高く、「相談したことはない」が18.9%、「相談できる場所がわからなかった」が2.2%となっている。

図表4-18 要介護認定後の介護保険サービス利用について（単数回答）

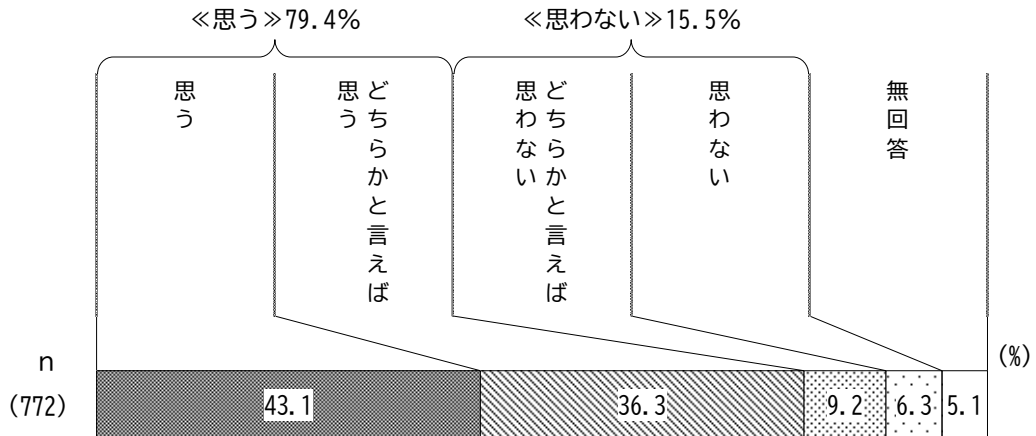


(13) 介護・福祉施設のサービスの受けやすさ

問35 あなたの暮らしている地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすいと思いますか。(1つに○)

介護・福祉施設のサービスの受けやすさは、「思う」が43.1%で最も高く、「どちらかと言えば思う」(36.3%)と合わせた「思う」は79.4%となっている。一方、「どちらかと言えば思わない」(9.2%)と「思わない」(6.3%)を合わせた「思わない」は15.5%となっている。

図表4-19 介護・福祉施設のサービスの受けやすさ (単数回答)



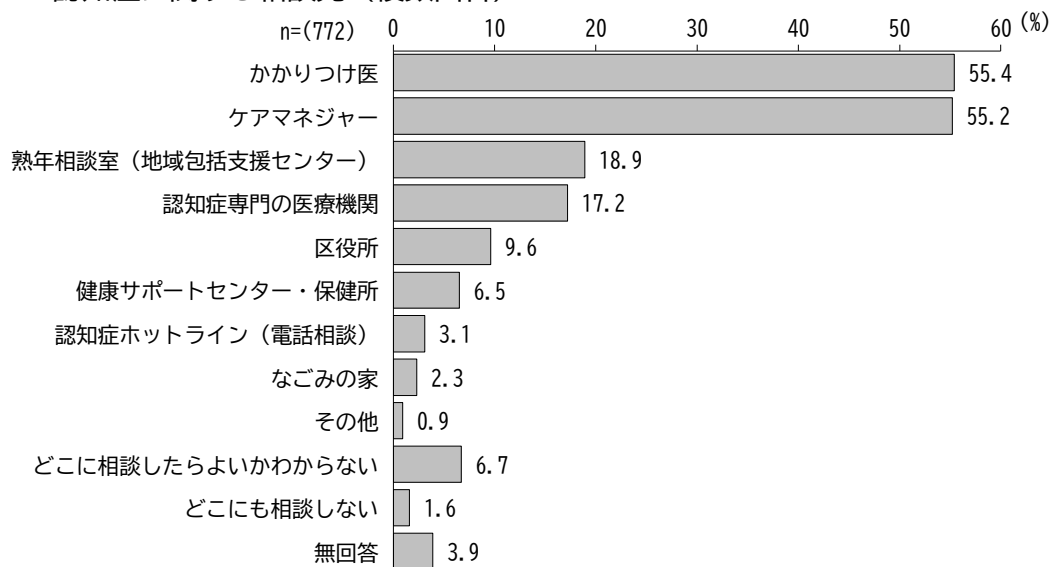
5 認知症や成年後見制度について

(1) 認知症に関する相談先

問36 あなたやご家族に認知症の不安が生じた場合、どこに相談しますか。
(あてはまるものすべてに○)

認知症に関する相談先では、「かかりつけ医」が55.4%で最も高く、僅差で「ケアマネジャー」が55.2%となっている。以下、「熟年相談室（地域包括支援センター）」が18.9%、「認知症専門の医療機関」が17.2%と2割弱で続いている。

図表5-1 認知症に関する相談先（複数回答）

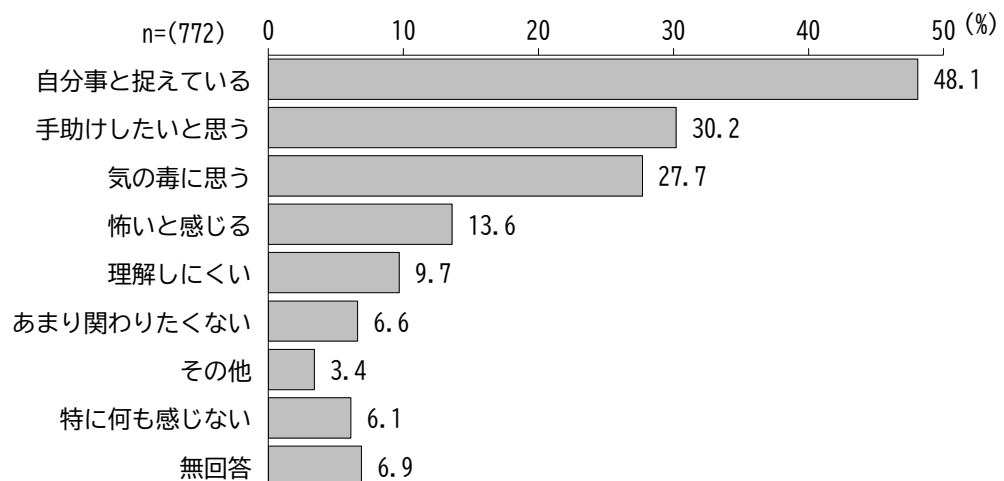


(2) 認知症の人への印象

問37 認知症の人に対して、あなたはどのような印象を持っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

認知症の人への印象では、「自分事と捉えている」が48.1%で最も高く、以下、「手助けしたいと思う」が30.2%、「気の毒に思う」が27.7%と続いている。

図表5-2 認知症の人への印象（複数回答）



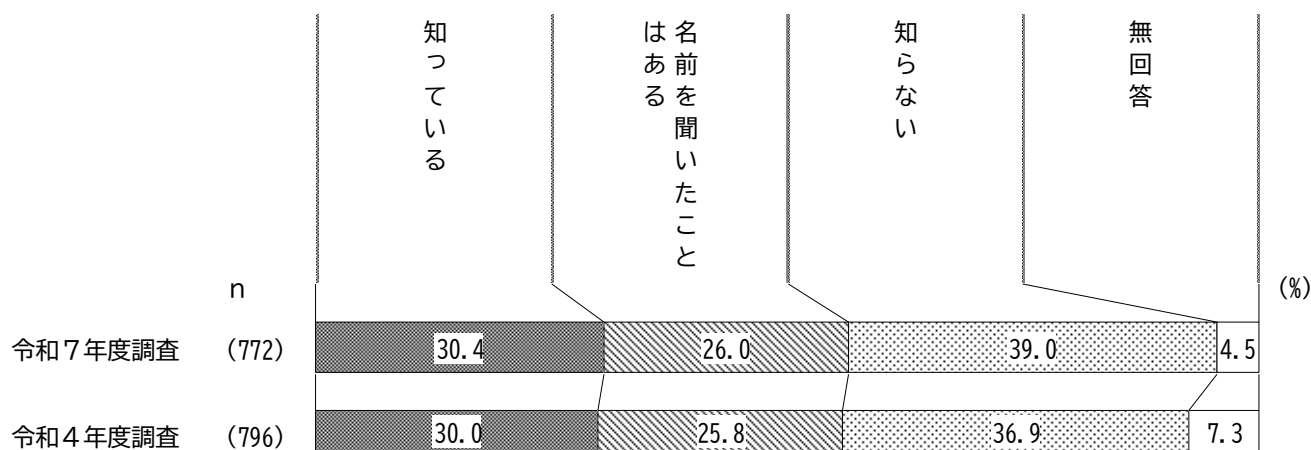
(3) 成年後見制度の認知度

問38 あなたは、認知症などにより判断能力が十分でない人に、本人の権利を守るための援助者を選び、法律面や生活面を支援する「成年後見制度」を知っていますか。(1つに○)

成年後見制度の認知度は、「知っている」が30.4%、「名前を聞いたことはある」が26.0%となっている。一方、「知らない」が39.0%と最も高くなっている。

令和4年度調査と比較すると、「知らない」が2.1ポイント増加している。

図表5-3 成年後見制度の認知度(単数回答)



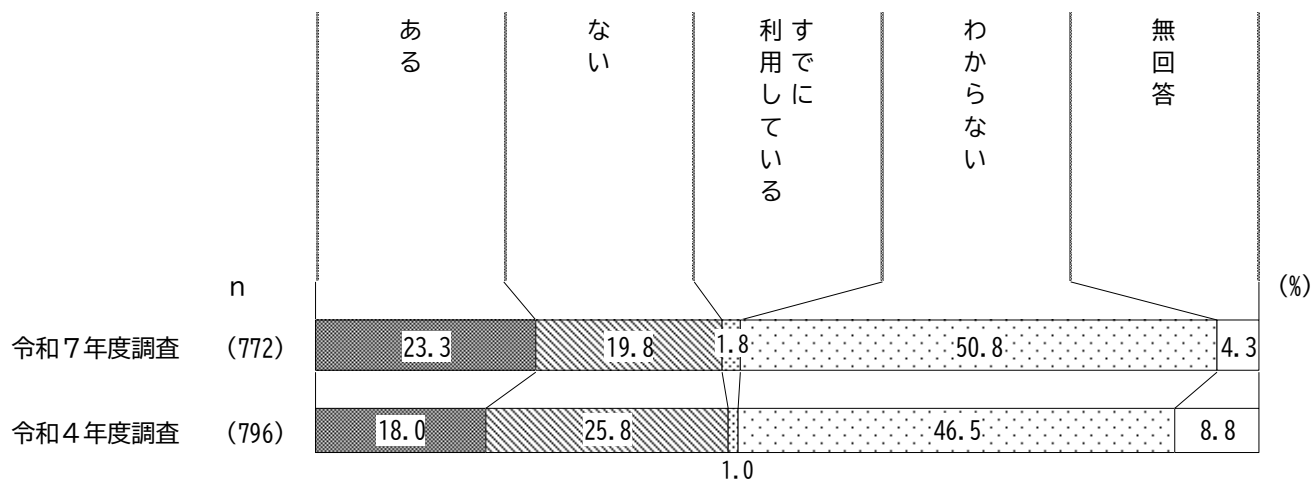
(4) 成年後見制度の利用意向

問39 ご家族やご親族が、認知症などにより判断能力が十分でなくなってきた場合に、「成年後見制度」を利用するつもりはありますか。(1つに○)

成年後見制度の利用意向は、「ある」が23.3%、「ない」が19.8%となっている。一方、「わからない」が50.8%と最も高くなっている。

令和4年度調査と比較すると、「ない」が6.0ポイント減少している。

図表5-4 成年後見制度の利用意向(単数回答)



6 介護や区の施策について

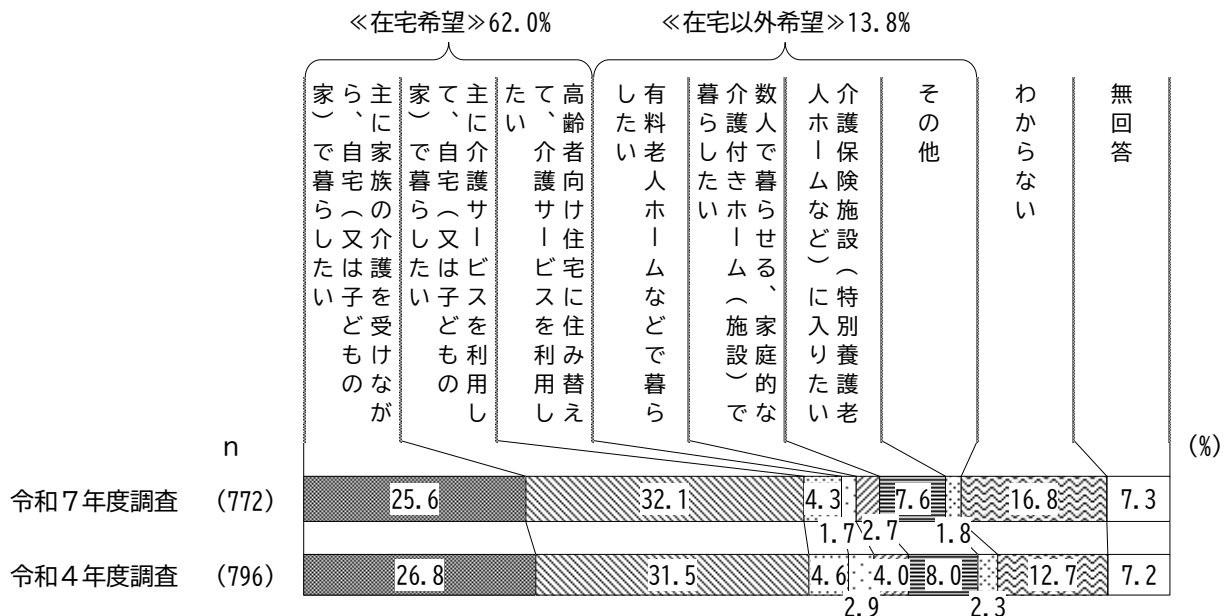
(1) 今後希望する暮らし方

問40 あなたは、今後どのように暮らしたいですか。(最も近い考え1つに○)

今後希望する暮らし方は、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が32.1%で最も高く、次いで「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が25.6%となっており、これに「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」（4.3%）の3つの暮らし方を合わせた《在宅希望》は62.0%である。一方、「有料老人ホームなどで暮らしたい」（1.7%）、「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」（2.7%）、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」（7.6%）、「その他」（1.8%）を合わせた《在宅以外希望》は13.8%となっている。

令和4年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

図表5-5 今後希望する暮らし方（単数回答）



- ※《在宅希望》＝「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 ＋「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 ＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」
- ※《在宅以外希望》＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」
 ＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
 ＋「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」＋「その他」

世帯構成別でみると、「在宅希望」は子どもと同居と夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で73.9%と最も高く、次いで、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）で62.3%となっている。一方、「在宅以外希望」はひとり暮らしで20.9%と最も高くなっている。

要介護度別でみると、「在宅希望」は要支援1、要支援2で5割台の一方、要介護1以上では要介護5を除き、6～7割台となっている。

図表5-6 今後希望する暮らし方／世帯構成別、要介護度別

		n (人)	主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい	主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい	高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい	有料老人ホームなどで暮らしたい	数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい	介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい	その他	わからない	無回答	在宅希望	在宅以外希望
全体		772	25.6	32.1	4.3	1.7	2.7	7.6	1.8	16.8	7.3	62.0	13.8
世帯構成別	ひとり暮らし	209	9.6	28.7	8.1	1.4	5.7	10.0	3.8	25.4	7.2	46.4	20.9
	夫婦2人暮らし （配偶者65歳以上）	239	23.4	35.6	3.3	2.5	2.1	7.1	0.8	17.6	7.5	62.3	12.5
	夫婦2人暮らし （配偶者64歳以下）	23	52.2	17.4	4.3	-	-	-	-	21.7	4.3	73.9	0.0
	子どもと同居	227	38.3	33.0	2.6	1.8	1.8	5.7	0.9	8.8	7.0	73.9	10.2
	その他	54	38.9	35.2	-	-	-	9.3	1.9	9.3	5.6	74.1	11.2
要介護度別	要支援1	154	18.8	31.2	3.9	2.6	4.5	7.1	2.6	22.7	6.5	53.9	16.8
	要支援2	89	18.0	27.0	7.9	4.5	5.6	11.2	2.2	18.0	5.6	52.9	23.5
	要介護1	165	27.9	40.0	3.0	1.2	2.4	4.2	1.2	15.8	4.2	70.9	9.0
	要介護2	98	25.5	30.6	9.2	-	1.0	10.2	1.0	17.3	5.1	65.3	12.2
	要介護3	86	36.0	34.9	1.2	1.2	1.2	9.3	-	9.3	7.0	72.1	11.7
	要介護4	78	39.7	30.8	1.3	1.3	-	6.4	3.8	11.5	5.1	71.8	11.5
	要介護5	52	28.8	25.0	1.9	1.9	1.9	9.6	-	13.5	17.3	55.7	13.4
わからない	32	6.3	25.0	9.4	-	3.1	6.3	6.3	28.1	15.6	40.7	15.7	

※「在宅希望」＝「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 ＋「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 ＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※「在宅以外希望」＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」
 ＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
 ＋「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」＋「その他」

※要介護度の「わからない」は参考として図示し、文中では触れていない

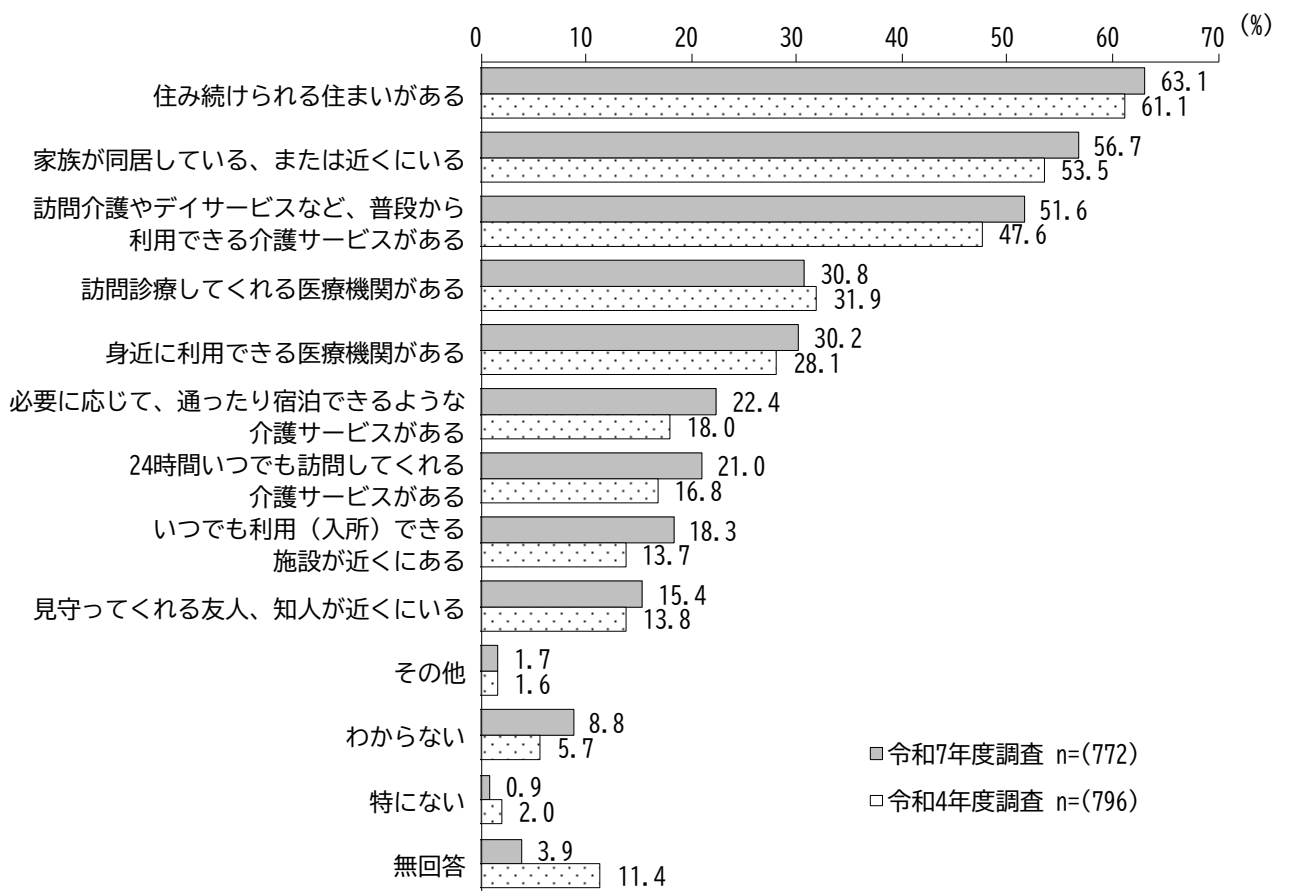
(2) 在宅で暮らし続けるために必要なこと

問41 あなたは、介護が必要になっても在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

在宅で暮らし続けるために必要なことは、「住み続けられる住まいがある」が63.1%で最も高く、次いで「家族が同居している、または近くにいる」が56.7%、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」が51.6%などとなっている。

令和4年度調査との比較では、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」は4.0ポイント増加している。

図表5-7 在宅で暮らし続けるために必要なこと（複数回答）



(3) 熟年相談室（地域包括支援センター）の利用経験

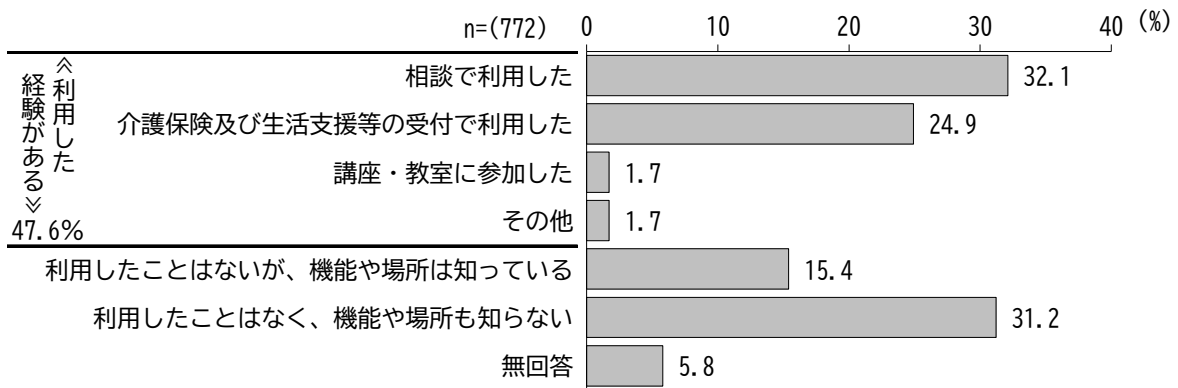
問42 あなたは、熟年相談室を利用したことはありますか。

（あてはまるものすべてに○）

熟年相談室（地域包括支援センター）の利用経験では、「利用した経験がある」が47.6%で、「利用したことはなく、機能や場所は知らない」が31.2%となっている。

利用した中では、「相談で利用した」が32.1%で最も高く、次いで、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」が24.9%となっている。

図表5-8 熟年相談室（地域包括支援センター）の利用経験（複数回答）



※「利用した経験がある」=100% - 「利用したことはないが、機能や場所は知っている」

- 「利用したことはなく機能や場所は知らない」 - 「無回答」

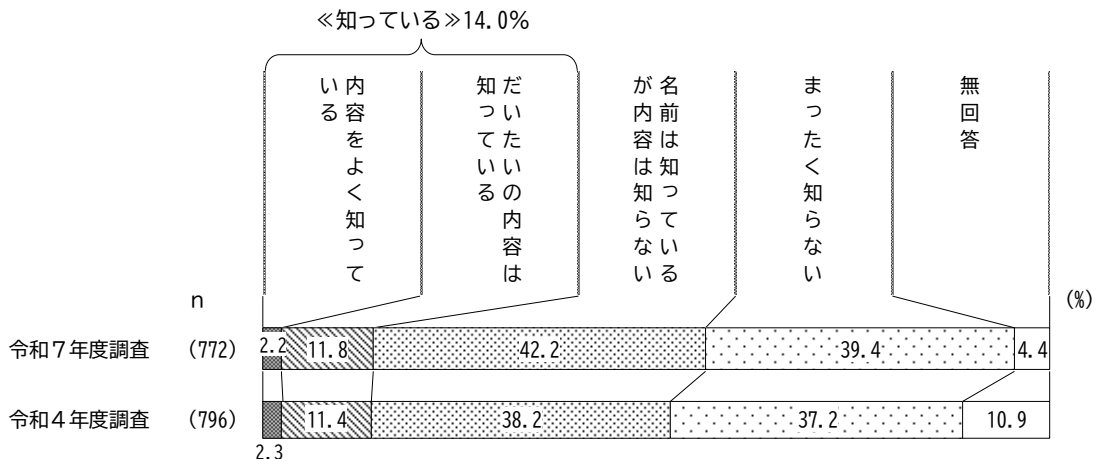
(4) なごみの家の認知度

問43 あなたは、「なごみの家」についてどのくらい知っていますか。（1つに○）

なごみの家の認知度は、「内容をよく知っている」が2.2%で、「だいたいの内容は知っている」（11.8%）を合わせた「知っている」は14.0%となっている。また、「名前は知っているが内容は知らない」が42.2%となっている。一方、「まったく知らない」が39.4%である。

令和4年度調査との比較では、「名前は知っているが内容は知らない」は4.0ポイント増加している。

図表5-9 なごみの家の認知度（単数回答）

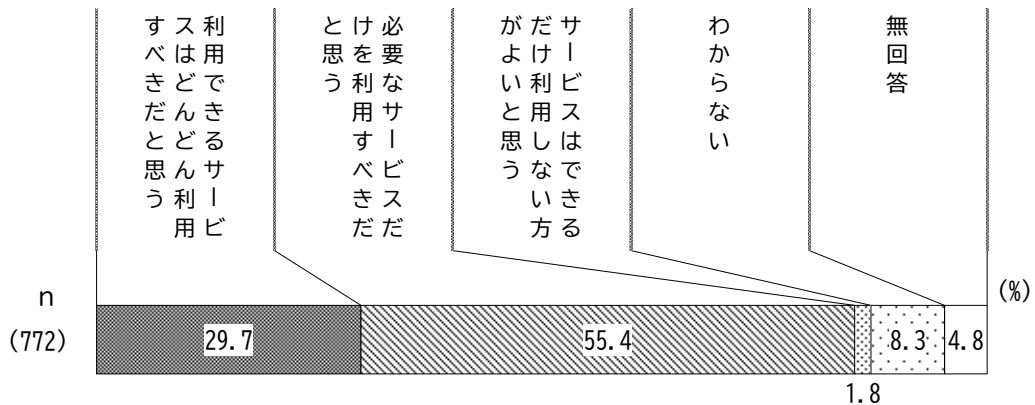


(5) 介護保険サービスの利用のあり方についての考え

問44 あなたは、介護保険サービスの利用のあり方について、どのようなお考えをお持ちですか。(1つに○)

介護保険サービスの利用のあり方についての考えは、「必要なサービスだけを利用すべきだと思う」が55.4%で最も高く、次いで「利用できるサービスはどんどん利用すべきだと思う」が29.7%となっている。

図表5-10 介護保険サービスの利用のあり方についての考え(単数回答)

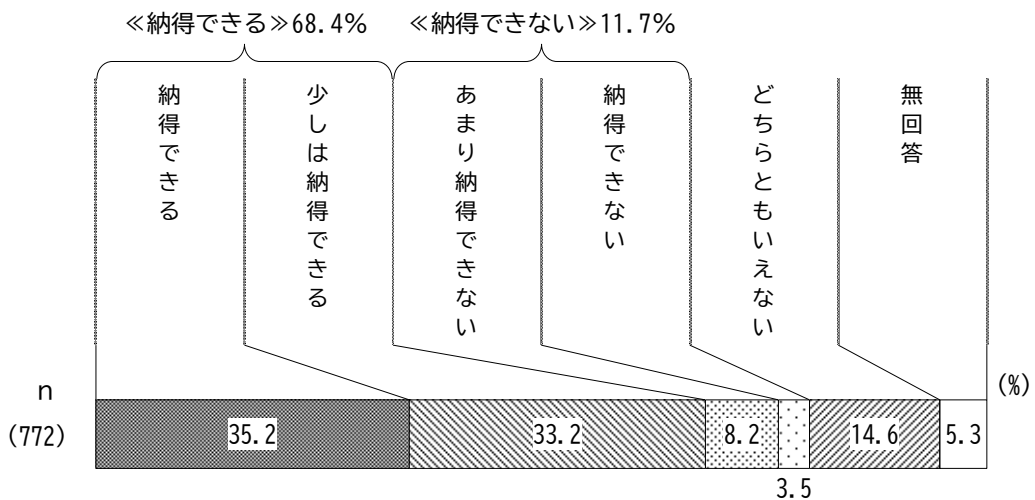


(6) 介護保険制度への納得感

問45 介護保険制度のしくみや保険料の負担感を踏まえたうえで、この制度について納得できますか。(1つに○)

介護保険制度への納得感は、「納得できる」が35.2%で最も高く、これに「少しは納得できる」(33.2%)を合わせた「納得できる」は68.4%となっている。一方、「あまり納得できない」(8.2%)と「納得できない」(3.5%)を合わせた「納得できない」は11.7%となっている。

図表5-11 介護保険制度への納得感(単数回答)

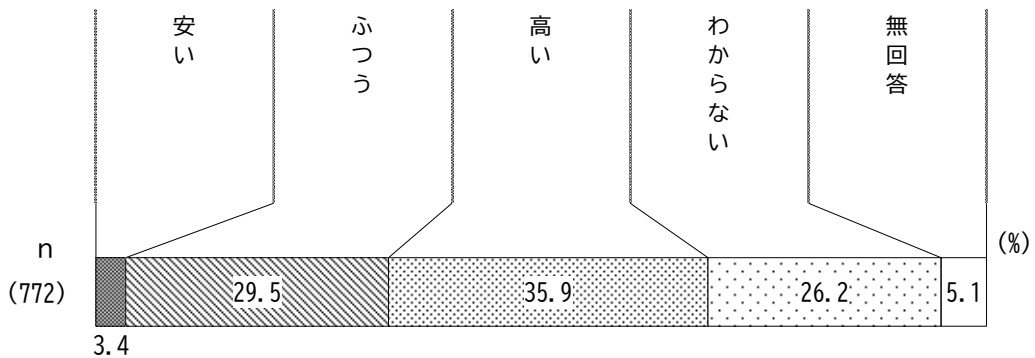


(7) 介護保険料についての考え

問46 前問を踏まえたうえで、介護保険の保険料について、どのように思いますか。
(1つに○)

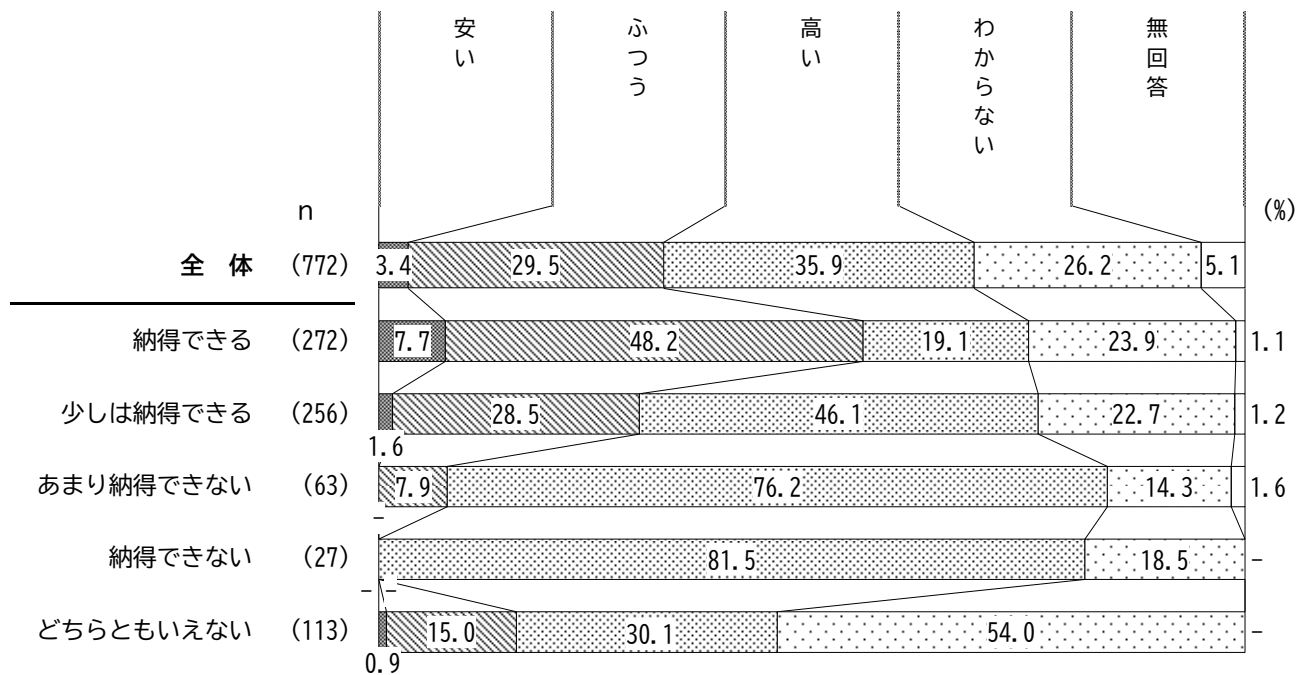
介護保険料については、「高い」が35.9%と最も高く、以下、「ふつう」(29.5%)、「わからない」(26.2%)、「安い」(3.4%)の順となっている。

図表5-12 介護保険料についての考え(単数回答)



介護保険制度への納得感別でみると、「高い」は納得感が低いほど上がる傾向になっており、あまり納得できないで76.2%となっている。

図表5-13 介護保険料についての考え/介護保険制度への納得感別

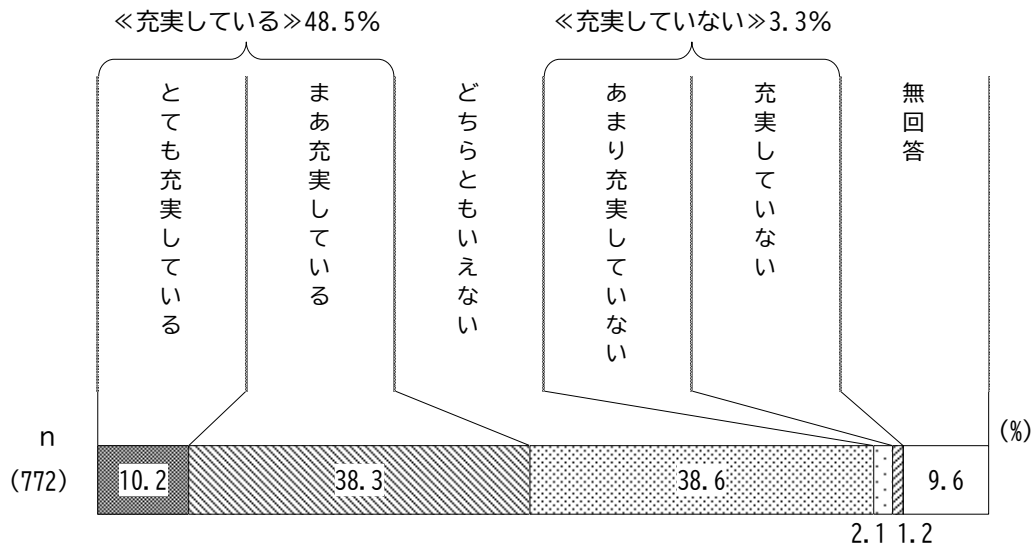


(8) 区の高齢者施策の充実度

問47 江戸川区の高齢者施策について、あなたはどのように感じますか。(1つに○)

区の高齢者施策の充実度は、「とても充実している」が10.2%、「まあ充実している」が38.3%で、これらを合わせた「充実している」は48.5%となっている。「どちらともいえない」が38.6%と最も高くなっており、「あまり充実していない」(2.1%)と「充実していない」(1.2%)を合わせた「充実していない」は3.3%となっている。

図表5-14 区の高齢者施策の充実度(単数回答)

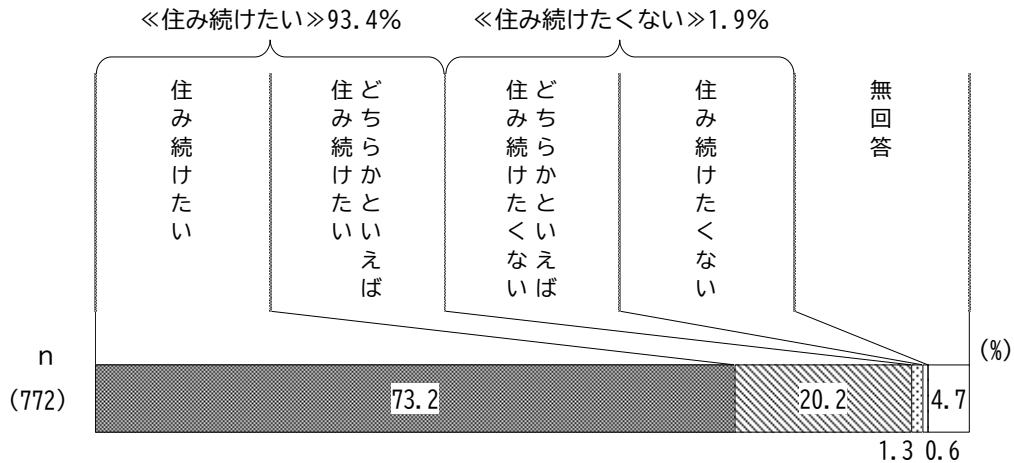


(9) 今後の居留意向

問48 あなたは、これから先も江戸川区に住み続けたいですか。(1つに○)

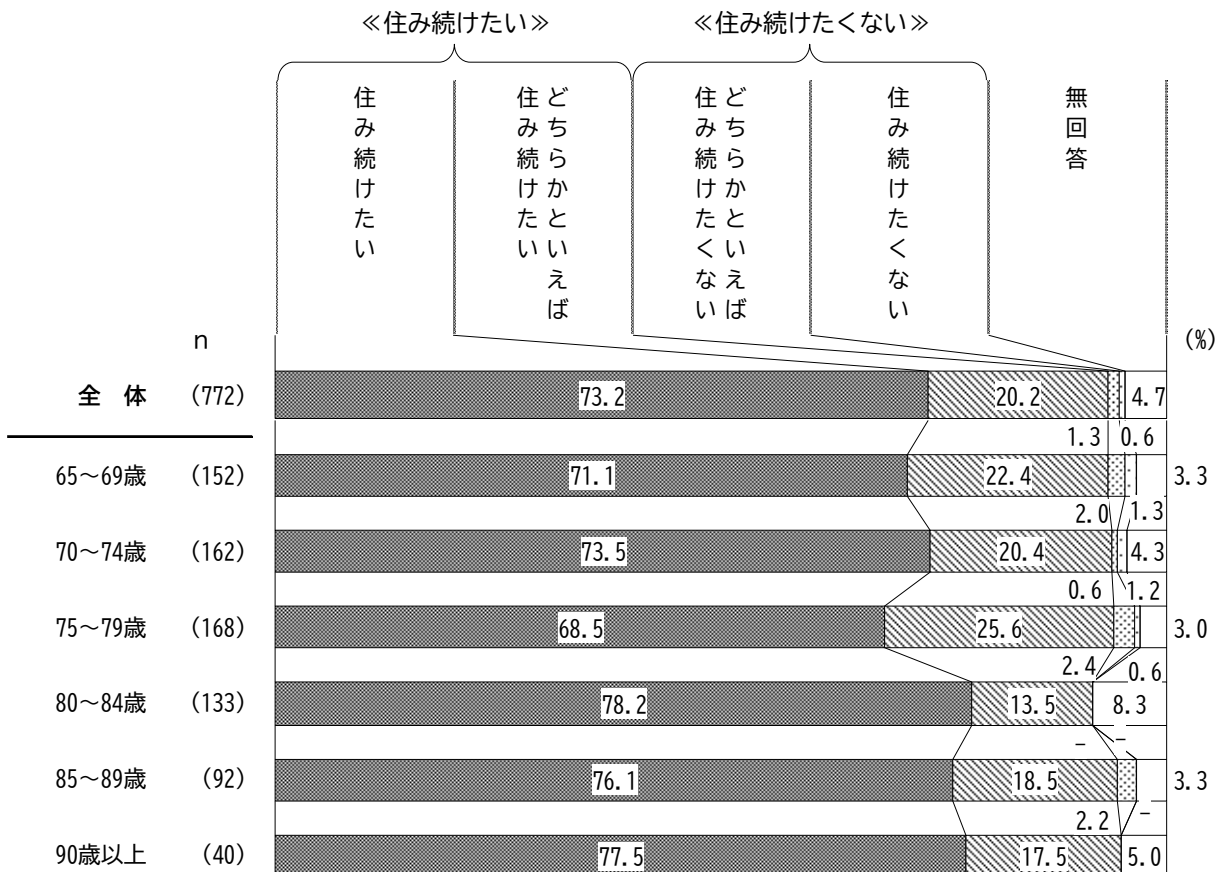
今後の居留意向は、「住み続けたい」が73.2%で最も高く、これに「どちらかといえば住み続けたい」(20.2%)を合わせた《住み続けたい》は93.4%となっている。一方、「どちらかといえば住み続けたくない」(1.3%)と「住み続けたくない」(0.6%)を合わせた《住み続けたくない》は1.9%となっている。

図表5-15 今後の居留意向(単数回答)



年齢別でみると、《住み続けたい》はすべての年齢層で9割台となっており、90歳以上で95.0%と最も高くなっている。

図表5-16 今後の居留意向/年齢別

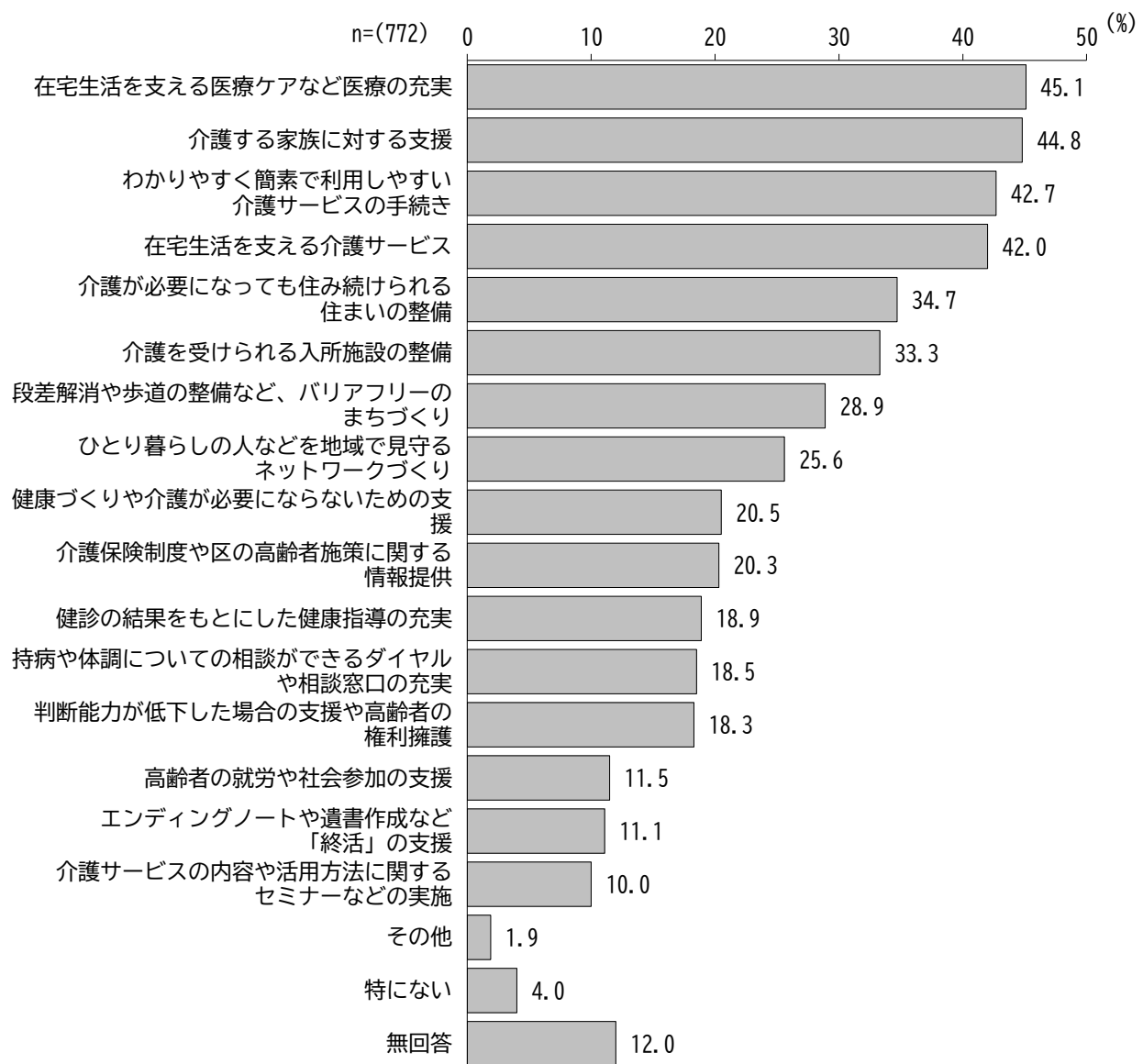


(10) 今後充実すべき高齢者施策

問49 江戸川区が今後充実すべきと思う高齢者施策は、次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

今後充実すべき高齢者施策は、「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」が45.1%で最も高く、次いで「介護する家族に対する支援」(44.8%)、「わかりやすく簡素で利用しやすい介護サービスの手続き」(42.7%)、「在宅生活を支える介護サービス」(42.0%)、「介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備」(34.7%) などとなっている。

図表5-17 今後充実すべき高齢者施策（複数回答）



(11) 区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

区政への意見、要望をいただいたので、その一部を抜粋して掲載する。

【1】 介護サービスの内容や質、サービス提供事業者について (20件より抜粋)

- ・脳梗塞の後遺症で介護サービスを利用して思ったことです。入院中に退職したので、退院後の介護サービス3割負担は、年金生活者となった自分にはきびしかったです。継続できるリハビリテーションサービスはないと思っています。元気な高齢者向けサービスに、自分のような後遺症の有る人はなじみません。リハビリテーション関連のサービスの継続・充実を切に望みます。
- ・介護サービスを利用している本人の娘です。沢山の支援やサービスをご提供いただき、いつもありがたいと思っています。現在娘の私が介護の殆どをしていますが、私が急に具合が悪くなったときにどうしようという不安と、災害時にほぼ寝たきりの母を背負って避難できるかという不安があります。その他は、本当に助かっています。江戸川区に住んでいて良かったと思うことばかりです。
- ・介護を支えているヘルパーさんやデイサービスの方々働く人がいないと困っています。何とかして欲しいです。

【2】 生活支援、外出支援等について (10件より抜粋)

- ・都バス減少のため、コミュニティバスなどが利用できるようにしてください。通院も困難になってきています。
- ・通院や買物で使うタクシー券の増額をお願いします。外出のハードルが下がり、外の空気を吸いたいと思う高齢者が増えてくると思います。
- ・介護タクシーの申請や、在宅から入院となった際の様々な手続き等、いつも本庁の職員の方々にはわかりやすく丁寧な説明をしていただき感謝しています。いつもありがとうございます。車椅子のレンタル制度も今年初めて利用し、大変助かりました。これからもよろしくお願いします。

【3】 サービス利用料・介護保険料その他経済的負担について (21件より抜粋)

- ・介護保険料をもっと安くしてほしいです。
- ・オムツ類の1割負担、配送にはとても助かっています。施設入所は大変ありがたいのですが、利用料は年金の全てを支払いに回している状態です。残された家族は働いて生活するしかありません。いつまでも働ける江戸川区であってほしいと思っています。
- ・介護保険の負担限度額認定を受けるに当たって、預貯金等の資産状況によっては認定が受けられない場合があります。年金だけでは介護施設の居住費を支払うことは厳しく、子供等が負担することになります。子供の預貯金を取りくずして支払うことになるので、子供の老後の生活がなり立たない可能性があります。高額所得者の負担を多くするなどして、それほど預貯金が多くない区民の負担金額がもう少し軽くなるような方法を構築してほしいです。

【4】 在宅介護の継続支援・介護者の支援について （5件より抜粋）

- ・子育て支援よりも独居高齢者、介護している家族に対する支援を充実してほしいです。高齢者にとって住みやすいまちにしてください。

【5】 申請・相談がしやすい窓口の整備 （1件より抜粋）

- ・聞きたい時に連絡先がわかりません。色々な部署に回わされ、そのたびに最初から説明をしなくてはならないことがよくあります。

【6】 区の高齢者施策・介護保険事業について （42件より抜粋）

- ・後期高齢者に対して安否確認の見守りをしてほしいです。
- ・地域包括支援センターのことを何も知りませんでした。もう少しPRしていただくと助かると思います。
- ・江戸川区はリズム運動（くすのきカルチャースクールも充実）など、動ける高齢者への取り組みが充実していると思いますが、高齢者が増える中でも、こうした取り組みは続けて行って欲しいです。また、配宅のお弁当は、もう少し安ければもっと利用したいと思っています。ご近所でも、私と同じ様に歩行が不自由になる等、衰えが加速して、互いの助け合いが難しくなっています。江戸川区には感謝しています。

【7】 介護施設について （15件より抜粋）

- ・小・中学校の新築だけでなく、高齢者の入所施設を整備してほしいです。
- ・私（妻）が夫を介護していましたが、複数箇所を骨折してしまい、それができなくなりました。有料老人ホームには入所できずに特別養護老人ホームを希望申し込みましたが、入所待ちが長期で困ってしまいました。その家庭の事情を考慮して、入所させてもらいたいです。
- ・特別養護老人ホームなどの施設を増やしてほしいです。すぐには入れなかったり、そもそも生活困窮者には高過ぎて入りたくても入れないです。年金で入れるよう、補助してもらえようになるといいと思います。介護度が上がるほど金額も上がりますが、知り合いの住んでいる所では逆で、介護度が上がるほど補助され年金だけで特別養護老人ホームに入っていたという話を聞きました。

【8】 バリアフリーのまちづくり介護施設について （12件より抜粋）

- ・車椅子を使うようになり、身近な場所が遠く感じます。少しの段差でも大変だと感じるようになりました。
- ・道路の片隅などにちょっと休憩できる椅子やベンチがあるとうれしいです。
- ・ちょっとした段差でも転びやすくなりました。この前は、点字ブロックでつまづいて転びそうになりました。車椅子などを押しているとまだまだ道はバリアフリーではない所があると思います。座りたいと思っても座れる椅子が昔よりも少ないと感じます。

【9】 その他の区に対する意見や要望 （37件より抜粋）

- ・江戸川区に70年住んでおり他区の友人等にいつも自慢しています。花と緑、福祉、とても有がたいと思っています。本当にありがとうございます。
- ・江戸川区が大好きです。ずっと住み続けたいです。他区のような区庁舎に大金をかけない方針や合理的な考え方は立派だと思います。

- ・いろいろと恩恵にあずかり感謝の毎日です。これからグローバル化が進み、ますます外国人の方が増えていくと思います。文化や生活習慣の違いに対応していけるのか、少し不安に思います。

【10】 本アンケートについて (6件より抜粋)

- ・質問が多すぎて疲れました。
- ・介護認定を受けている人に対して、このアンケートは答えることができない設問が相当あり、家族が本人に代わって推測しながら答えました。介護で本当に大変なのは、本人ではなく介護している家族や周りの人です。介護のために仕事を辞めて経済的にも逼迫しています。どうぞ介護する側にも目を向けてください。

第3章

介護保険制度に関する意識調査

< 調査概要 >

調査方法	郵送配布－郵送回収・Web回答
調査対象者	50歳以上65歳未満の区民 (令和7年10月1日現在)
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
調査期間	令和7年10月15日～11月10日
対象者数 及び 回収率	対象者数：800 有効回収数：355 有効回収率：44.4%

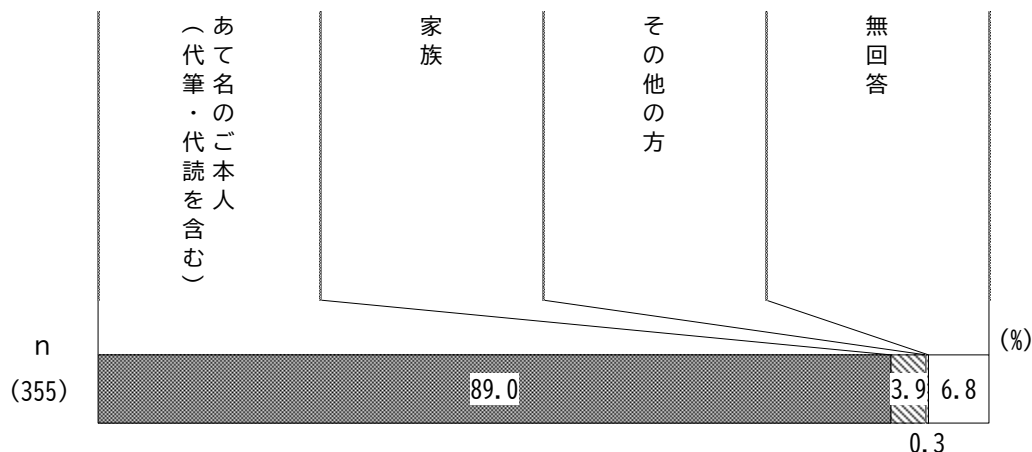
1 基本属性

(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)
 問2 あなたの性別、令和7年10月1日現在の満年齢をお答えください。

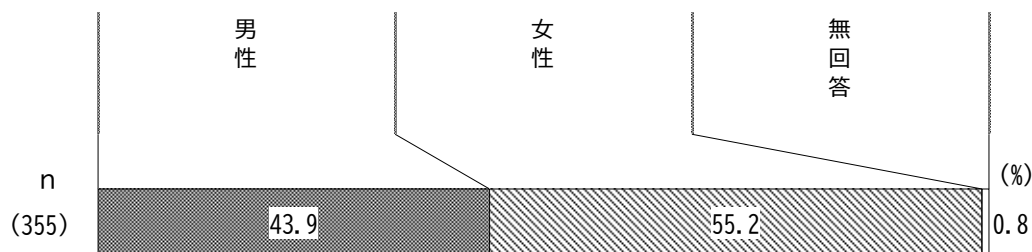
調査回答者は、「あて名のご本人（代筆・代読を含む）」が89.0%となっている。

図表1-1 調査回答者（単数回答）



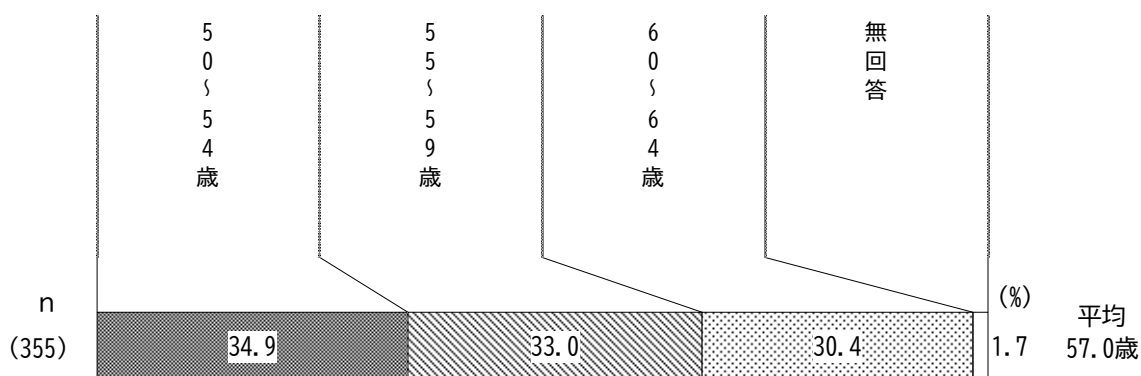
性別は、「女性」が55.2%で「男性」の43.9%より11.3ポイント高い。

図表1-2 性別（単数回答）



年齢は、「50～54歳」が34.9%、「55～59歳」が33.0%、「60～64歳」が30.4%となっている。平均は57.0歳である。

図表1-3 現在の満年齢（単数回答）

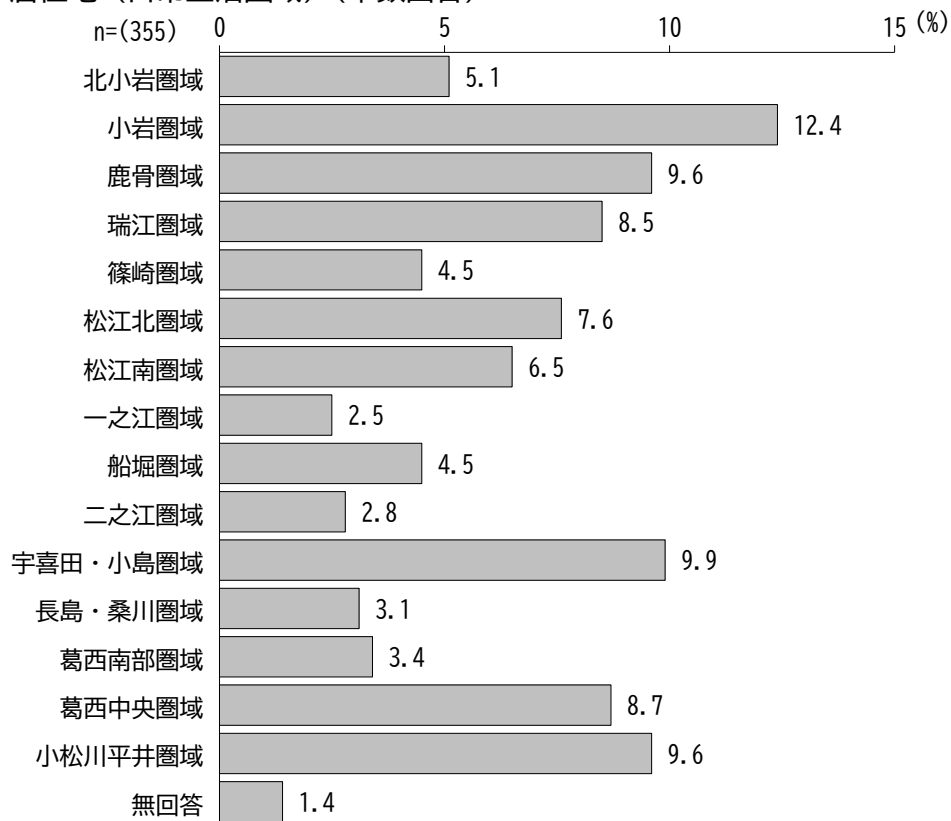


(2) 居住地（日常生活圏域）

問3 あなたのお住まいはどこですか。記入例を参考に記入してください。丁目がない場合は、町名だけ記入してください。

居住地（日常生活圏域）は、「小岩圏域」が12.4%で最も高く、次いで「宇喜田・小島圏域」が9.9%、「鹿骨圏域」と「小松川平井圏域」がそれぞれ9.6%、「葛西中央圏域」が8.7%などとなっている。

図表1-4 居住地（日常生活圏域）（単数回答）

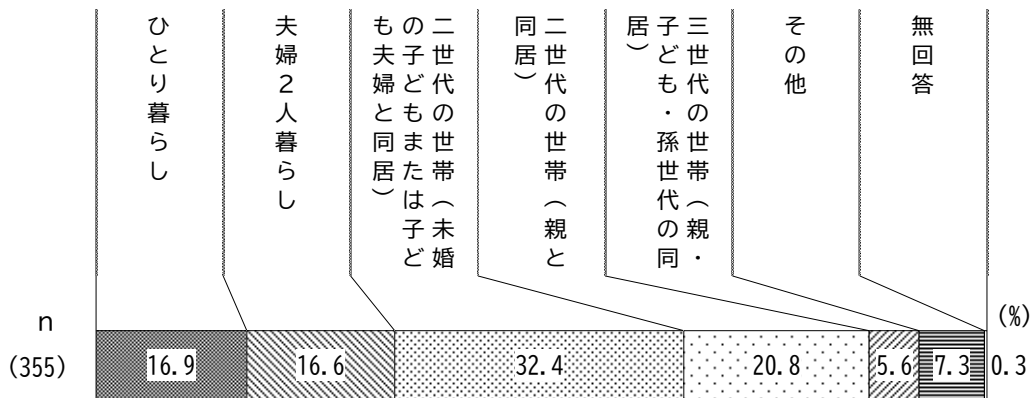


(3) 世帯構成

問4 あなたの現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

世帯構成は、「二世代の世帯（未婚の子どもまたは子ども夫婦と同居）」が32.4%で最も高く、次いで「二世代の世帯（親と同居）」が20.8%、「ひとり暮らし」が16.9%、「夫婦2人暮らし」が16.6%などとなっている。

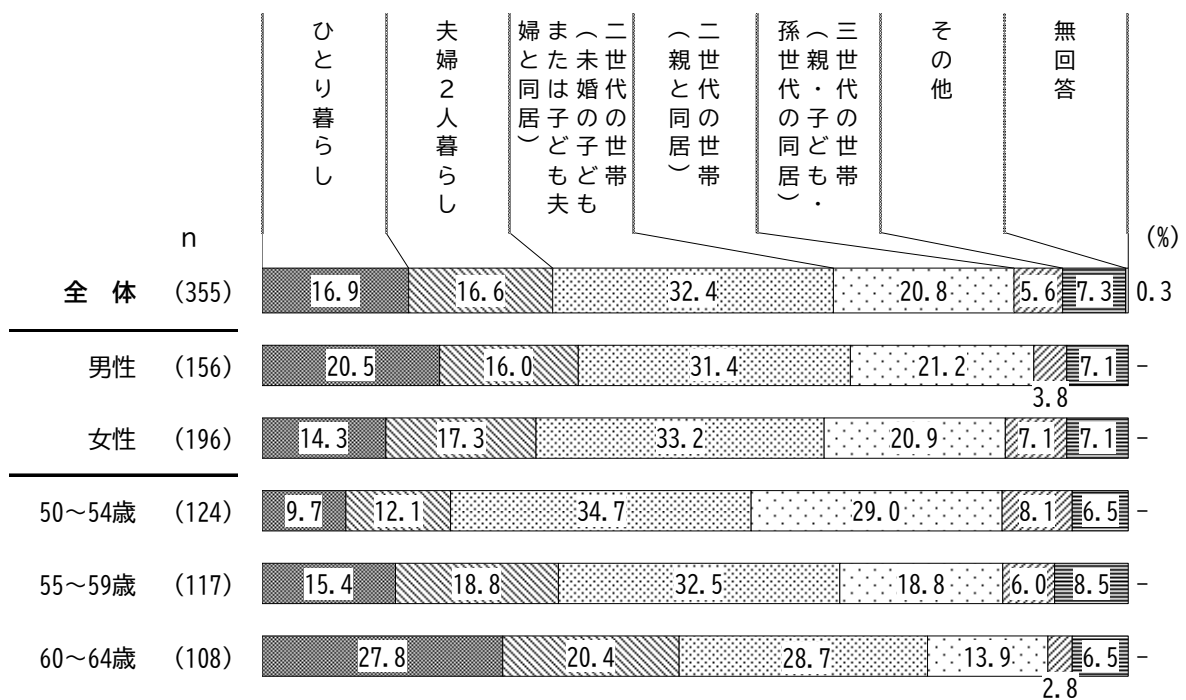
図表1-5 世帯構成（単数回答）



性別でみると、「二世代の世帯（未婚の子どもまたは子ども夫婦と同居）」は女性の方が男性より1.8ポイント高く、「ひとり暮らし」は男性の方が女性より6.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「ひとり暮らし」と「夫婦2人暮らし」は年齢が上がるほど割合が高くなり、「二世代の世帯（未婚の子どもまたは子ども夫婦と同居）」は年齢が上がるほど割合が低くなっている。

図表1-6 世帯構成／性別、年齢別

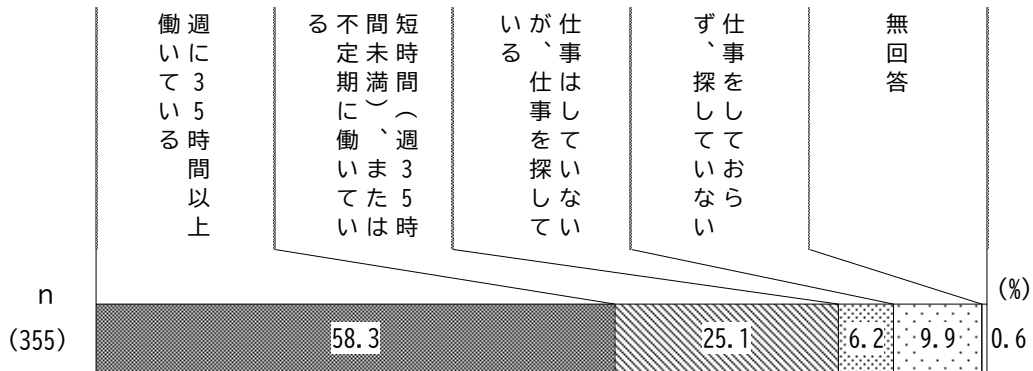


(4) 就労状況

問5 あなたは、現在、収入のともなう仕事（パート・アルバイト、家業の手伝いを含む）をしていますか。（1つに○）

就労状況は、「週に35時間以上働いている」が58.3%で最も高く、以下「短時間（週35時間未満）、または不規則に働いている」（25.1%）、「仕事をしておらず、探していない」（9.9%）、「仕事はしていないが、仕事を探している」（6.2%）の順となっている。

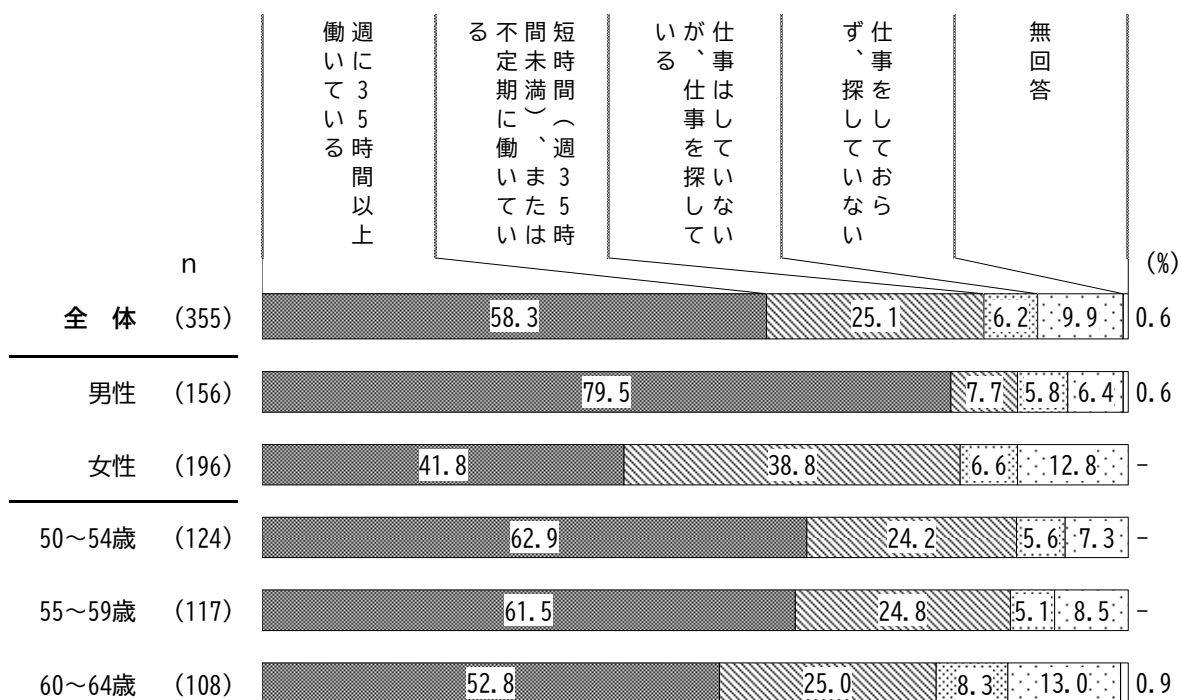
図表1-7 就労状況（単数回答）



性別でみると、男性では「週に35時間以上働いている」が79.5%を占める一方で、女性では「週に35時間以上働いている」が41.8%、「短時間（週35時間未満）、または不規則に働いている」が38.8%となっている。

年齢別でみると、「週に35時間以上働いている」は50～59歳では6割強であったのが、60～64歳では5割強となっている。

図表1-8 就労状況／性別、年齢別



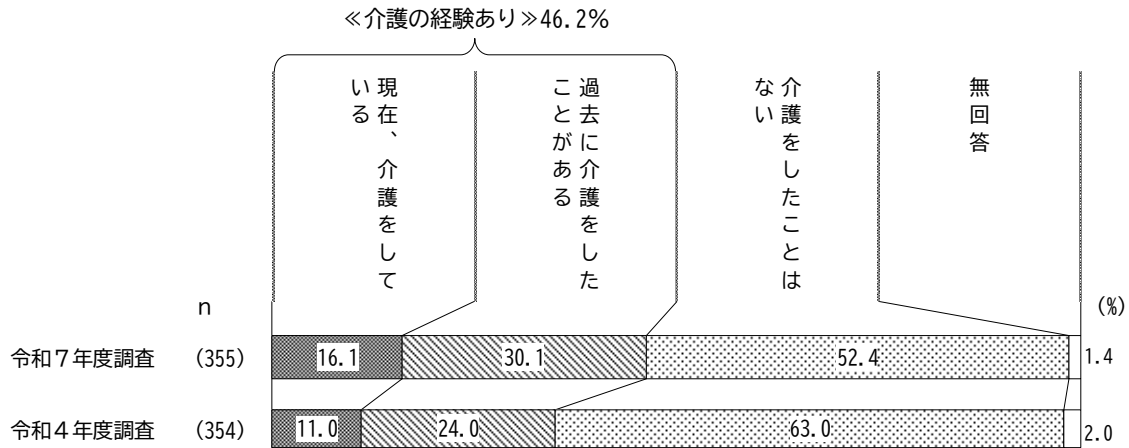
(5) 介護の経験

問6 あなたは、ご家族または親族などの介護をしたことがありますか。(1つに○)
 ※ホームヘルパー等やボランティア活動として介護する場合は除きます。

介護の経験では、「現在、介護をしている」が16.1%、「過去に介護をしたことがある」が30.1%でこれらを合わせた「介護の経験あり」は46.2%である。一方、「介護をしたことはない」は52.4%となっている。

令和4年度調査との比較では、「介護の経験あり」は11.2ポイント増加している。

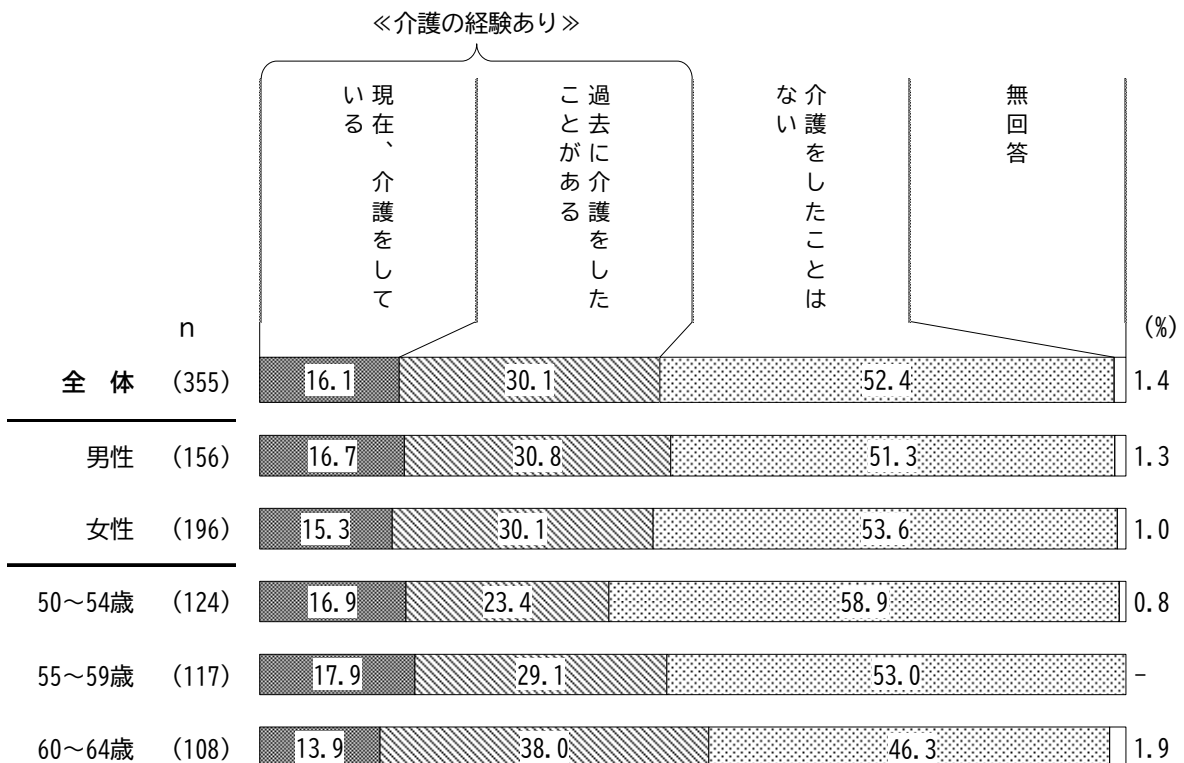
図表1-9 介護の経験 (単数回答)



性別でみると、「現在、介護をしている」は男性の方が女性より1.4ポイント高く、「過去に介護をしたことがある」でも男性の方が女性より0.7ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「現在、介護をしている」は年齢別での違いはないが、「過去に介護をしたことがある」は年齢が上がるほど割合が高くなり60~64歳で38.0%となっている。

図表1-10 介護の経験/性別、年齢別

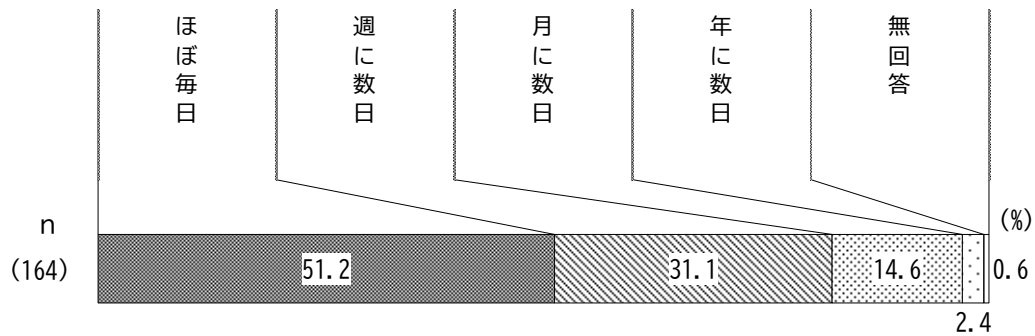


(6) 介護の頻度

★介護の経験がある方（問6で1または2に○）にうかがいます。（それぞれ1つに○）
問6-1 介護の頻度はどのくらいですか（でしたか）。

介護の頻度では、「ほぼ毎日」が51.2%で最も高く、以下「週に数日」（31.1%）、「月に数日」（14.6%）、「年に数日」（2.4%）の順となっている。

図表1-11 介護の頻度（単数回答）

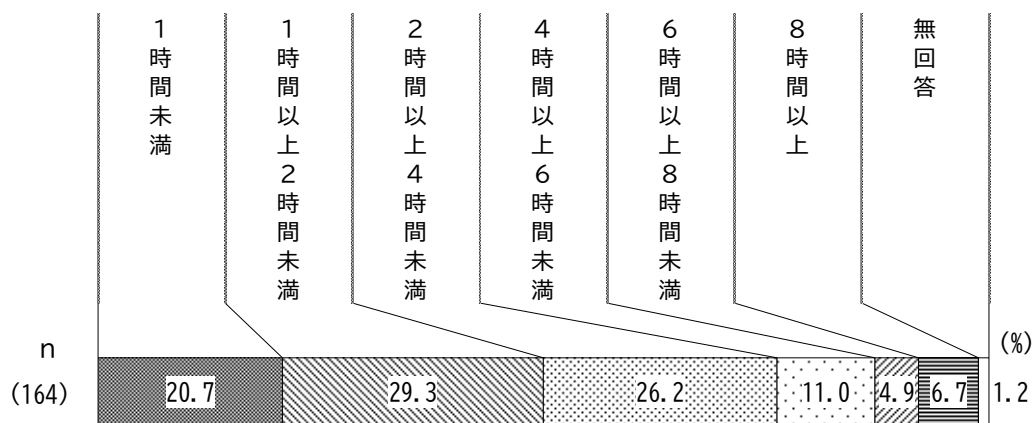


(7) 1日の介護にかかる時間

★介護の経験がある方（問6で1または2に○）にうかがいます。（それぞれ1つに○）
問6-2 1日の介護にかかる時間はどのくらいですか（でしたか）。

1日の介護にかかる時間では、「1時間以上2時間未満」が29.3%で最も高く、次いで「2時間以上4時間未満」（26.2%）、「1時間未満」（20.7%）、「4時間以上6時間未満」（11.0%）などとなっている。

図表1-12 1日の介護にかかる時間（単数回答）

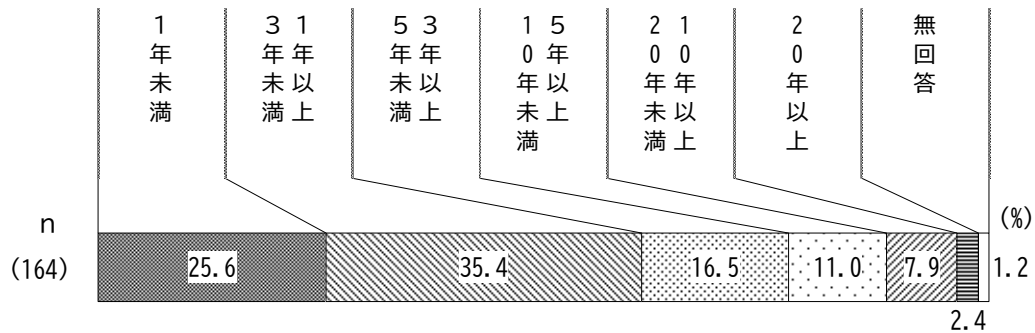


(8) 介護の期間

★介護の経験がある方（問6で1または2に○）にうかがいます。（それぞれ1つに○）
問6-3 介護の期間はどのくらいですか（でしたか）。

介護の期間は、「1年以上3年未満」が35.4%で最も高く、次いで「1年未満」（25.6%）、「3年以上5年未満」（16.5%）、「5年以上10年未満」（11.0%）などとなっている。

図表1-13 介護の期間（単数回答）

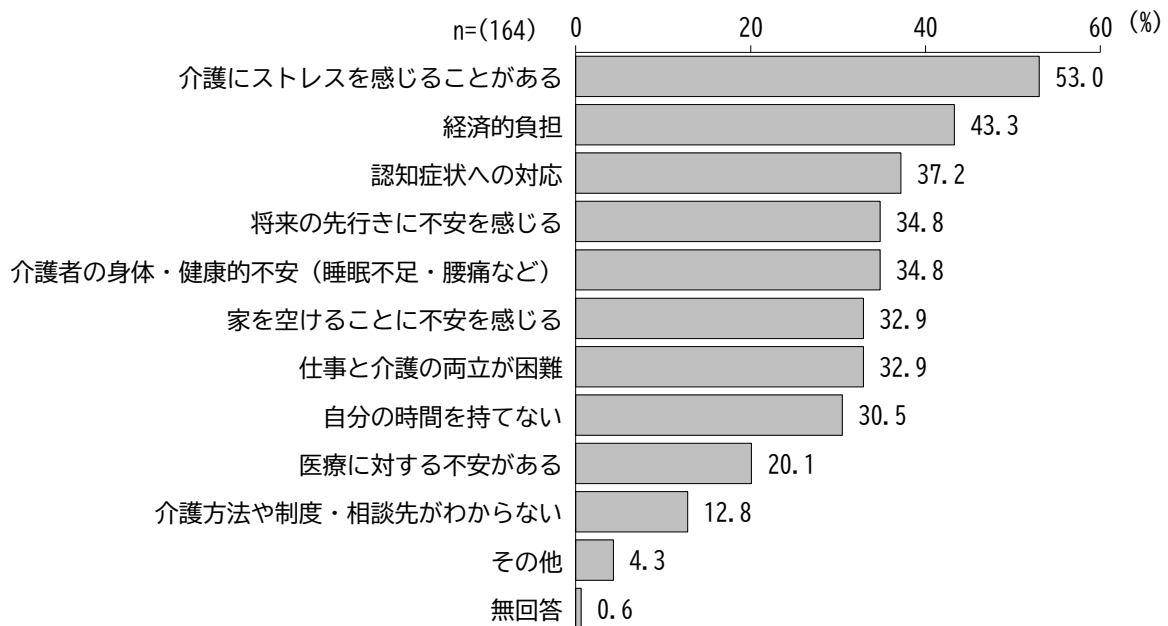


(9) 介護をするうえで困っていること

★介護の経験がある方（問6で1または2に○）にうかがいます。（それぞれ1つに○）
問6-4 介護をするうえで困っていることは何ですか（でしたか）。

介護をするうえで困っていることは、「介護にストレスを感じることもある」が53.0%で最も高く、次いで「経済的負担」が43.3%、「認知症状への対応」が37.2%、「将来の先行きに不安を感じる」と「介護者の身体・健康的不安（睡眠不足・腰痛など）」がそれぞれ34.8%などとなっている。

図表1-14 介護をするうえで困っていること（複数回答）

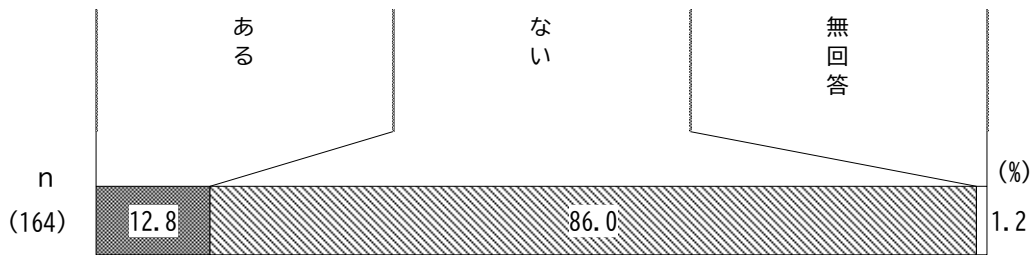


(10) 介護が原因で仕事を辞めた経験

★介護の経験がある方（問6で1または2に○）にうかがいます。（それぞれ1つに○）
問6-5 介護を原因に仕事を辞めたことはありますか。

介護が原因で仕事を辞めた経験は、「ある」が12.8%、「ない」が86.0%となっている。

図表1-15 介護が原因で仕事を辞めた経験（単数回答）

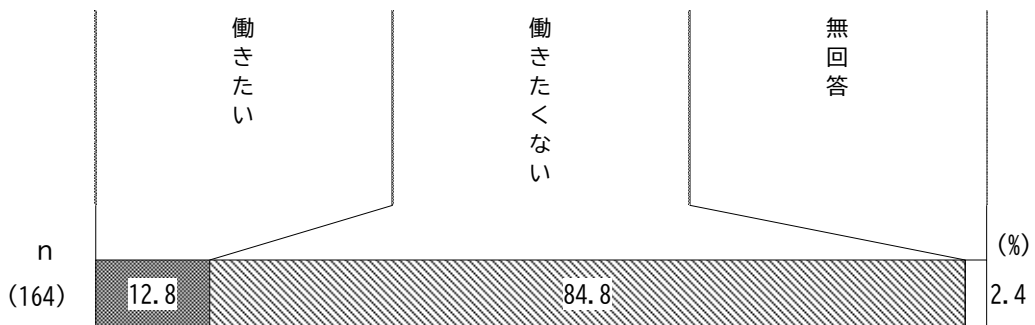


(11) 「介護助手」としての就労の意向

★介護の経験がある方（問6で1または2に○）にうかがいます。（それぞれ1つに○）
問6-6 介護の経験を活かし、介護施設等で「介護助手」として働きたいですか。

「介護助手」としての就労の意向は、「働きたい」が12.8%、「働きたくない」が84.8%となっている。

図表1-16 「介護助手」としての就労の意向（単数回答）



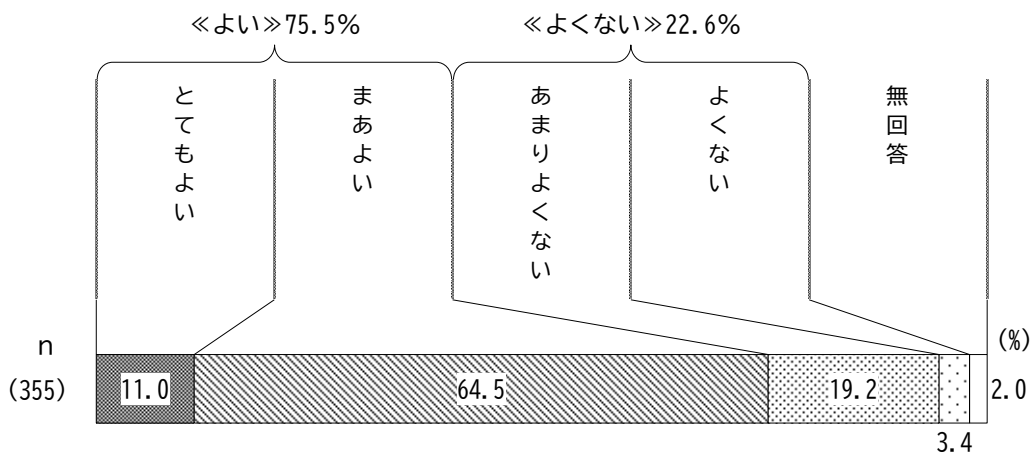
2 健康について

(1) 健康状態

問7 現在のあなたの健康状態は、いかがですか。(1つに○)

健康状態は、「まあよい」が64.5%で最も高く、これに「とてもよい」(11.0%)を合わせた「よい」は75.5%を占めている。一方、「あまりよくない」(19.2%)と「よくない」(3.4%)を合わせた「よくない」は22.6%となっている。

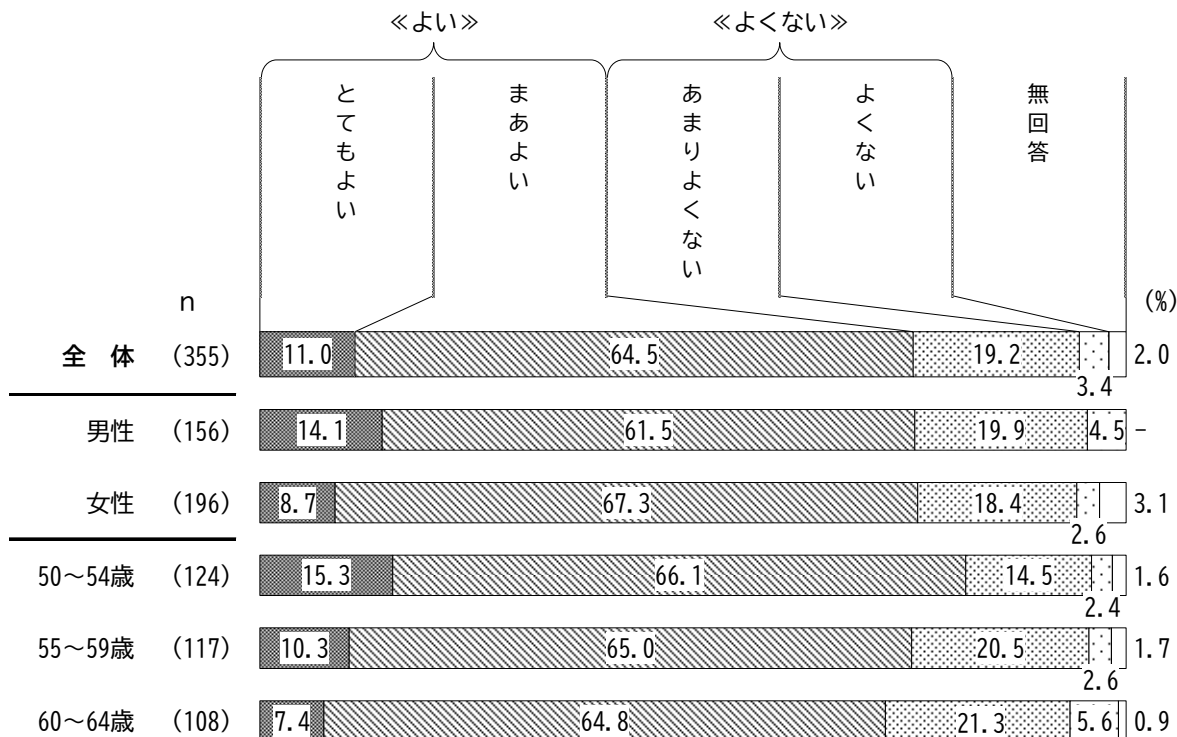
図表2-1 健康状態(単数回答)



性別でみると、「よい」は特に大きな違いはみられない。

年齢別でみると、「よい」は年齢が上がるほどゆるやかに割合が低くなっているが、「とてもよい」は50~54歳から55~59歳にかけて5.0ポイント低くなっている。

図表2-2 健康状態/性別、年齢別

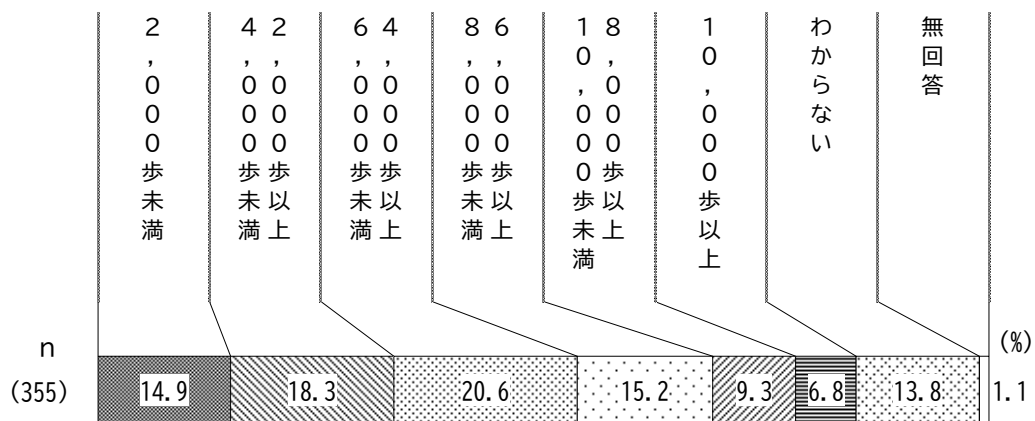


(2) 一日あたりの歩数

問8 厚生労働省から、健康維持のための運動習慣や歩数の目標が示されています。64歳までの方は、歩行またはそれと同程度以上の身体活動を1日60分以上（1日約8,000歩以上）行うことが推奨されています。あなたは普段どのくらい歩いていますか。（1つに○）

一日あたりの歩数は、「4,000歩以上6,000歩未満」が20.6%で最も高く、次いで「2,000歩以上4,000歩未満」（18.3%）、「6,000歩以上8,000歩未満」（15.2%）、「2,000歩未満」（14.9%）などとなっている。

図表2-3 一日あたりの歩数（単数回答）

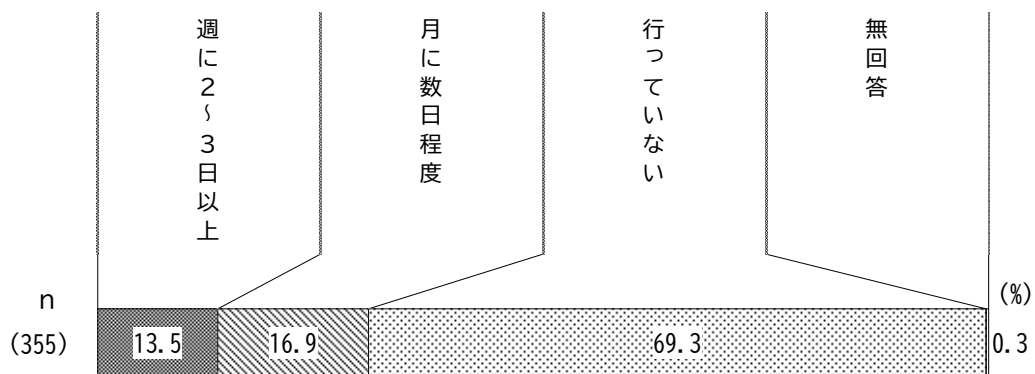


(3) 筋力トレーニングの頻度

問9 週2～3日は筋力トレーニングを行うことが推奨されています。あなたは筋力トレーニングを行っていますか。（1つに○）

筋力トレーニングの頻度は、「週に2～3日以上」が13.5%、「月に数日程度」が16.9%となっている。一方、「行っていない」は69.3%となっている。

図表2-4 筋力トレーニングの頻度（単数回答）

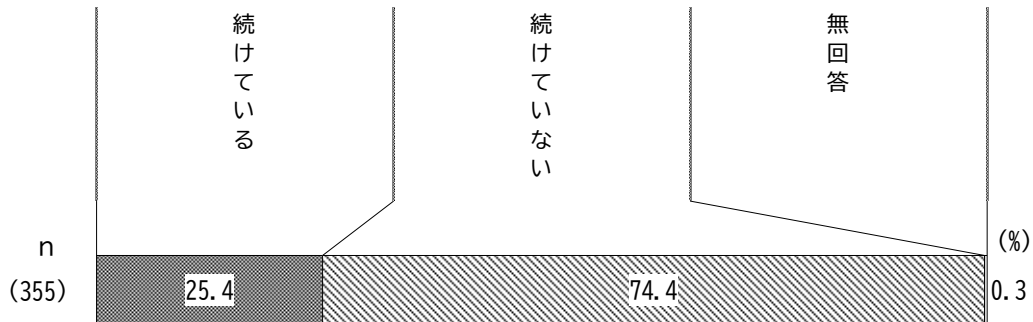


(4) 運動の状況

問10 あなたは、1回30分以上の軽く汗をかく運動を、週2日以上頻度で1年間以上続けていますか。(1つに○)

運動の状況は、「続けている」が25.4%、「続けない」が74.4%となっている。

図表2-5 運動の状況 (単数回答)



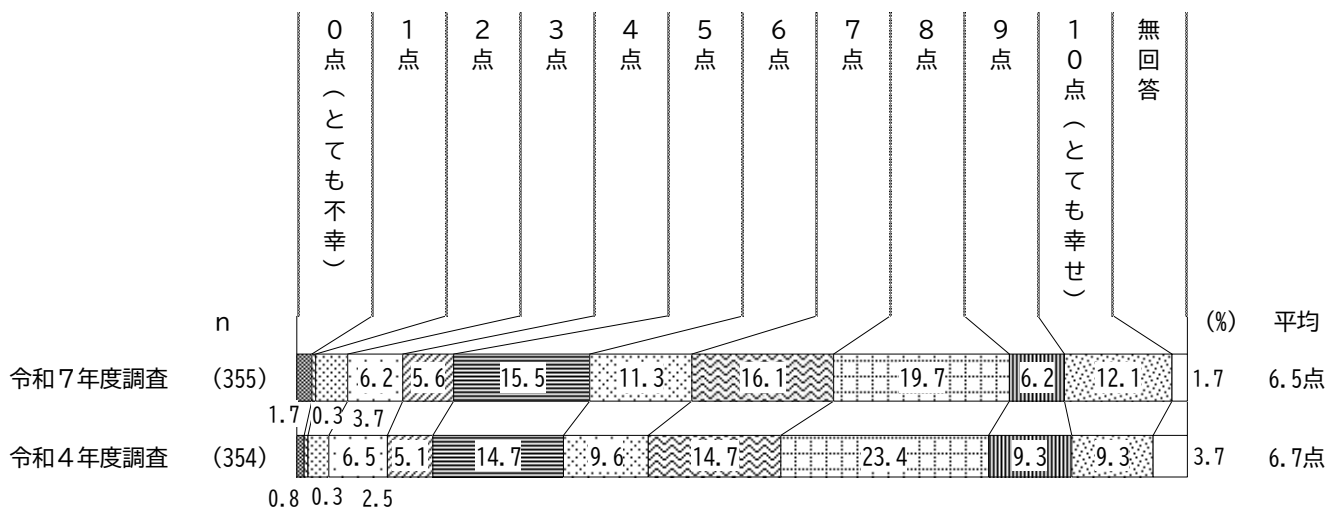
(5) 現在の幸福度

問11 あなたは、現在どの程度幸せですか。(点数に○)
 (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

現在の幸福度は、「8点」が19.7%で最も高くなっている。次いで「7点」が16.1%、「5点」が15.5%、「10点 (とても幸せ)」が12.1%となっている。平均は6.5点となっている。

令和4年度調査と比較すると、「10点 (とても幸せ)」が2.8ポイント増加しており、「8点」が3.7ポイント、「9点」が3.1ポイントそれぞれ減少している。平均は6.7点となっている。

図表2-6 現在の幸福度 (単数回答)



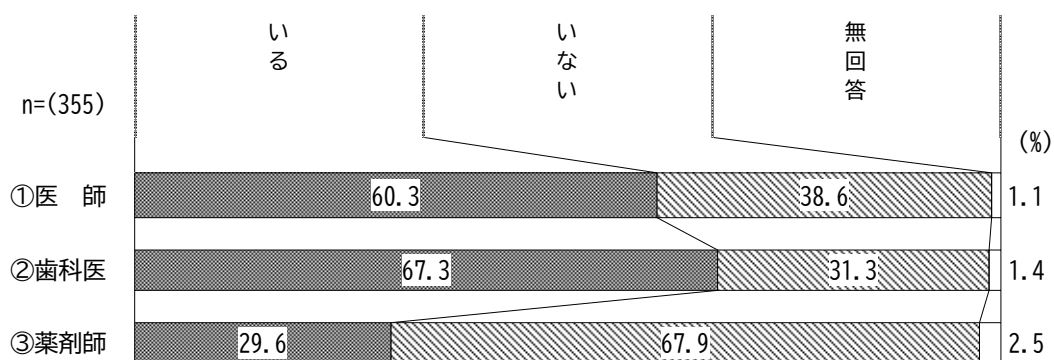
(6) かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無

問12 あなたには、かかりつけの医師、歯科医、薬剤師（※）がいますか。
 （それぞれ1つに○）

※日頃から自分または家族の健康状態をよく知っていて、日常的な健康管理をまかせられる
 医師、歯科医、薬剤師

かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無は、「いる」は歯科医が67.3%で最も高く、医師が60.3%、薬剤師が29.6%となっている。

図表2-7 かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無（単数回答）



(7) 治療中、または後遺症のある病気

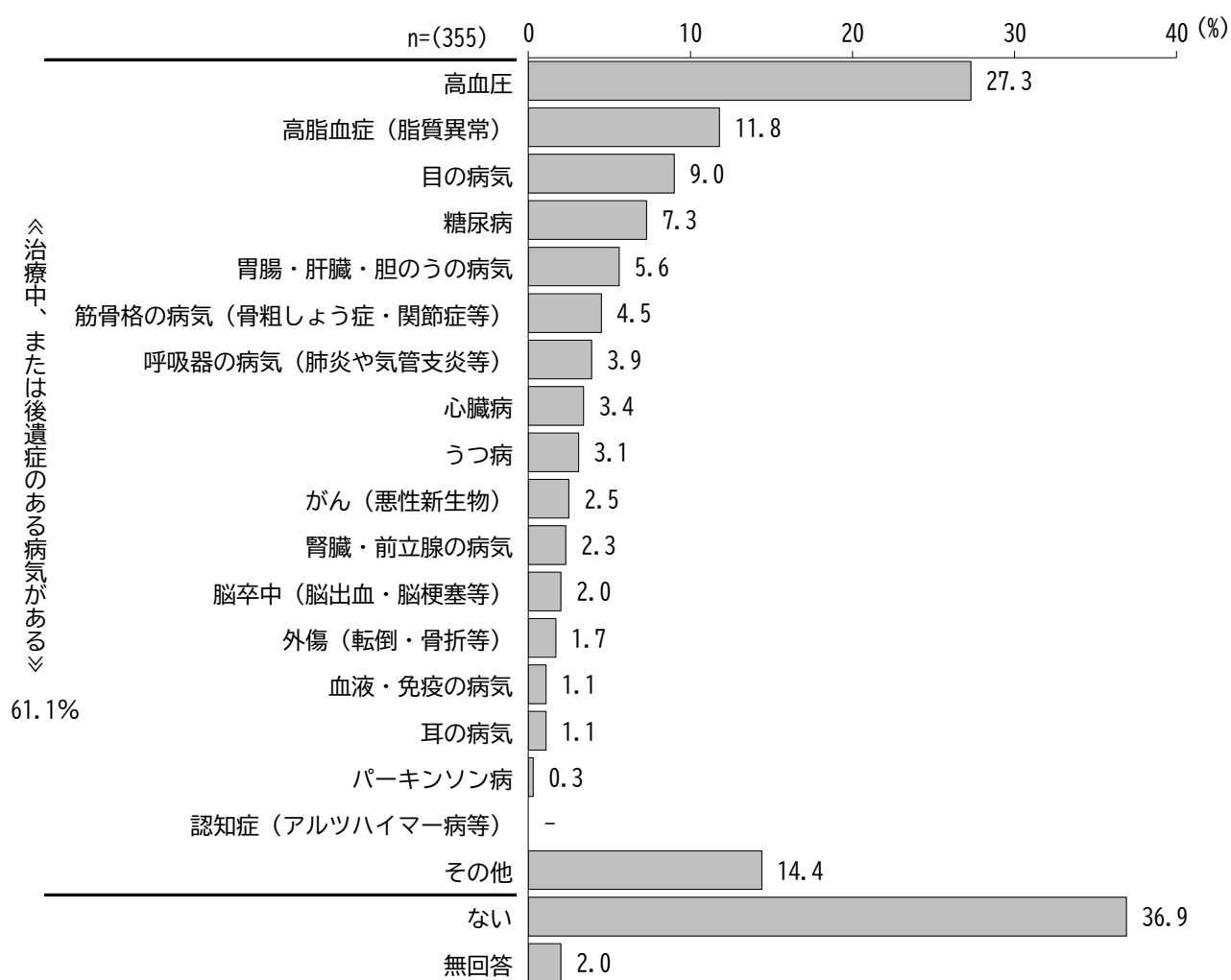
問13 あなたは、現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

治療中、または後遺症のある病気は、《治療中、または後遺症のある病気がある》が61.1%で、「ない」が36.9%となっている。

病気の中では、「高血圧」が27.3%で最も高く、次いで「高脂血症（脂質異常）」が11.8%、「目の病気」が9.0%、「糖尿病」が7.3%などとなっている。

図表2-8 治療中、または後遺症のある病気（複数回答）

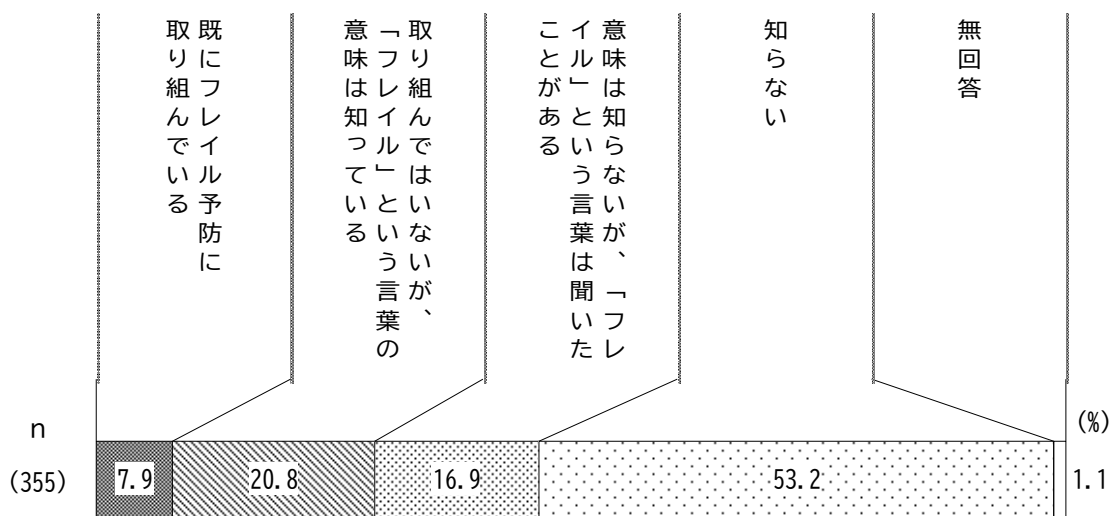


(8) 「フレイル」に関する認識

問14 「フレイル」とは、加齢に伴い心身の活力が低下し、介護が必要になるリスクが高まった状態のことを指します。健康維持・介護予防のためには、このフレイル予防が大切で、そのためには食事、運動、社会参加の3つの柱を中心に、心身の健康を維持・改善することが重要になります。
あなたの「フレイル」に関する認識を回答してください。(1つに○)

「フレイル」に関する認識は、「知らない」が53.2%で最も高く、次いで「取り組んではないが、「フレイル」という言葉の意味は知っている」が20.8%、「意味は知らないが、「フレイル」という言葉は聞いたことがある」が16.9%となっている。

図表2-9 「フレイル」に関する認識 (単数回答)



※「フレイル (虚弱)」とは、年をとって心身の活力 (筋力、認知機能、社会とのつながりなど) が低下した状態をいいます。

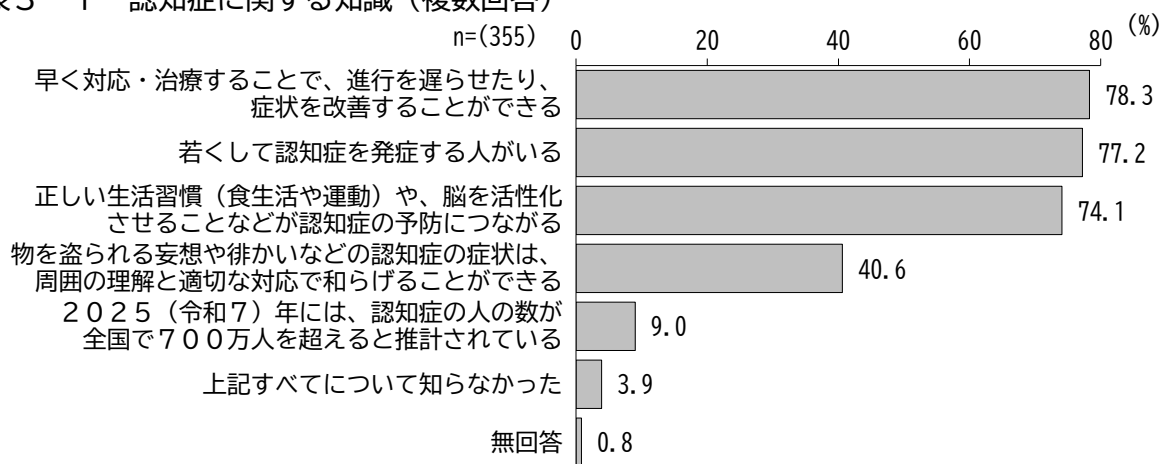
3 高齢者介護に関する意識について

(1) 認知症に関する知識

問15 認知症に関する次の知識のうち、あなたが知っていることはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

認知症に関する知識では、「早く対応・治療することで、進行を遅らせたり、症状を改善することができる」が78.3%で最も高く、次いで「若くして認知症を発症する人がいる」(77.2%)、「正しい生活習慣や、脳を活性化させることなどが認知症の予防につながる」(74.1%)などとなっている。

図表3-1 認知症に関する知識（複数回答）

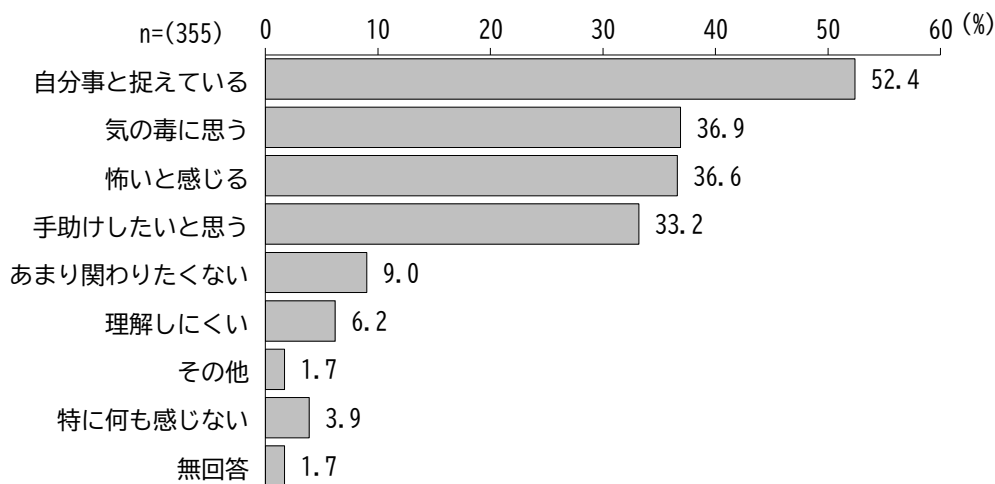


(2) 認知症の人への印象

問16 認知症の人に対して、あなたはどのような印象を持っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

認知症の人への印象は、「自分事と捉えている」が52.4%で最も高く、次いで「気の毒に思う」が36.9%、「怖いと感じる」が36.6%、「手助けしたいと思う」が33.2%などとなっている。

図表3-2 認知症の人への印象（複数回答）

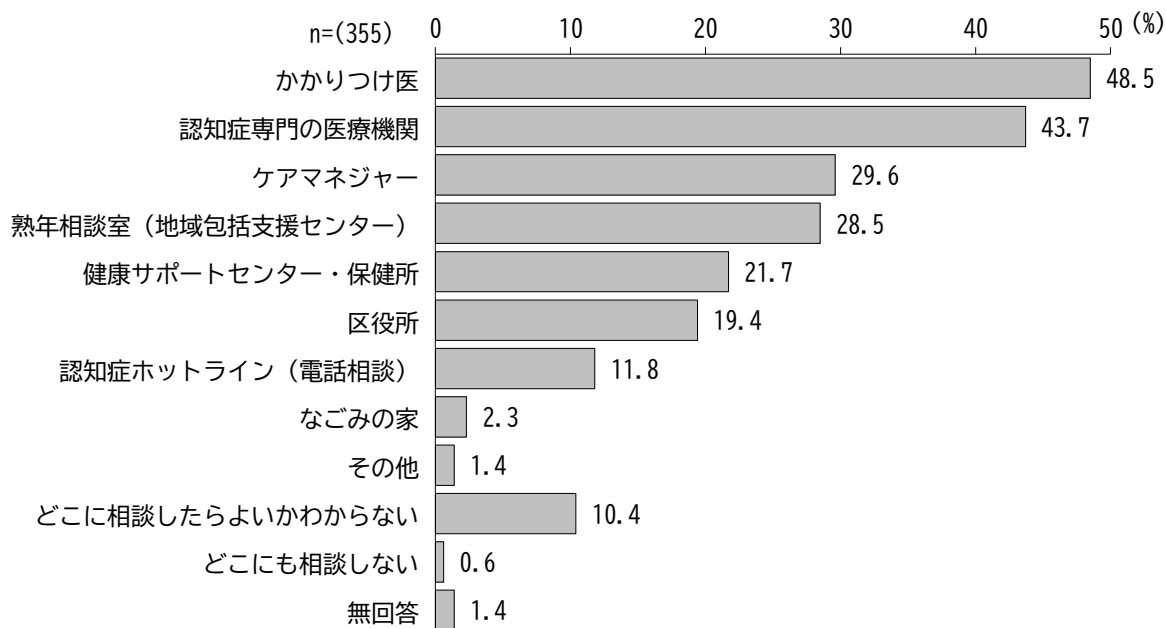


(3) 認知症に関する相談先

問17 あなたやご家族に認知症の不安が生じた場合、どこに相談しますか。
(あてはまるものすべてに○)

認知症に関する相談先は、「かかりつけ医」が48.5%で最も高く、次いで「認知症専門の医療機関」が43.7%、「ケアマネジャー」が29.6%、「熟年相談室（地域包括支援センター）」が28.5%などとなっている。一方、「どこに相談したらよいかわからない」は10.4%となっている。

図表3-3 認知症に関する相談先（複数回答）

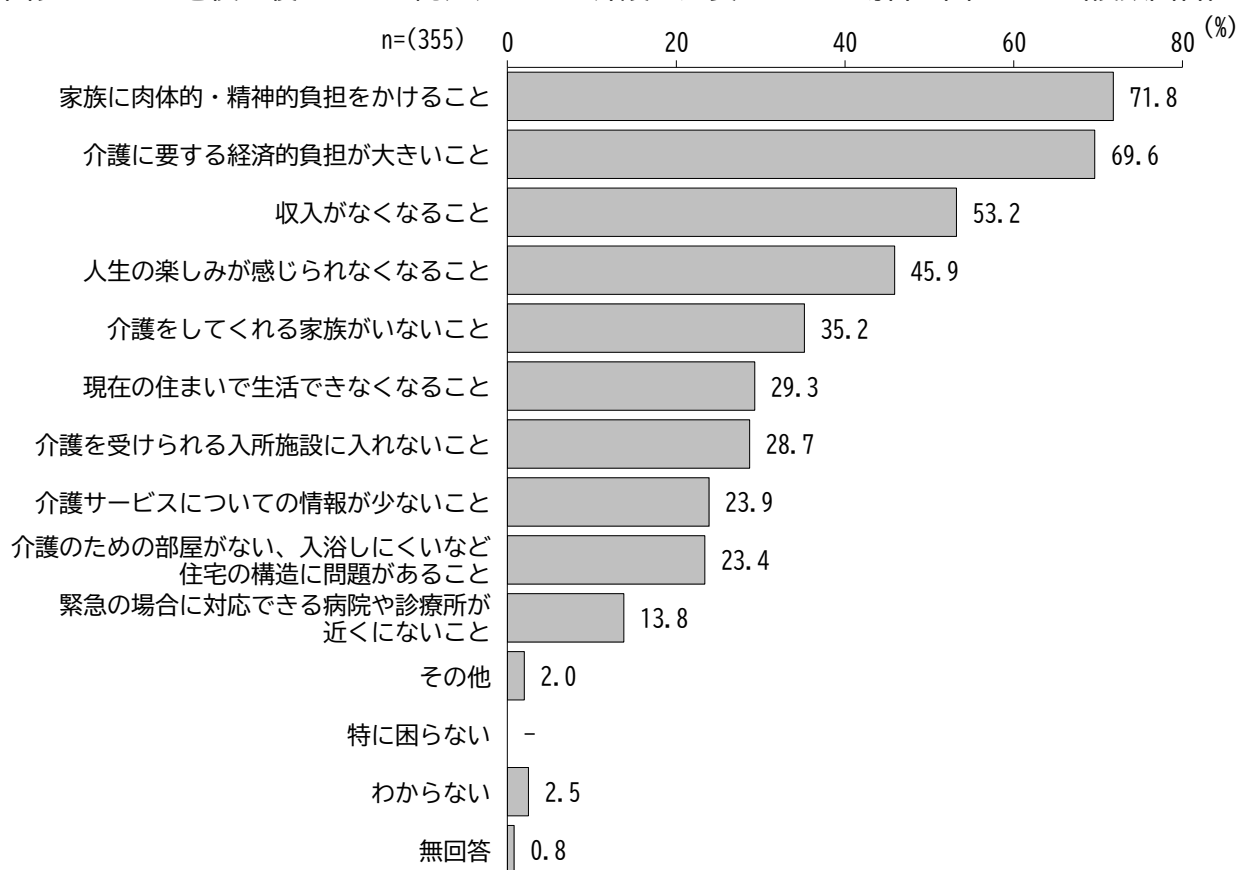


(4) 老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ること

問18 あなたご自身が、寝たきりや認知症になり、介護が必要となった場合、どのようなことに困ると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ることは、「家族に肉体的・精神的負担をかけること」が71.8%で最も高く、次いで「介護に要する経済的負担が大きいこと」が69.6%、「収入がなくなること」が53.2%、「人生の楽しみが感じられなくなること」が45.9%などとなっている。

図表3-4 老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ること（複数回答）

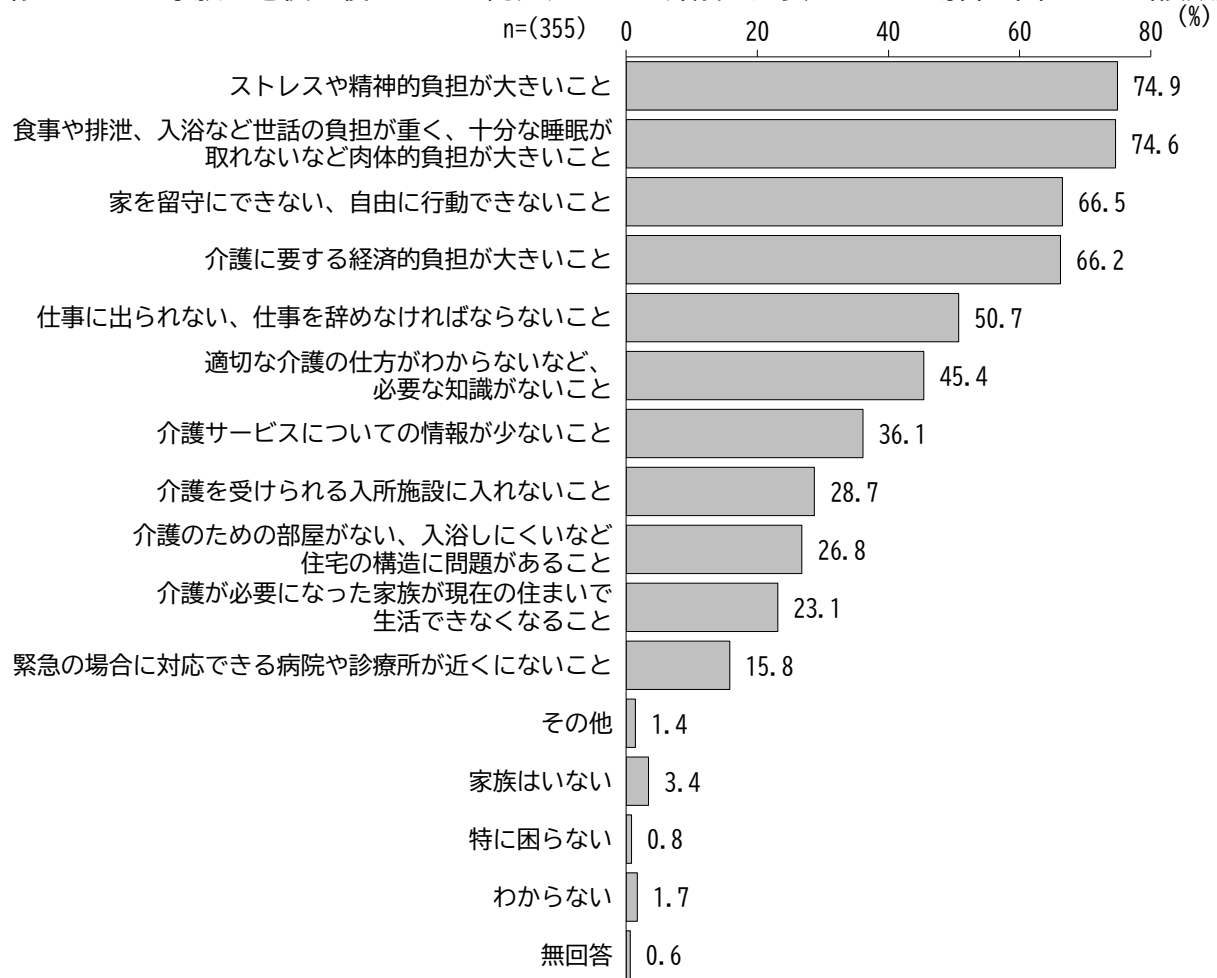


(5) 家族が老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ること

問19 仮に、あなたのご家族が、寝たきりや認知症になり、介護が必要になった場合に、あなたは、どのようなことに困ると思いますか。また、現在、寝たきりや認知症のご家族がいる方はどのようなことにお困りですか。(あてはまるものすべてに○)

家族が老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ることでは、「ストレスや精神的負担が大きいこと」が74.9%で最も高く、次いで「食事や排泄、入浴など世話の負担が重く、十分な睡眠が取れないなど肉体的負担が大きいこと」(74.6%)、「家を留守にできない、自由に行動できないこと」(66.5%)、「介護に要する経済的負担が大きいこと」(66.2%)などとなっている。

図表3-5 家族が老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ること(複数回答)



4 社会参加、生きがいづくりについて

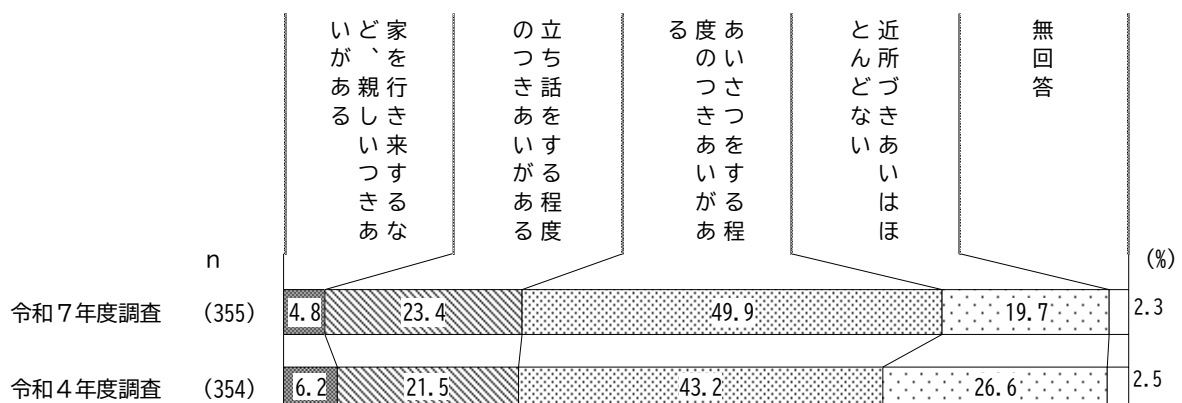
(1) 近所の人とのつきあいの程度

問20 あなたは、ご近所の方との程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

近所の人とのつきあいの程度では、「あいさつをする程度のつきあいがある」が49.9%で最も高く、以下、「立ち話をする程度のつきあいがある」(23.4%)、「近所づきあいはほとんどない」(19.7%)、「家を行き来するなど、親しいつきあいがある」(4.8%)の順となっている。

令和4年度調査と比較すると、「近所づきあいはほとんどない」は6.9ポイント減少している。

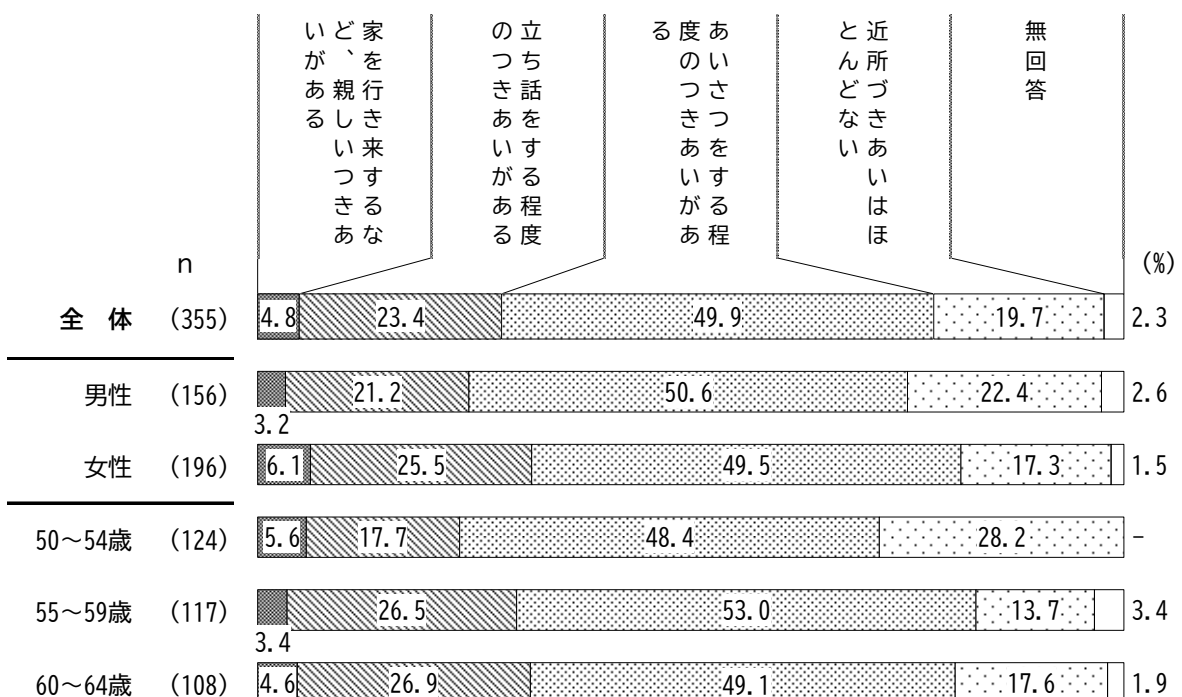
図表4-1 近所の人とのつきあいの程度(単数回答)



性別でみると、「立ち話をする程度のつきあいがある」は女性の方が男性より4.3ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「立ち話をする程度のつきあいがある」は年齢が上がるほど割合が高くなっている。

図表4-2 近所の人とのつきあいの程度/性別、年齢別

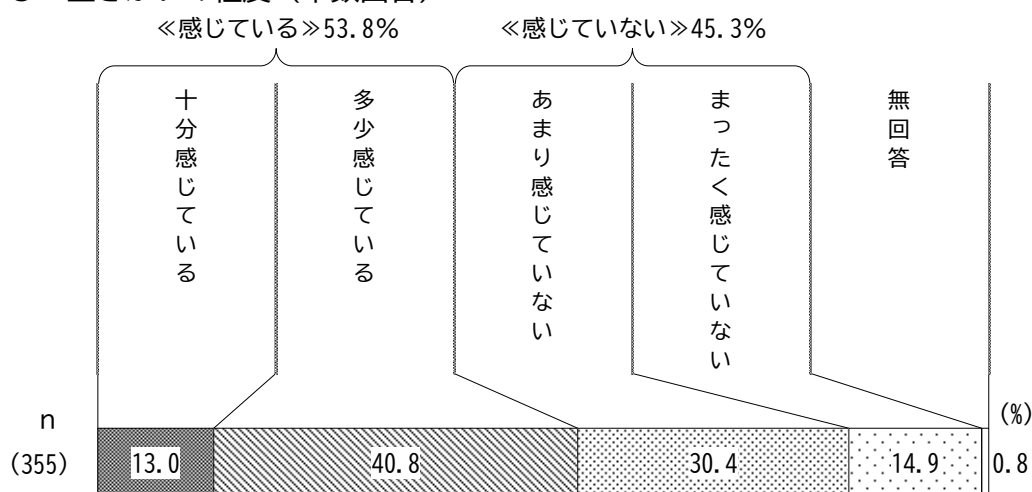


(2) 生きがいの程度

問21 あなたは、身近な人たちとの交流や趣味、就労、ボランティアなどを通じて生きがい（役立ち感や達成感など）を感じていますか。（1つに○）

生きがいの程度は、「多少感じている」が40.8%で最も高く、これに「十分感じている」（13.0%）を合わせた「感じている」は53.8%となっている。一方、「あまり感じていない」（30.4%）と「まったく感じていない」（14.9%）を合わせた「感じていない」は45.3%となっている。

図表4-3 生きがいの程度（単数回答）

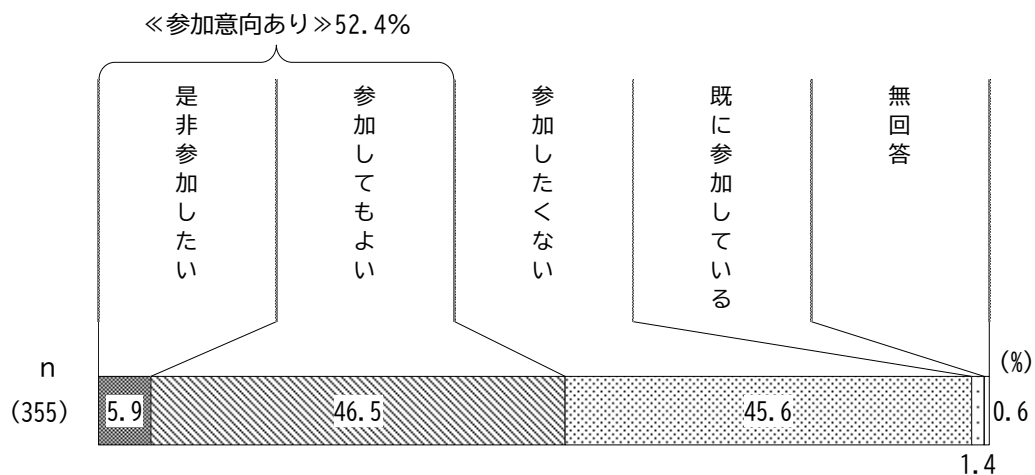


(3) 地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向

問22 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つに○)

地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向は、「参加してもよい」が46.5%で最も高く、これに「是非参加したい」(5.9%)を合わせた「参加意向あり」は52.4%となっている。一方、「参加したくない」が45.6%となっている。

図表4-4 地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向(単数回答)



(4) 参加者として参加したくない理由

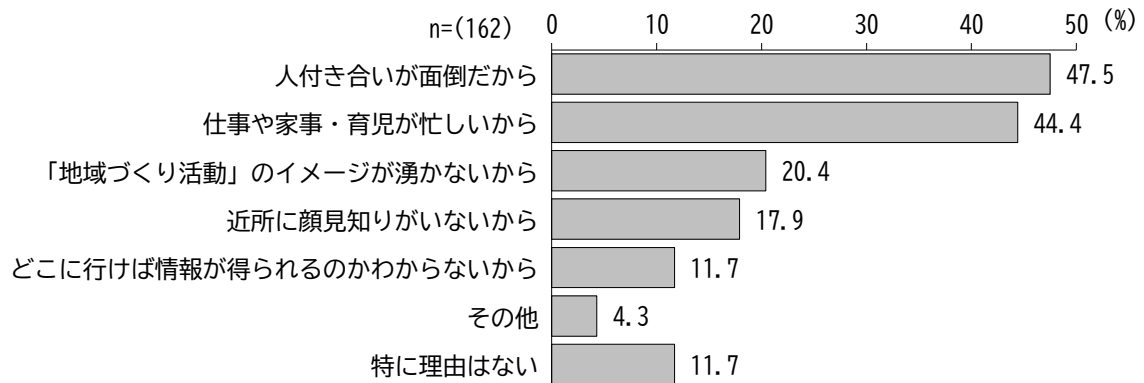
★参加したくないと思う方(問22で3に○)にうかがいます。

問22-1 参加したくないと思う理由を回答してください。

(あてはまるものすべてに○)

参加者として参加したくない理由は、「人付き合いが面倒だから」が47.5%で最も高く、次いで「仕事や家事・育児が忙しいから」(44.4%)、「「地域づくり活動」のイメージが湧かないから」(20.4%)、「近所に顔見知りがないから」(17.9%)となっている。

図表4-5 参加者として参加したくない理由(複数回答)

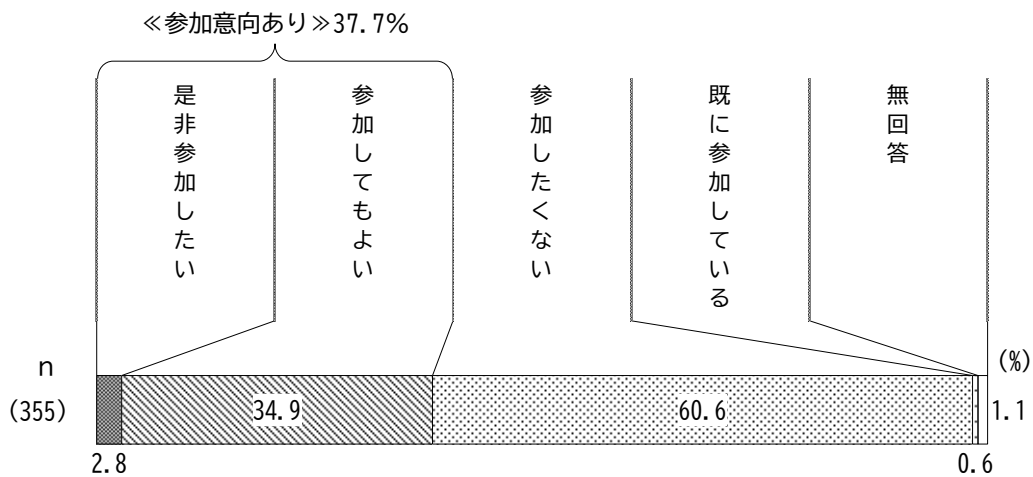


(5) 地域づくりを進める活動への企画・運営者としての参加意向

問23 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（1つに○）

地域づくりを進める活動への企画・運営者としての参加意向は、「是非参加したい」が2.8%、「参加してもよい」が34.9%で、これらを合わせた「参加意向あり」は37.7%となっている。一方、「参加したくない」が60.6%と最も高くなっている。

図表4-6 地域づくりを進める活動への企画・運営者としての参加意向（単数回答）



(6) 企画・運営者として参加したくない理由

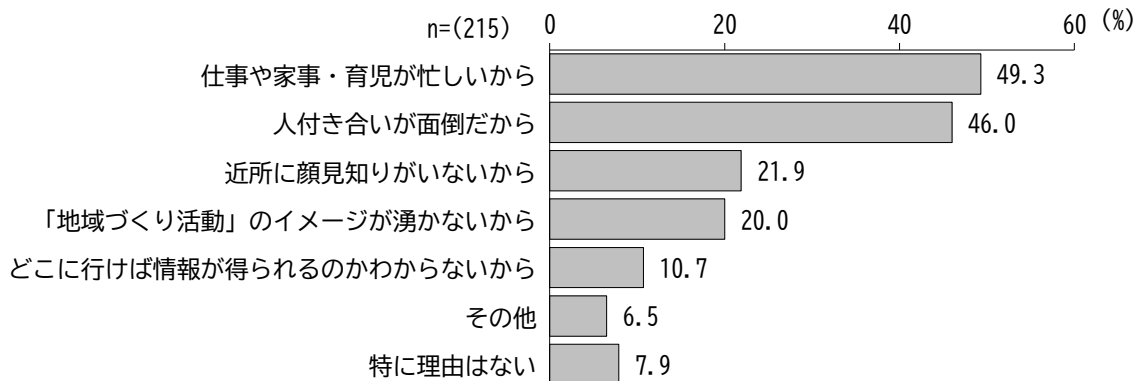
★参加したくないと思う方（問23で3に○）にうかがいます。

問23-1 参加したくないと思う理由を回答してください。

（あてはまるものすべてに○）

企画・運営者として参加したくない理由は、「仕事や家事・育児が忙しいから」が49.3%で最も高く、次いで「人付き合いが面倒だから」(46.0%)、「近所に顔見知りがないから」(21.9%)、「地域づくり活動」のイメージが湧かないから」(20.0%)となっている。

図表4-7 企画・運営者として参加したくない理由（複数回答）



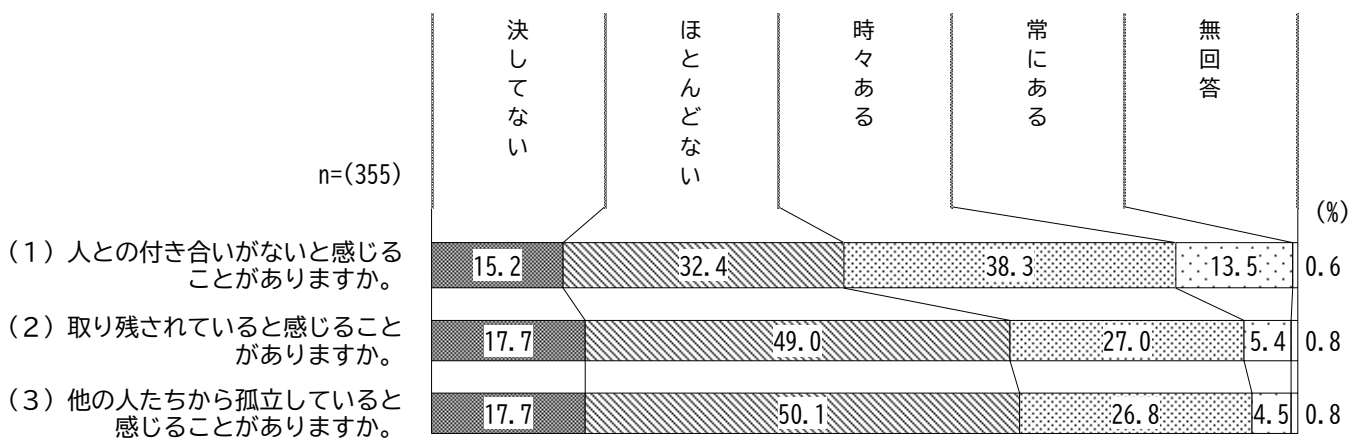
(7) UCLA孤独感尺度

問24 以下の設問にお答えください。(それぞれ1つに○)

- (1) 自分には人との付き合いがないと感じることがありますか。
- (2) 自分は取り残されていると感じることがありますか。
- (3) 自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

「ほとんどない」は“自分は取り残されていると感じる頻度”と“自分は他の人たちから孤立していると感じる頻度”で約5割と最も高く、「時々ある」は“自分には人とのつきあいが無いと感じる頻度”で38.3%と最も高くなっている。

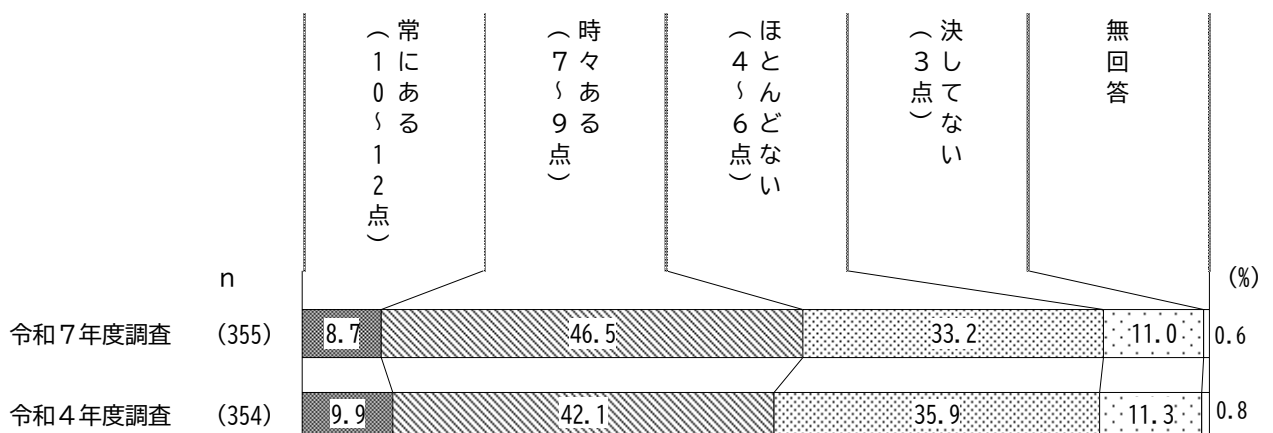
図表4-8 UCLA孤独感尺度(3項目短縮版)



UCLA孤独感尺度に基づく孤独感スコア※は、「時々ある(7~9点)」が46.5%で最も高く、次いで「ほとんどない(4~6点)」が33.2%、「決してない(3点)」が11.0%、「常にある(10~12点)」が8.7%となっている。

令和4年度調査と比較すると、「時々ある(7~9点)」は4.4ポイント増加している。

図表4-9 UCLA孤独感尺度に基づく孤独感スコア



※UCLA孤独感尺度については57ページを参照

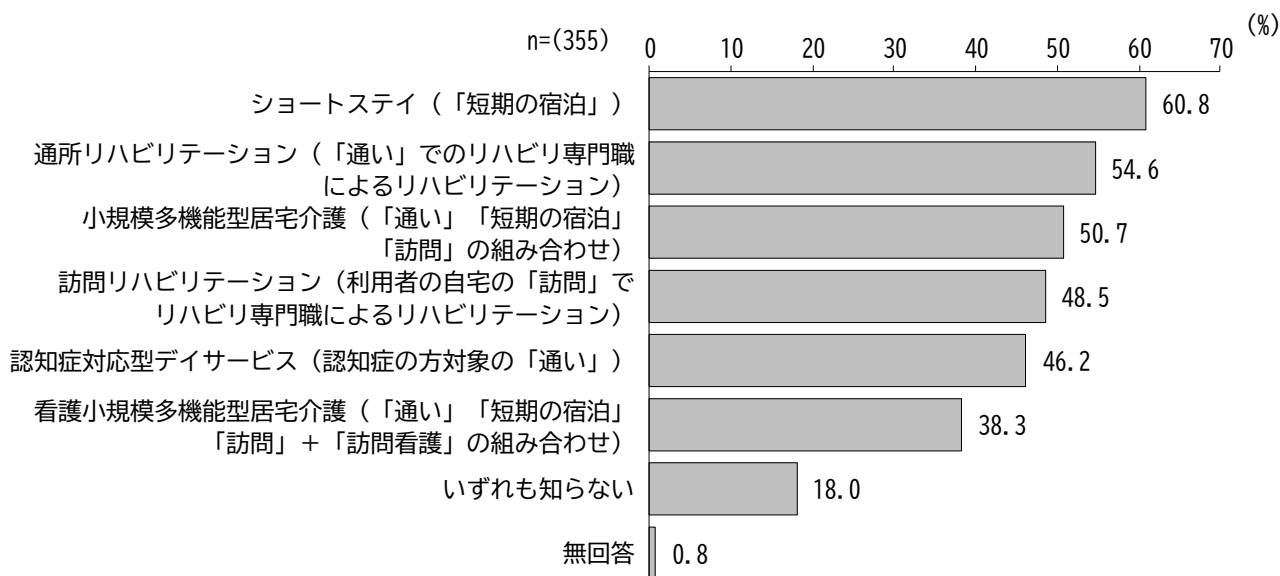
5 在宅介護、施設介護に関する意識について

(1) 在宅生活を支えるサービスの認知度

問25 在宅での介護生活を支えるサービスとして、施設への「通い」、短期間の「宿泊」や利用者の自宅への「訪問」といった方式があります。これらのサービスは在宅生活を支える上で重要なサービスと考えられますが、あなたの知っているサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)

在宅生活を支えるサービスの認知度は、「ショートステイ（「短期の宿泊」）」が60.8%で最も高く、次いで「通所リハビリテーション（「通い」でのリハビリ専門職によるリハビリテーション）」（54.6%）、「小規模多機能型居宅介護（「通い」「短期の宿泊」「訪問」の組み合わせ）」（50.7%）、「訪問リハビリテーション（利用者の自宅の「訪問」でリハビリ専門職によるリハビリテーション）」（48.5%）となっている。

図表5-1 在宅生活を支えるサービスの認知度（複数回答）



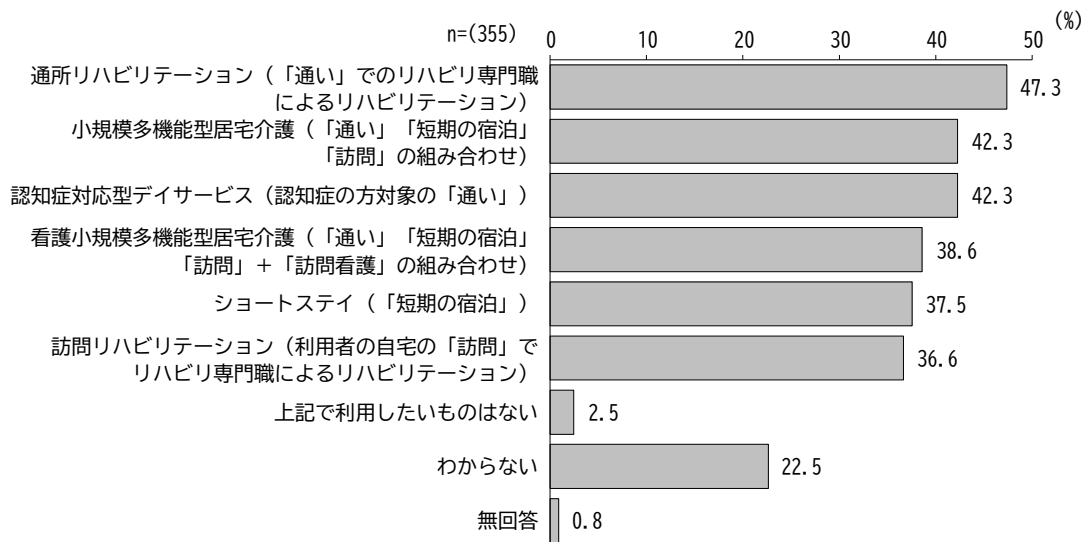
(2) 介護・医療・認知症ケアが必要になったときに利用したいサービス

問26 介護・医療・認知症ケアが必要になった場合、在宅生活を支えるサービスとして、問25の中で利用してみたいサービスはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

介護・医療・認知症ケアが必要になったときに利用したいサービスは、「通所リハビリテーション（「通い」でのリハビリ専門職によるリハビリテーション）」が47.3%で最も高く、次いで「小規模多機能型居宅介護（「通い」「短期の宿泊」「訪問」の組み合わせ）」と「認知症対応型デイサービス（認知症の方対象の「通い）」」がそれぞれ42.3%などとなっている。

図表5-2 介護・医療・認知症ケアが必要になったときに利用したいサービス（複数回答）

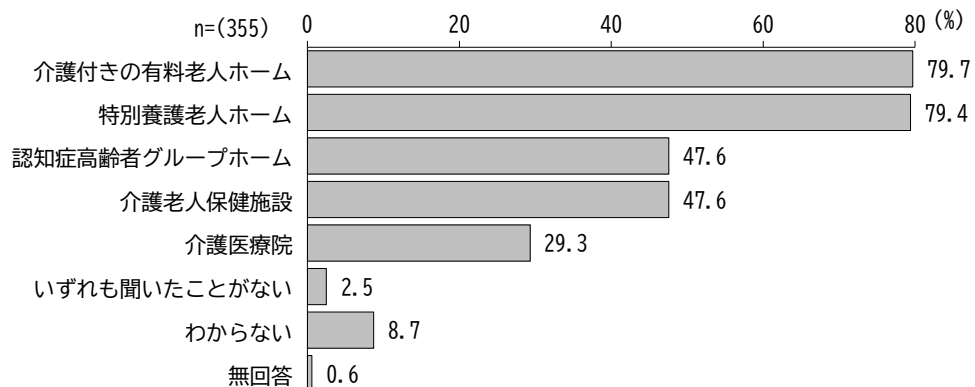


(3) 施設・居住系サービスの認知度

問27 在宅での生活が難しくなった方が入所（入居）する施設に、次のようなものがあります。この中で聞いたことがあるものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

施設・居住系サービスの認知度は、「介護付きの有料老人ホーム」が79.7%で最も高く、次いで「特別養護老人ホーム」が79.4%、「認知症高齢者グループホーム」と「介護老人保健施設」がそれぞれ47.6%などとなっている。

図表5-3 施設・居住系サービスの認知度（複数回答）

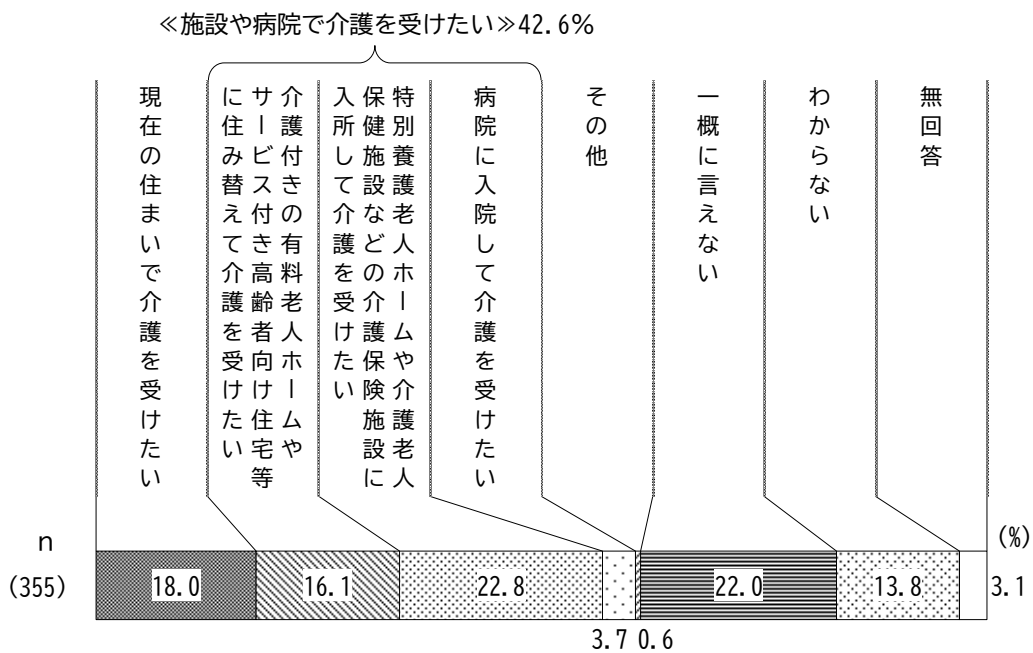


(4) 自分自身が介護を受けたい場所

問28 あなたご自身が老後に寝たきりや認知症になり、介護が必要となった場合に、どこで介護を受けたいと思いますか。(1つに○)

自分自身が介護を受けたい場所は、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けたい」が22.8%で最も高く、これに「介護付き有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等に組み替えて介護を受けたい」(16.1%)と「病院に入院して介護を受けたい」(3.7%)を合わせた「施設や病院で介護を受けたい」が42.6%となっている。また、「現在の住まいで介護を受けたい」が18.0%となっている。一方、「一概に言えない」が22.0%、「わからない」が13.8%となっている。

図表5-4 自分自身が介護を受けたい場所(単数回答)



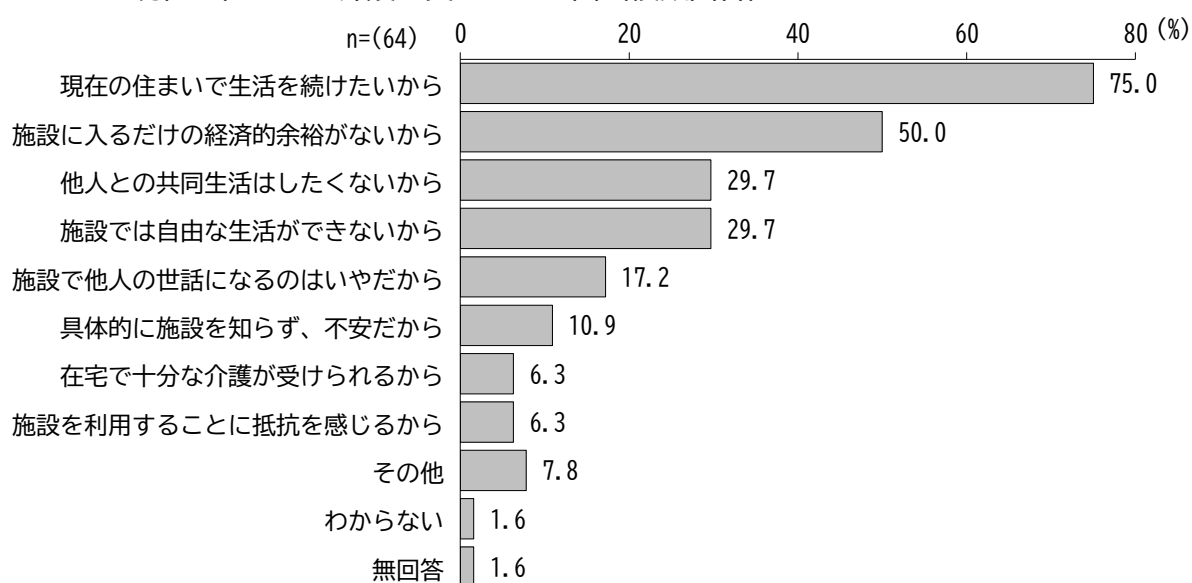
(5) 現在の住まいで介護を受けたい理由

★現在の住まいで介護を受けたい方（問28で1に○）にうかがいます。

問28-1 それはなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

介護が必要になった場合に、「現在の住まいで介護を受けたい」と回答した人に、その理由をたずねた。その結果、「現在の住まいで生活を続けたいから」が75.0%で最も高く、次いで「施設に入るだけの経済的余裕がないから」が50.0%、「他人との共同生活はしたくないから」と「施設では自由な生活ができないから」がそれぞれ29.7%などとなっている。

図表5-5 現在の住まいで介護を受けたい理由（複数回答）



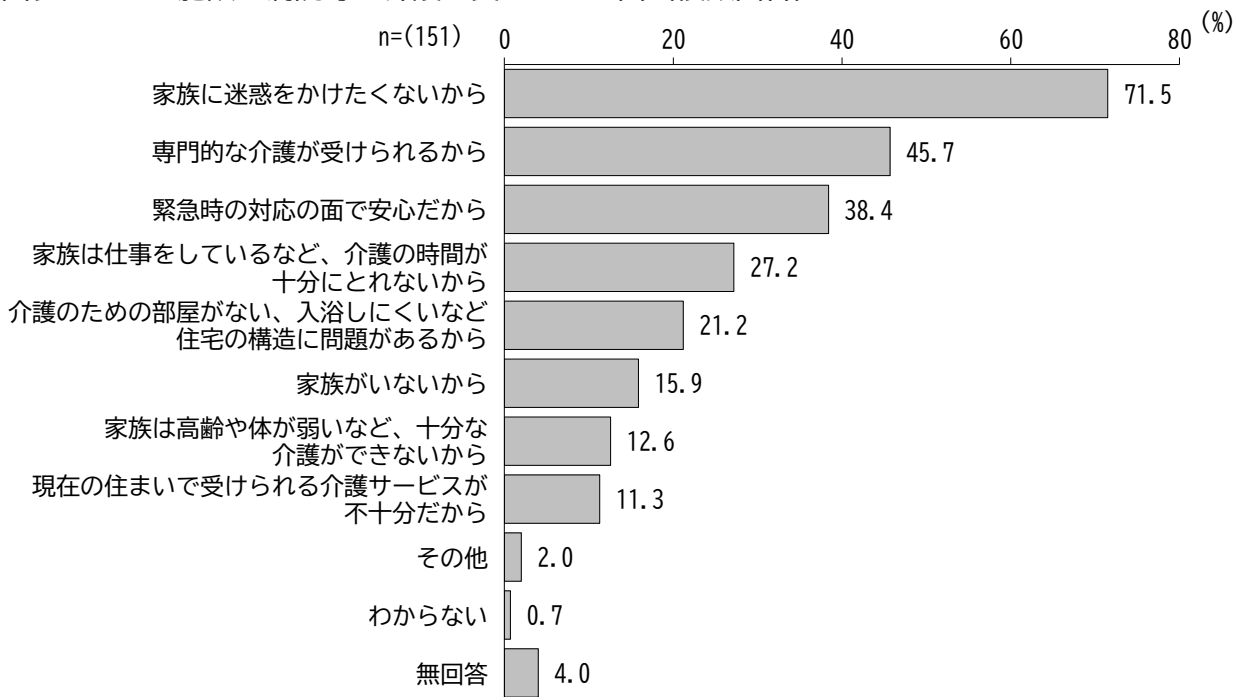
(6) 施設や病院等で介護を受けたい理由

★以下の問28-2、問28-3は、施設や病院等で介護を受けたい方（問28で2～4に○）にうかがいます。

問28-2 それはなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

介護が必要になった場合に、「介護付きの有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等に住み替えて介護を受けたい」、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けたい」、「病院に入院して介護を受けたい」と回答した人に、その理由をたずねた。その結果、「家族に迷惑をかけたくないから」が71.5%で最も高く、次いで「専門的な介護が受けられるから」が45.7%「緊急時の対応の面で安心だから」が38.4%などとなっている。

図表5-6 施設や病院等で介護を受けたい理由（複数回答）



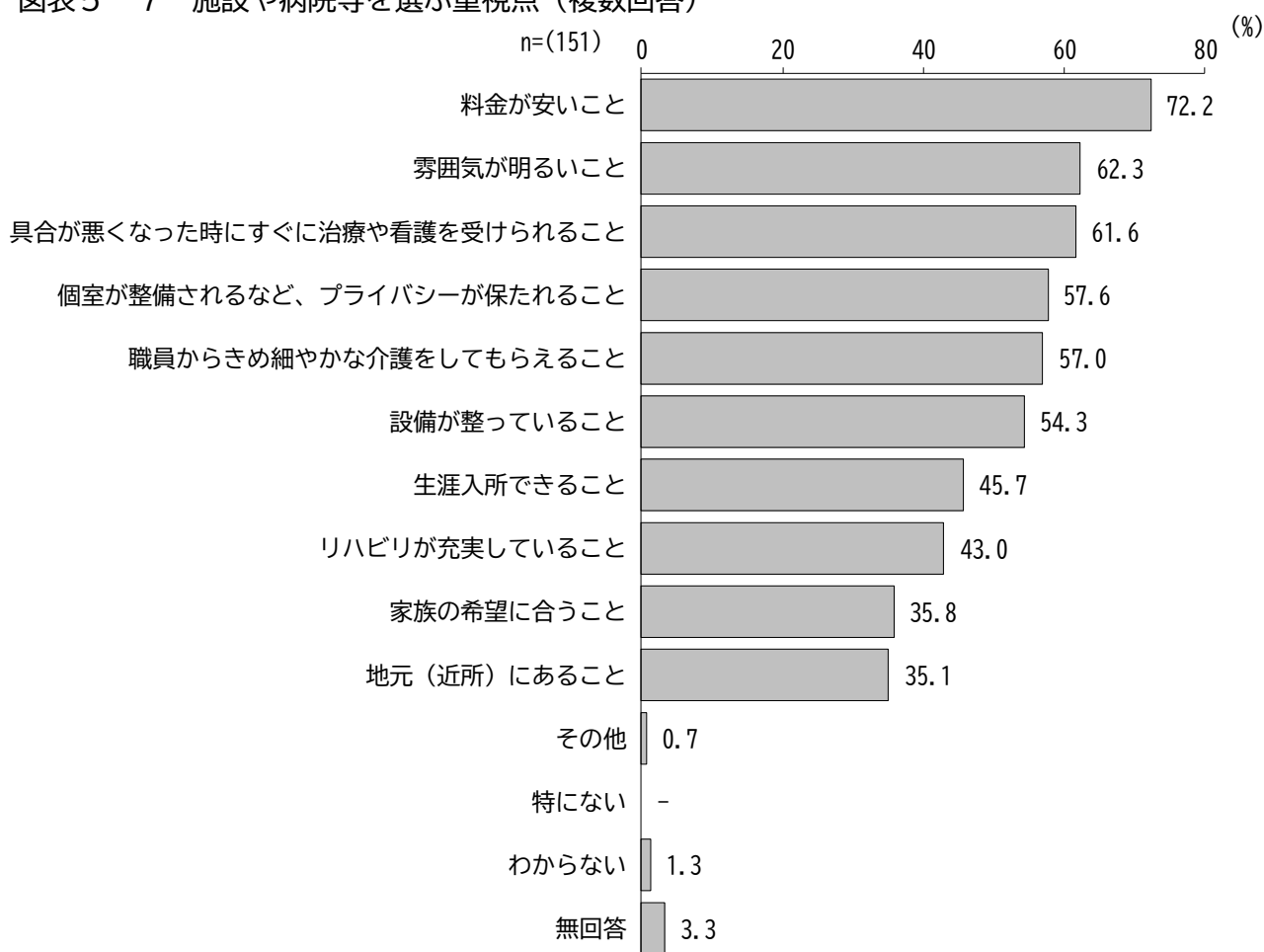
(7) 施設や病院等を選ぶ重視点

★以下の問28-2、問28-3は、施設や病院等で介護を受けたい方（問28で2～4に○）にうかがいます。

問28-3 あなたが施設を選ぶ際に重視したいことはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

介護が必要になった場合に、「介護付きの有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等に住み替えて介護を受けたい」、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けたい」、「病院に入院して介護を受けたい」と回答した人に、施設や病院等を選ぶ際の重視点をたずねた。その結果、「料金が安いこと」が72.2%で最も高く、次いで「雰囲気が良いこと」が62.3%、「具合が悪くなった時にすぐに治療や看護を受けられること」が61.6%、「個室が整備されるなど、プライバシーが保たれること」が57.6%などとなっている。

図表5-7 施設や病院等を選ぶ重視点（複数回答）

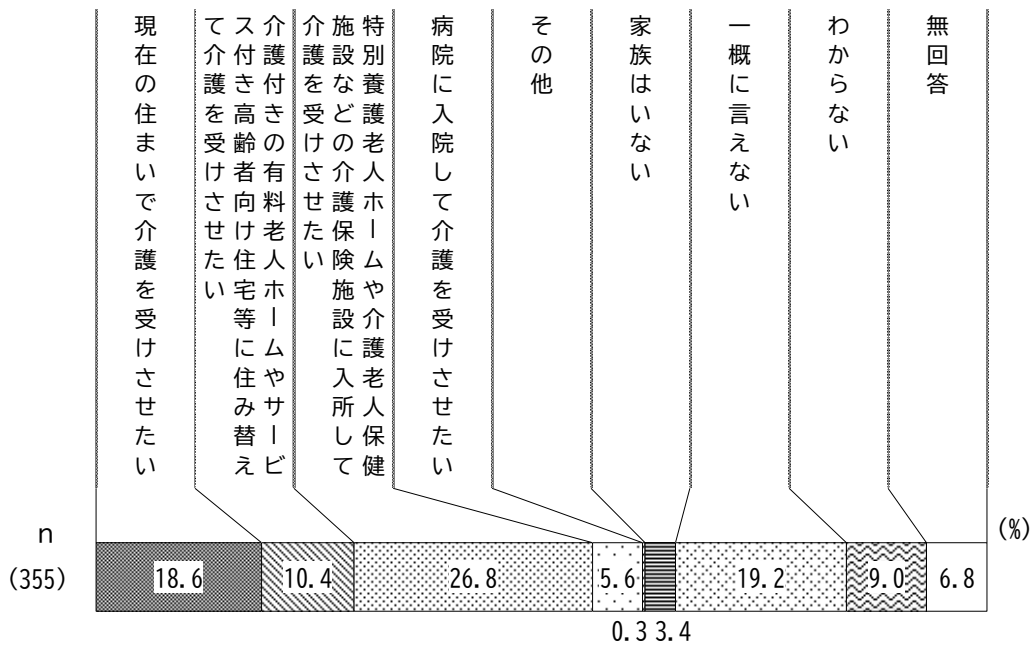


(8) 家族に介護を受けさせたい場所

問29 あなたのご家族が寝たきりや認知症になり、介護が必要となった場合に、どこで介護を受けさせたいと思いますか。(1つに○)

家族に介護を受けさせたい場所は、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けさせたい」が26.8%で最も高く、次いで「現在の住まいで介護を受けさせたい」が18.6%、「介護付き有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に住み替えて介護を受けさせたい」が10.4%などとなっている。なお、「一概に言えない」が19.2%、「わからない」が9.0%みられる。

図表5-8 家族に介護を受けさせたい場所（単数回答）



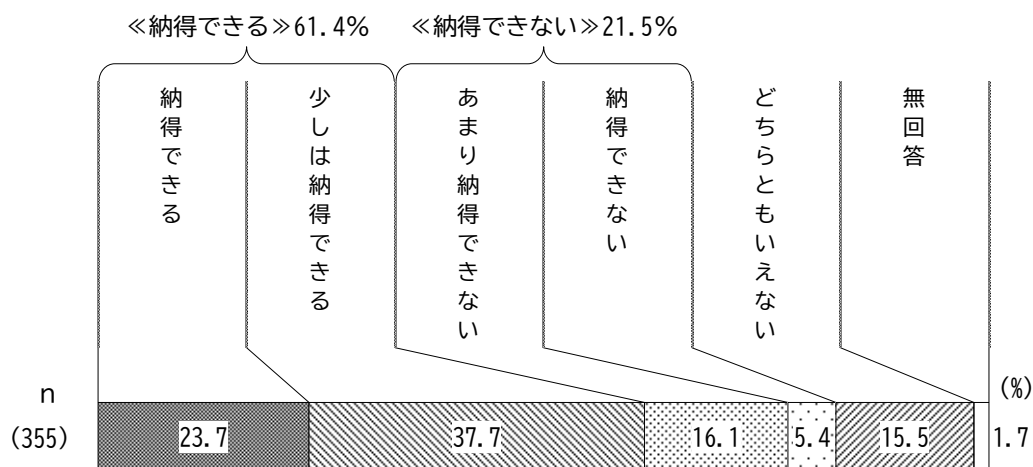
6 介護保険制度について

(1) 介護保険制度への納得感

問30 介護保険制度のしくみや保険料の負担感を踏まえたうえで、この制度について納得できますか。(1つに○)

介護保険制度への納得感は、「少し納得できる」が37.7%で最も高く、これに「納得できる」(23.7%)を合わせた「納得できる」は61.4%となっている。一方、「あまり納得できない」(16.1%)と「納得できない」(5.4%)を合わせた「納得できない」は21.5%となっている。

図表6-1 介護保険制度への納得感(単数回答)

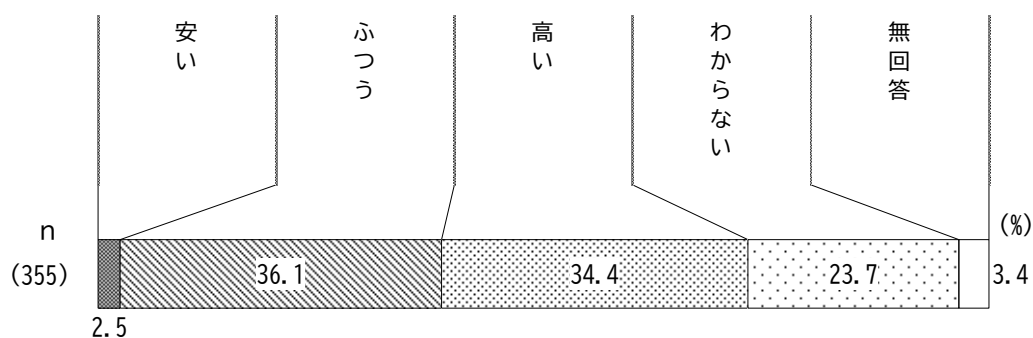


(2) 介護保険料についての考え

問31 前問を踏まえたうえで、介護保険の保険料について、どのように思いますか。(1つに○)

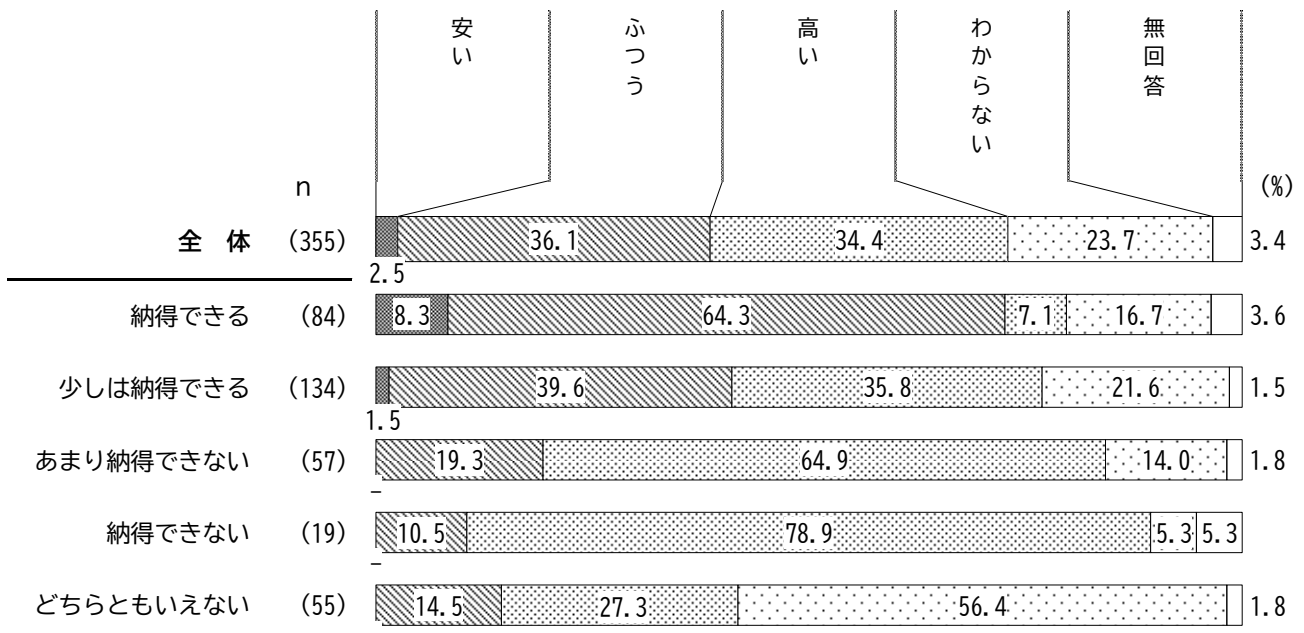
介護保険料については、「ふつう」が36.1%で最も高く、以下「高い」が34.4%、「わからない」が23.7%、「安い」が2.5%の順となっている。

図表6-2 介護保険料についての考え(単数回答)



介護保険制度への納得感別でみると、「高い」は介護保険制度への納得感が低いほど上がる傾向になっており、あまり納得できないで64.9%となっている。

図表6-3 介護保険料についての考え/介護保険制度への納得感別

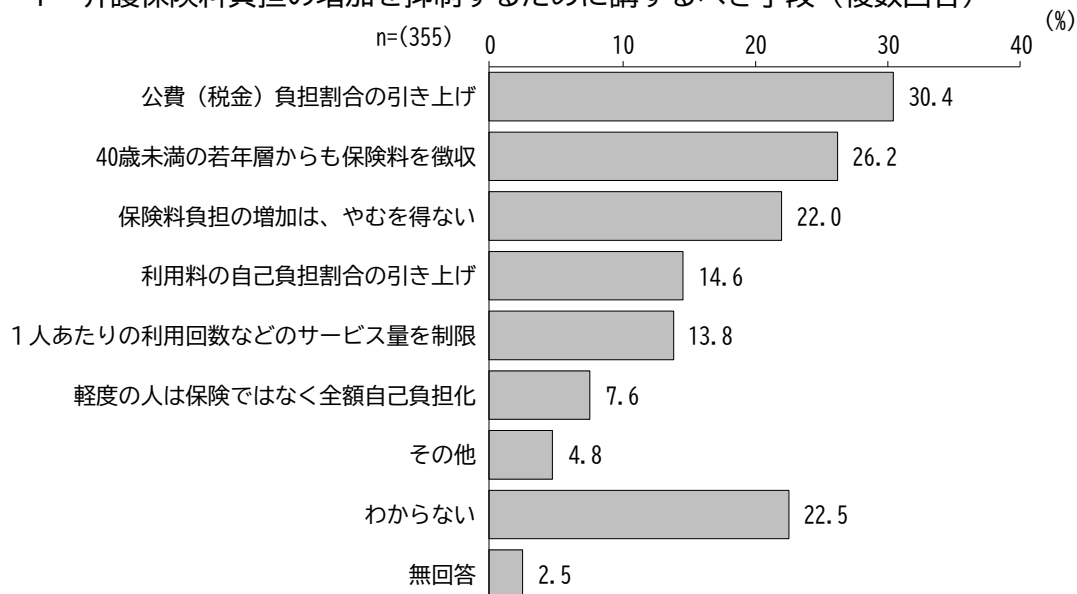


(3) 介護保険料負担の増加を抑制するために講ずるべき手段

問32 今後の介護保険料負担の増加を抑制するために、どのような手段を講ずるべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

介護保険料負担の増加を抑制するために講ずるべき手段は、「公費（税金）負担割合の引き上げ」が30.4%で最も高く、次いで「40歳未満の若年層からも保険料を徴収」が26.2%、「保険料負担の増加は、やむを得ない」が22.0%、「利用料の自己負担割合の引き上げ」が14.6%などとなっている。なお、「わからない」が22.5%となっている。

図表6-4 介護保険料負担の増加を抑制するために講ずるべき手段（複数回答）

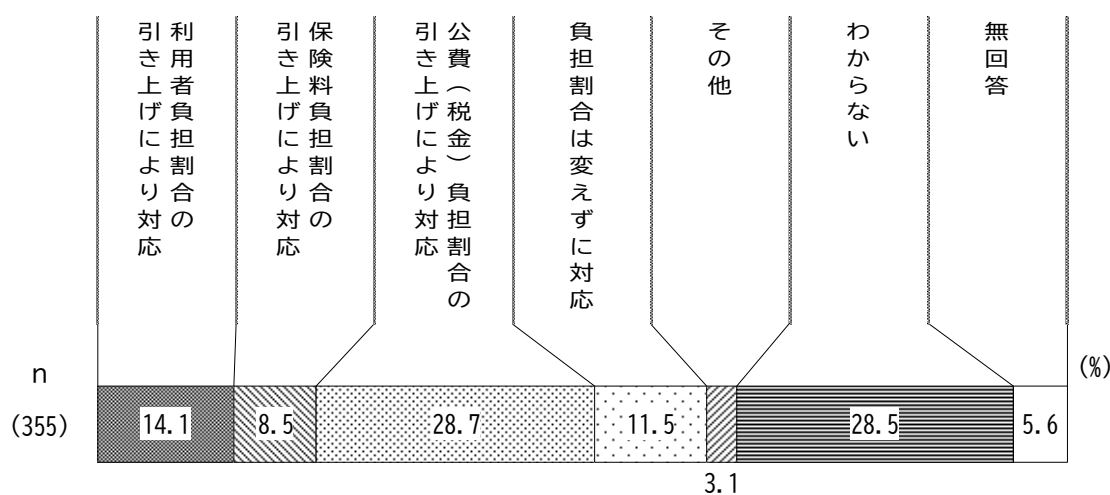


(4) 介護サービスを充実させた際の費用負担についての考え

問33 今後、超高齢社会を迎えるにあたり、介護サービスをより一層充実させていく場合には、利用料、介護保険料、公費（税金）負担がさらに増えることとなります。その際、大幅に増大する費用をどのように負担していくべきだと思いますか。（1つに○）

介護サービスを充実させた際の費用負担についての考えは、「公費（税金）負担割合の引き上げにより対応」が28.7%で最も高く、次いで「利用者負担割合の引き上げにより対応」（14.1%）、「負担割合は変えずに対応」が11.5%、「保険料負担割合の引き上げにより対応」が8.5%などとなっている。

図表6-5 介護サービスを充実させた際の費用負担についての考え（単数回答）



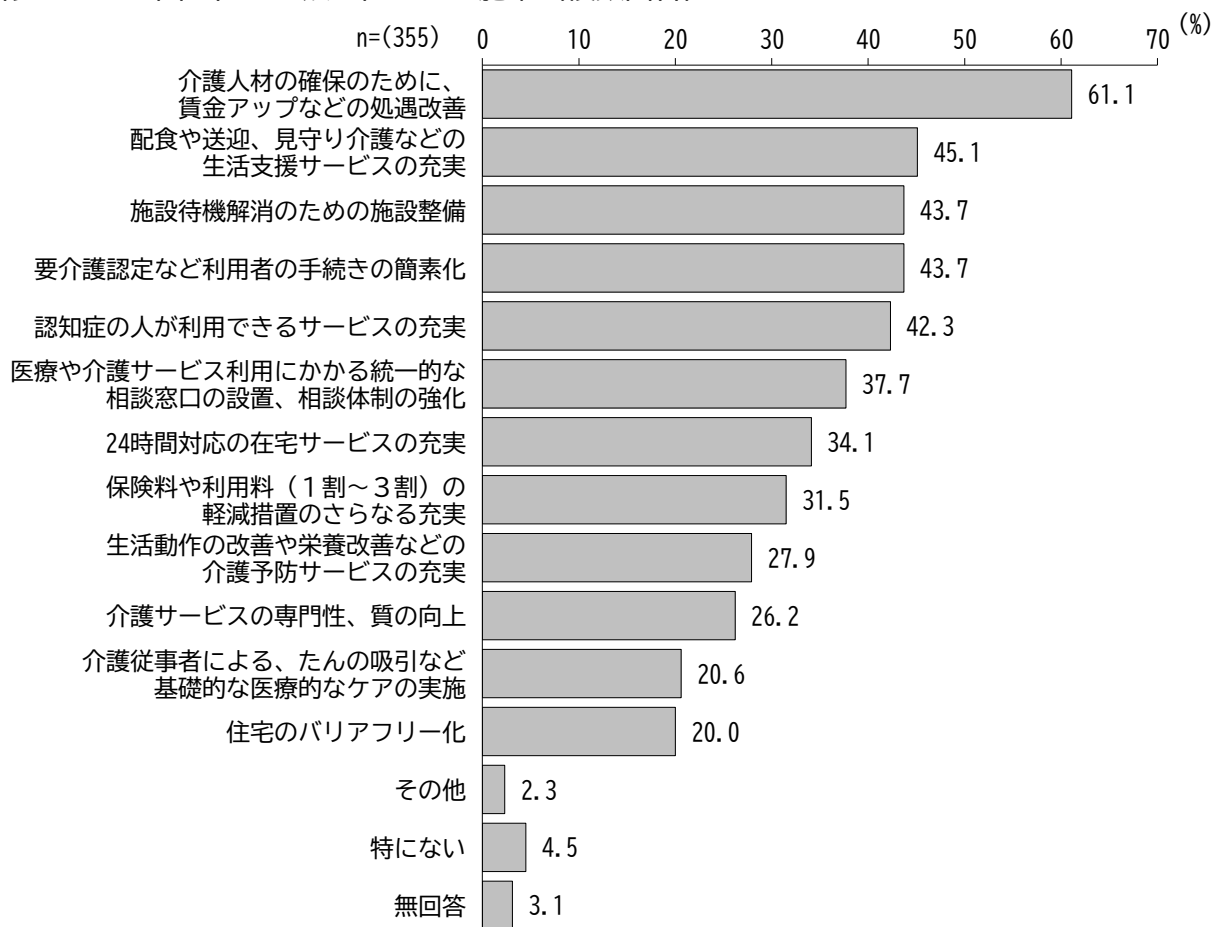
7 行政に対する要望について

(1) 国や区が重点を置くべき施策

問34 今後、増加が予想される介護を必要とする高齢者のために、国や区はどのような施策に重点を置くべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

国や区が重点を置くべき施策は、「介護人材の確保のために、賃金アップなどの処遇改善」が61.1%で最も高く、次いで「配食や送迎、見守り介護などの生活支援サービスの充実」が45.1%、「施設待機解消のための施設整備」と「要介護認定など利用者の手続きの簡素化」がそれぞれ43.7%などとなっている。

図表7-1 国や区が重点を置くべき施策（複数回答）



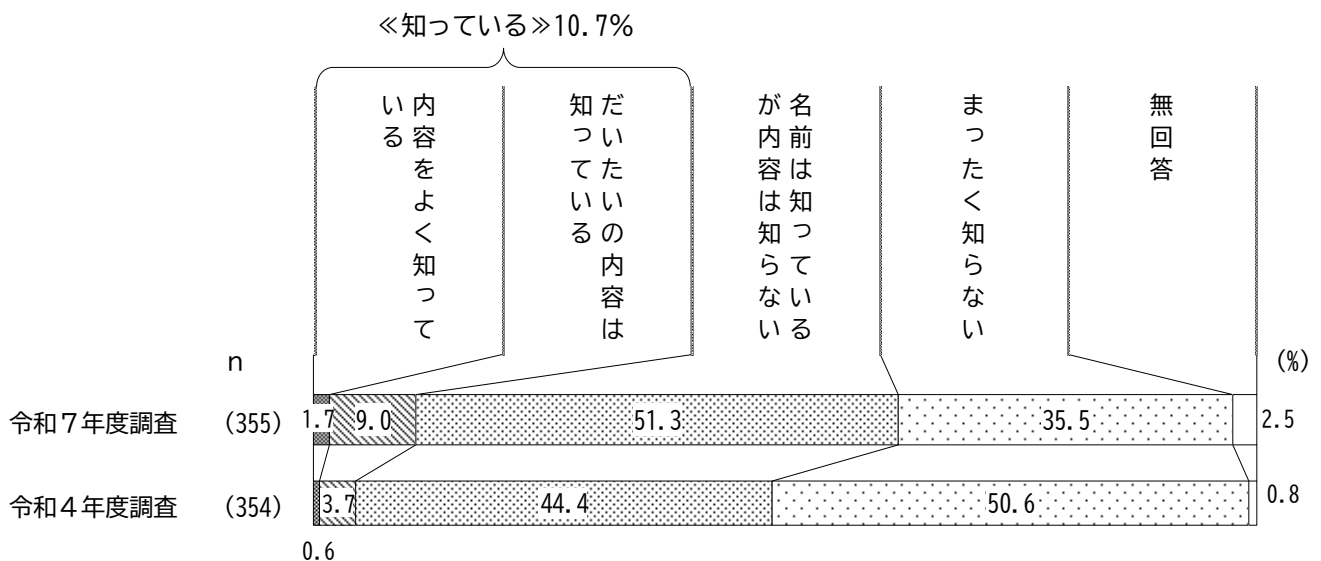
(2) なごみの家の認知度

問35 あなたは、「なごみの家」についてどのくらい知っていますか。(1つに○)

なごみの家の認知度は、「内容をよく知っている」が1.7%、「だいたいの内容は知っている」が9.0%で、これらを合わせた「知っている」は10.7%であり、「名前は知っているが内容は知らない」が51.3%となっている。一方、「まったく知らない」が35.5%となっている。

令和4年度調査と比較すると、「名前は知っているが内容は知らない」は6.9ポイント増加している。一方、「まったく知らない」は15.1ポイント減少している。

図表7-2 なごみの家の認知度(単数回答)

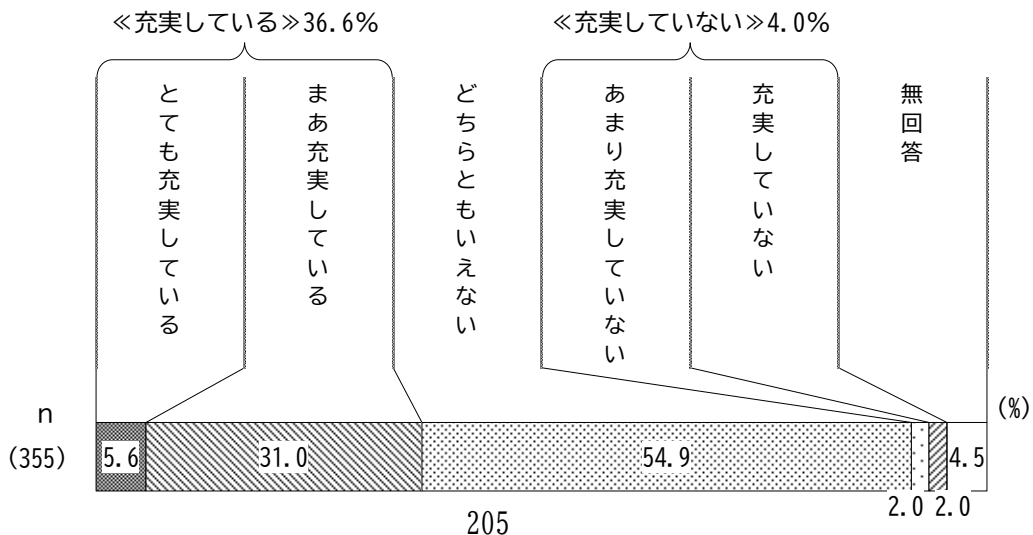


(3) 区の高齢者施策の充実度

問36 江戸川区の高齢者施策について、あなたはどのように感じますか。(1つに○)

区の高齢者施策の充実度では、「とても充実している」が5.6%、「まあ充実している」が31.0%で、これらを合わせた「充実している」は36.6%である。「どちらともいえない」が54.9%と最も高くなっており、「あまり充実していない」(2.0%)と「充実していない」(2.0%)を合わせた「充実していない」は4.0%となっている。

図表7-3 区の高齢者施策の充実度(単数回答)

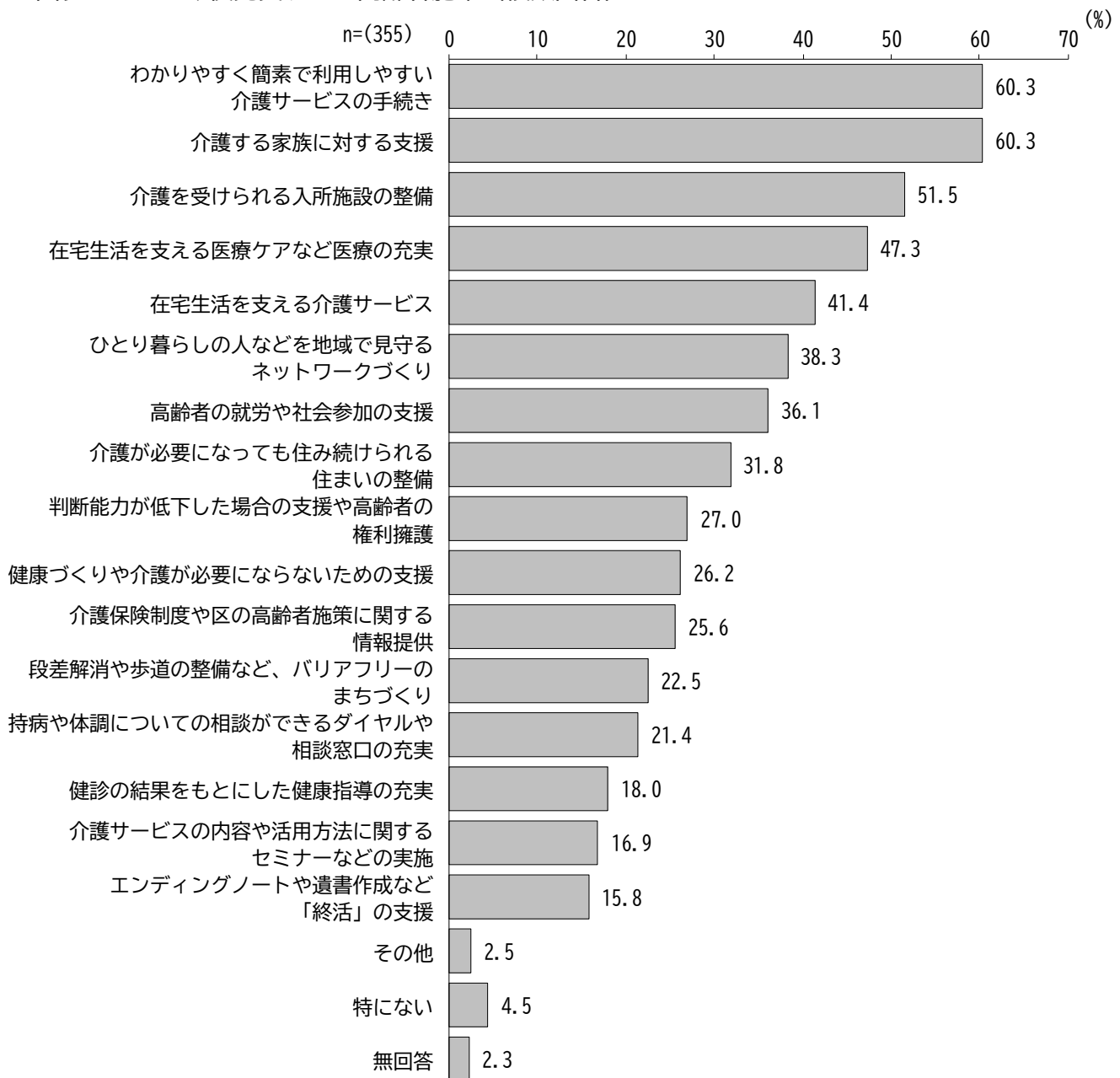


(4) 今後充実すべき高齢者施策

問37 江戸川区が今後充実すべきと思う高齢者施策は、次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

今後充実すべき高齢者施策では、「わかりやすく簡素で利用しやすい介護サービスの手続き」「介護する家族に対する支援」がともに60.3%で最も高く、次いで「介護を受けられる入所施設の整備」(51.5%)、「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」(47.3%)、「在宅生活を支える介護サービス」(41.4%)などとなっている。

図表7-4 今後充実すべき高齢者施策（複数回答）



(5) 区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

区政への意見、要望をいただいたので、その一部を抜粋して掲載する。

【1】 区の高齢者施策について (37件より抜粋)

- ・区内各所(20~30ヶ所位)で、週1でもいいのでラジオ体操を行ってほしいです。人のおしゃべりの機会が確保できますし、健康維持のためにも日課があることは、高齢者にとって大切だと思います。それから、なごみの家と図書館の増設を希望します。子供達だけでなく、ご年配の方の大切な居場所になっていると思うからです。
- ・介護施設で看取りまで対応していただけると助かると思います。有料老人ホームで見取りの対応はしてもらえますが、料金が高く、負担がとても大きいです。
- ・高齢といっても個人差が有ると思うので、働けるうちは働きたいと考えています。介護も大事ですが、高齢者の就労についても考えてもらえると助かります。

【2】 区からの情報提供について (13件より抜粋)

- ・昔から、問い合わせ・相談をこちらから行なわない限り、区は動いてくれないというイメージが昔から有ります。情報提供のあり方に工夫が欲しいと思います。
- ・介護サービスに関するセミナーのようなものがあると、現在元気な高齢者が参加して、自分の老後に対しての不安が少なくなると思います。
- ・今後高齢者が増加していく中、財源の確保、介護人材の確保など、江戸川区で暮らして行く上で、明るい未来、安心して生活できるように情報発信していただきたいです。

【3】 介護人材の確保・待遇改善について (3件より抜粋)

- ・ケアマネジャーの質の向上を望みます。

【4】 移動手段の整備・充実 (2件より抜粋)

- ・区内の移動手段の検討をしていただきたいです。特に新中川沿い、北小岩周辺の住民の移動に関して、バス路線の拡大、コミュニティバス路線の新設が必要かと思います。また、都道451号線の歩道は拡幅が必要です。現状は車いすが通行できる歩道の幅はありません。拡幅が困難であれば、貨物車(1ナンバー)の通行を規制してください。現在は、大型貨物車両のみ規制しているようですが事故が多いです。

【5】 その他の区に対する意見や要望 (23件より抜粋)

- ・江戸川区育ちでこの区を大切に思っております。住みやすい町にさせていただいてありがとうございます。
- ・草刈りをまめにしてください。通行帯が狭くなり、歩道を通行する自転車が多くなってしまいます。歩行者が自転車を避けなければならない状態を改善してください。歩く事を推奨するのであれば、是非これに力を入れて取り組んで下さい。安価な業者でなく工事の仕様を厳格に提示して、遂行可能な業者に発注して下さい。江戸川区に在住20年以上になりますが、最近は少し草刈りが雑になった気がしています。

- ・住民の意見や生活を踏まえた事業を実施してください。急勾配の階段や狭過ぎる歩道の設置に税金を投入してほしくありません。高齢者は若い人とすれ違いざまに軽く触れても飛ばされます。歩く速度が違いすぎるので、当たれば骨が折れてしまう場合もあります。スマホなど操作しながらの「ながら歩き」が多い世の中、こうした人たちを注意することも必要ですが、それよりも先に歩きやすい歩道とスロープを作ってください。